取扱説明書（本体編）

もくじ

もくじ 1

ご使用になる前に 3

はじめに 4

安全にご利用になるために 5

製品仕様 8

構成部品の紹介 10

各部の名称と働き 17

電源の供給方法について 21

充電について 24

G-scanの準備 26

車両と接続します 27

電源のON/OFF 29

G-scanの基本操作 31

画面構成 32

保存データ 38

OBD-Ⅱ診断 42

車両診断 45

本体設定 46

ユーザガイド 60

PCユーティリティソフトウェア 63

インストール 64

起動 68

レコードデータビューア 69
レコードイメージビューア 92
ソフトウェアアップデート 100
SDカード初期化 103
環境設定 107
消耗品の交換方法 113
リチウムイオンバッテリ 114
シガライタ電源ケーブルのヒューズ 117

ご使用になる前に

はじめに……P4
安全にご利用になるために ……P5
製品仕様……P8
構成部品のご紹介 ……P10
各部の名称と働き ……P17
電源の供給方法について ……P21
充電について ……P24

はじめに

ご使用になる前に

本取扱説明書では、G-scan本体の使用方法、PCユーティリティソフトウェアに関してご説明させていただきます。

G-scanをご使用の前に本取扱説明書をよくお読みのいただき、正しく安全にお使いください。また、各診断ソフトの使用方法に関しては各メーカ別取扱説明書をご参照ください。

株式会社インターサポート

安全にご利用になるために

ご使用になる前に

■ 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。

■ 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。

⚠ 警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態が見られる場合は、すぐに電源を切り、感電や火傷に注意しながらバッテリパックを速やかに取り外してください。車両のシガライタソケット、バッテリ端子、または診断コネクタから電源を供給している場合は、必ず電源(シガライタ)プラグをソケット、バッテリ端子からワニロクリップを、または接続した診断コネクタを車両から取り外してください。火災や感電の原因となります。
- G-scan本体を分解または改造しないでください。また、ご利用の際は、指定された付属品のみをご利用ください。
- G-scan本体を濡らさないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。
- 異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。感電や火災の原因となります。すぐに電源を切り、感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリパックを取り外してください。車両のシガライタソケット、バッテリ端子、または診断コネクタから電源を供給している場合は、必ず電源(シガライタ)プラグをソケット、バッテリ端子からワニロクリップを、または接続した診断コネクタを車両から取り外してください。火災や感電の原因となります。
- LCD(液晶画面)が破損した場合、中の液晶には十分ご注意ください。万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は、すぐに水で洗い流してください。
- リチウムイオンバッテリの液漏れ、発熱、発火、破損防止のため次のことをお守りください。
  - G-scan本体で指定しているリチウムイオンバッテリ以外は、使用しないでください。
  - リチウムイオンバッテリを水の中へ落としたり、濡らしたりしないように注意してください。
  - リチウムイオンバッテリは火の中に入れたり、ショート、分解、加熱しないでください。
  - リチウムイオンバッテリが異臭、発熱、変形、変色等の異常な兆しをみせた場合、使用を止め、作動を停止させてすぐにリチウムイオンバッテリを取り外してください。

注意

- G-scan本体を不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いたところ等、固定できない場所）に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガをする恐れがあります。
- G-scanを湿気やほこりの多い場所に置かないでください。感電や火災の恐れがあります。
- タッチ画面をご利用になるときは、付属のタッチペンをご利用ください。付属のタッチペン以外の先端が固くとがった物でタッチするとタッチパネル及び液晶画面が破損する恐れがあります。

製品仕様

G-scan本体

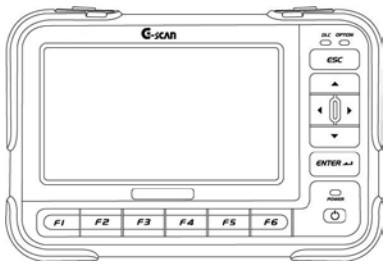
項目		仕様
CPU		ARM9(400MHz)/ARM9(266MHz) デュアルCPU
メモリ		NOR フラッシュメモリ 16MB
		NAND フラッシュメモリ 64MB
		SDRAMメモリ 32MB×2
外部メモリ		2GB SDカード
温度範囲	動作時	0℃～45℃ : 電池充電時
		0℃～50℃ : 電池放電時
	保管時	-10℃～70℃
相対湿度	動作時	結露無し 0℃～10℃
		90%RH 10℃～30℃
		70%RH 30℃～50℃
	保管時	結露無し -10℃～70℃
ディスプレイ		5.6インチ TFT LCD (480×234pixel)
入力操作部		タッチパネル, 電源ON/OFFボタン, ENTERボタン, ESCボタン, ↑, ↓, ←, →ボタン, F1～F6ボタン
外部電源供給表示灯		2色LED×3(Power, DLC, Option)
ブザー		1トーン
電池		Li-Ion Polymer 2100mAh 1cell
動作電圧		7～35V DC
ケース材質		PC+ABS & TPEシュラウド
外形寸法		194(W)×129(H)×59(D)mm
重量		約900g
PCインターフェース		USB Host, USB Slave
車両インターフェース(CAN)		ISO-11898, ISO-11519, SAE-J2411
車両インターフェース (K-Line/L-Line)		ISO-9141, ISO-9141-CARB, KWP-2000, SAE-J1850
商用車用途インターフェース		SAE-J1708, RS-232C
メーカ専用インターフェース		Melco Pull-Down UART

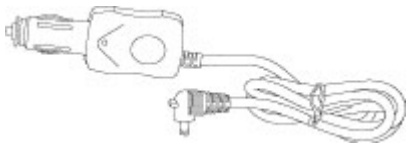
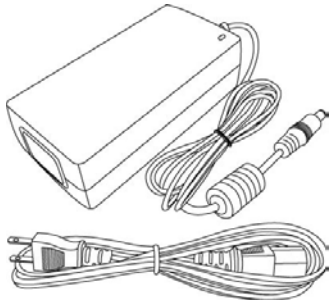
AC/DCアダプタ

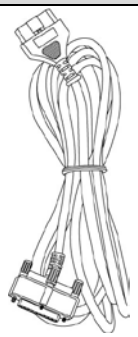
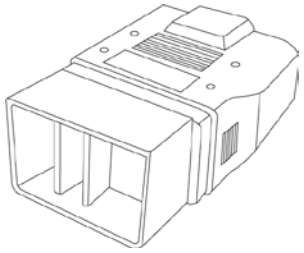
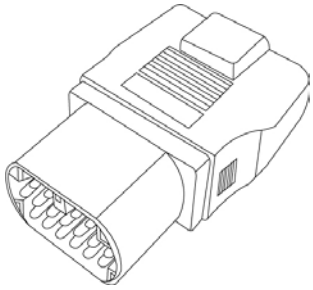
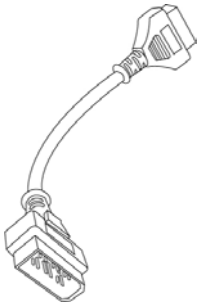
項目	仕様
入力電圧	100～240V AC（50/60Hz）
入力電流	1A
出力電圧	12V DC
出力電流	4A

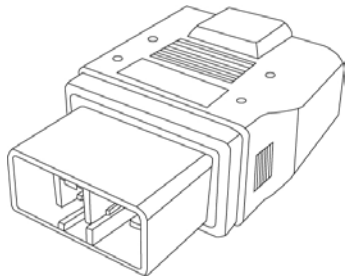
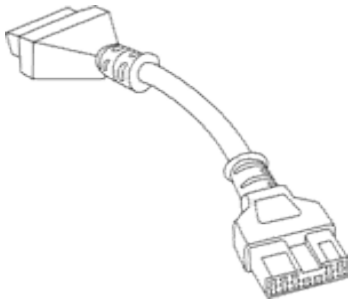
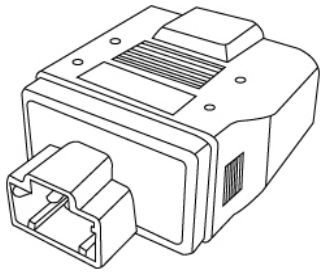
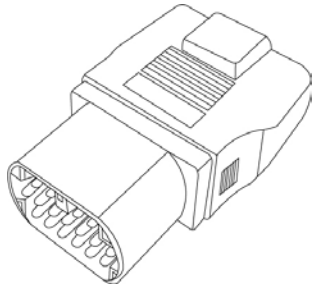
構成部品の紹介

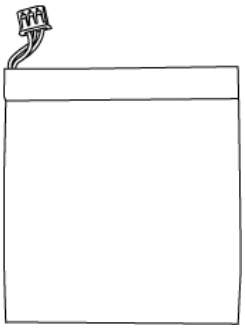
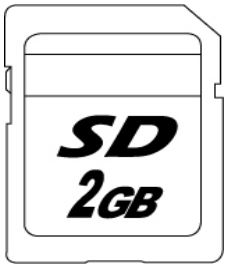
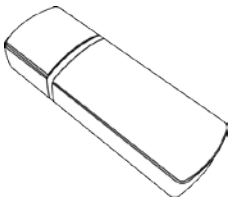
ご使用になる前に

外観	品名	数量
	・ 部品名： G-scan ・ 部品番号： G1PZFMN001	1
	・ 部品名： タッチペン ・ 部品番号： G1PDDMK020	2
	・ 部品名： ストリング ・ 部品番号： G1PDDMN003	1
	・ 部品名： ハンドストラップ ・ 部品番号： G1PDDMN002	1

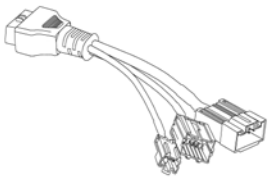
外観	品名	数量
	・ 部品名: PCユーティリティソフトCD ・ 部品番号: G1PZFDP001	1
	・ 部品名: 収納ケース ・ 部品番号: G1PZFHA001	1
	・ 部品名: シガライタ電源ケーブル ・ 部品番号: G1PZFCA002	1
	・ 部品名: バッテリケーブル ・ 部品番号: G1PZFCA004	1
	・ 部品名: AC/DCアダプタ ・ 部品番号: G1PZFPA010	1

外観	品名	数量
	・ 部品名: DLCメインケーブル ・ 部品番号: G1PZFCA001	1
	・ 部品名: 本体セルフテスト用カプラ ・ 部品番号: G1PZFPA009	1
	・ 部品名: TOYOTA 17P S ・ 部品番号: G1PZFPA001	1
	・ 部品名: TOYOTA 17P R ・ 部品番号: G1PZFPA002	1
	・ 部品名: NISSAN 14P ・ 部品番号: G1PZFPA007	1

外観	品名	数量
	・ 部品名: SUBARU 9P ・ 部品番号: G1PZFPA005	1
	・ 部品名: MITSUBISHI 12P ・ 部品番号: G1PZFPA006	1
	・ 部品名: HONDA 3P ・ 部品番号: G1PZFPA003	1
	・ 部品名: MAZDA 17P ・ 部品番号: G1PZFPA004	1
	・ 部品名: バッテリパック ・ 部品番号: G1PZFMN003	1

外観	品名	数量
	部品名：リチウムイオンバッテリ （バッテリパック内） ・ 部品番号：G1PZFMN004	1
	・ 部品名：清掃クロス ・ 部品番号：G1PDDMN005	1
	・ 部品名：SDカード ・ 部品番号：A2MDT2SD102	1
	・ 部品名：SDカードリーダ ・ 部品番号：A2MDK1NMSD1	1
–	部品名：取扱説明書（CR-ROM版） ・ 部品番号：G1PZFDN001	1

オプション別売品

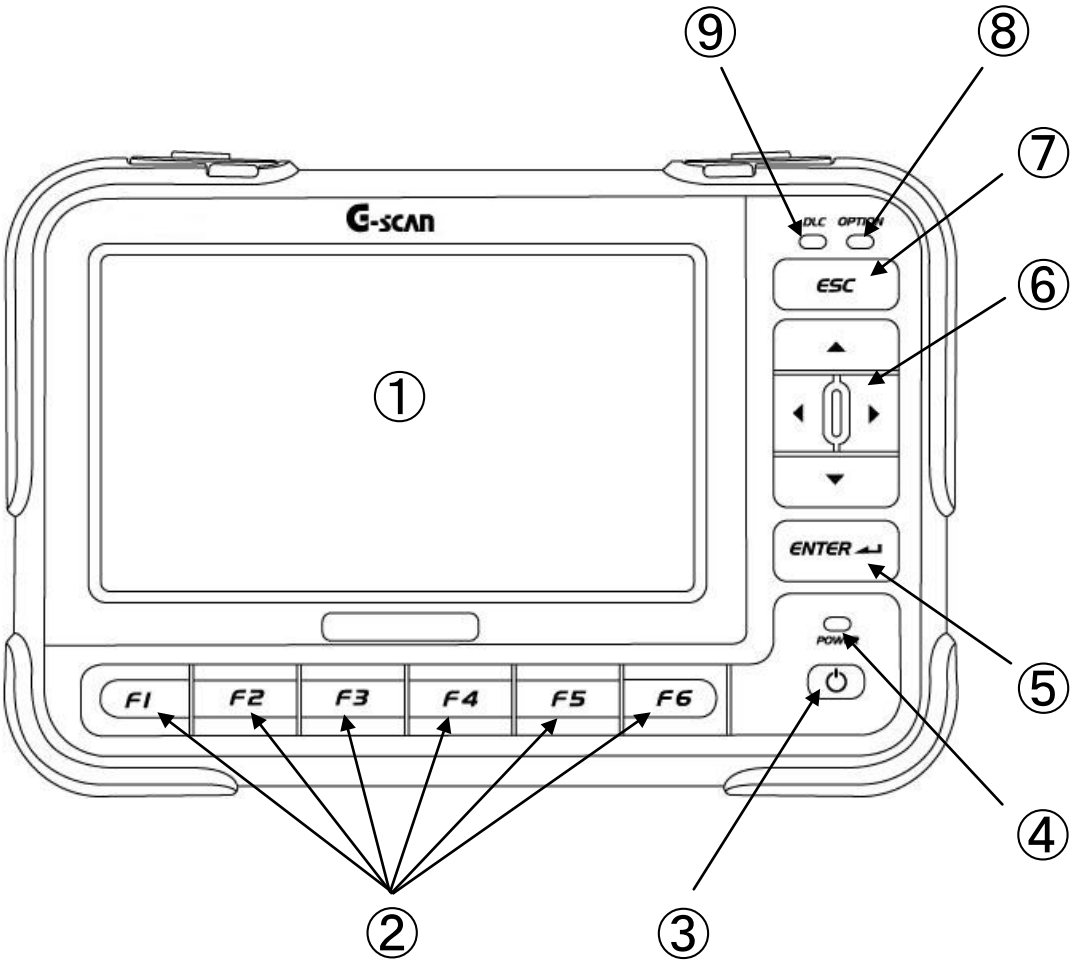
外観	品名	数量
	・ 部品名: BENZ 38P ・ 部品番号: G1PZEPA003	1
	・ 部品名: BMW 20P ・ 部品番号: G1PZEPA001	1
	・ 部品名: AUDI/VW 4P ・ 部品番号: G1PZEPA002	1
	・ 部品名: ISUZU 3P/10P/20P ・ 部品番号: G1PZDPA005	1

外観	品名	数量
	・ 部品名： BENZ 14Pレトロカプラ ・ 部品番号： G2Wf DDCN006	1
	・ 部品名： モバイルプリンター ・ 部品番号： G1PDDMNP20U	1

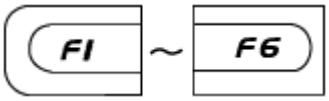
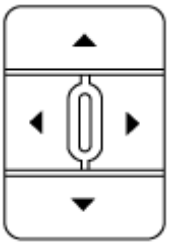
各部の名称と働き

ご使用になる前に

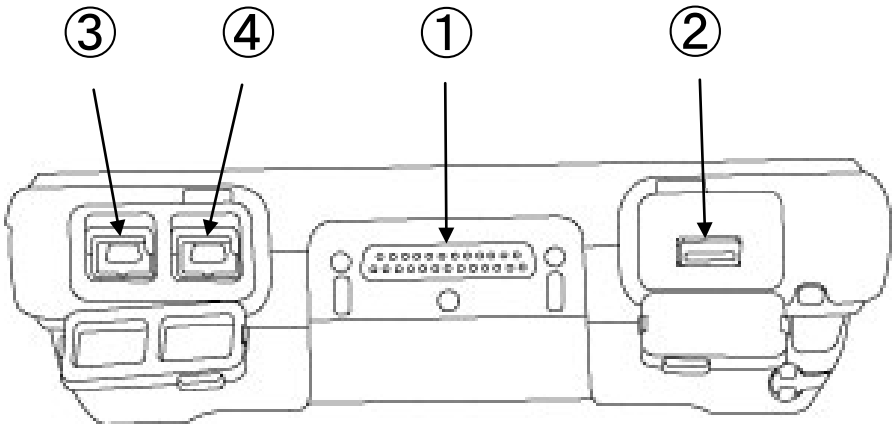
タッチ画面とハードウェアボタン



〈図：G-scan正面〉

①	タッチ画面	画面上の機能やボタンを選択する際に使用します。
②		画面上の機能ボタンを操作するためのボタンです。
③		電源のON/OFFに使用します。
④		G-scanの電源供給状態を表しています。
⑤		選択した項目や機能を実行する際や、選択を決定する際に使用します。
⑥		画面で選びたいアイテムや機能にカーソルを合わせるときに使用します。
⑦		一つ前の画面に戻る際や、表示されている画面を消す際に使用します。
⑧		各ECUとの通信状態を表しています。 通信時：点滅　　非通信時：消灯
⑨		オプション装備との通信状態を表しています。 ※（現在は使用しません）

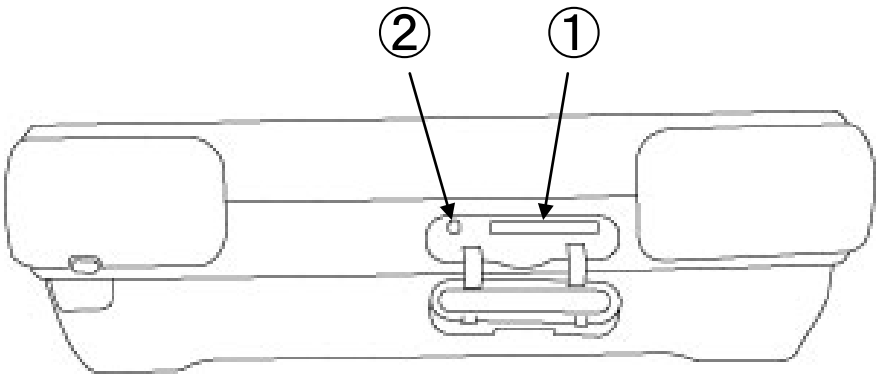
通信コネクタ部とCOMポート部



〈図：G-scan上部〉

①	DLC	DLCメインケーブルを接続するためのコネクタです。
②	OPTION	モバイルプリンターを接続するためのUSBポートです。
③	DOWNLOAD	機能を拡張するために用意されているUSBポートです。 ※（現在は使用しません）
④	PASS-THRU	機能を拡張するために用意されているUSBポートです。 ※（現在は使用しません）

SDカード挿入口とリセットボタン



〈図：G-scan下部〉

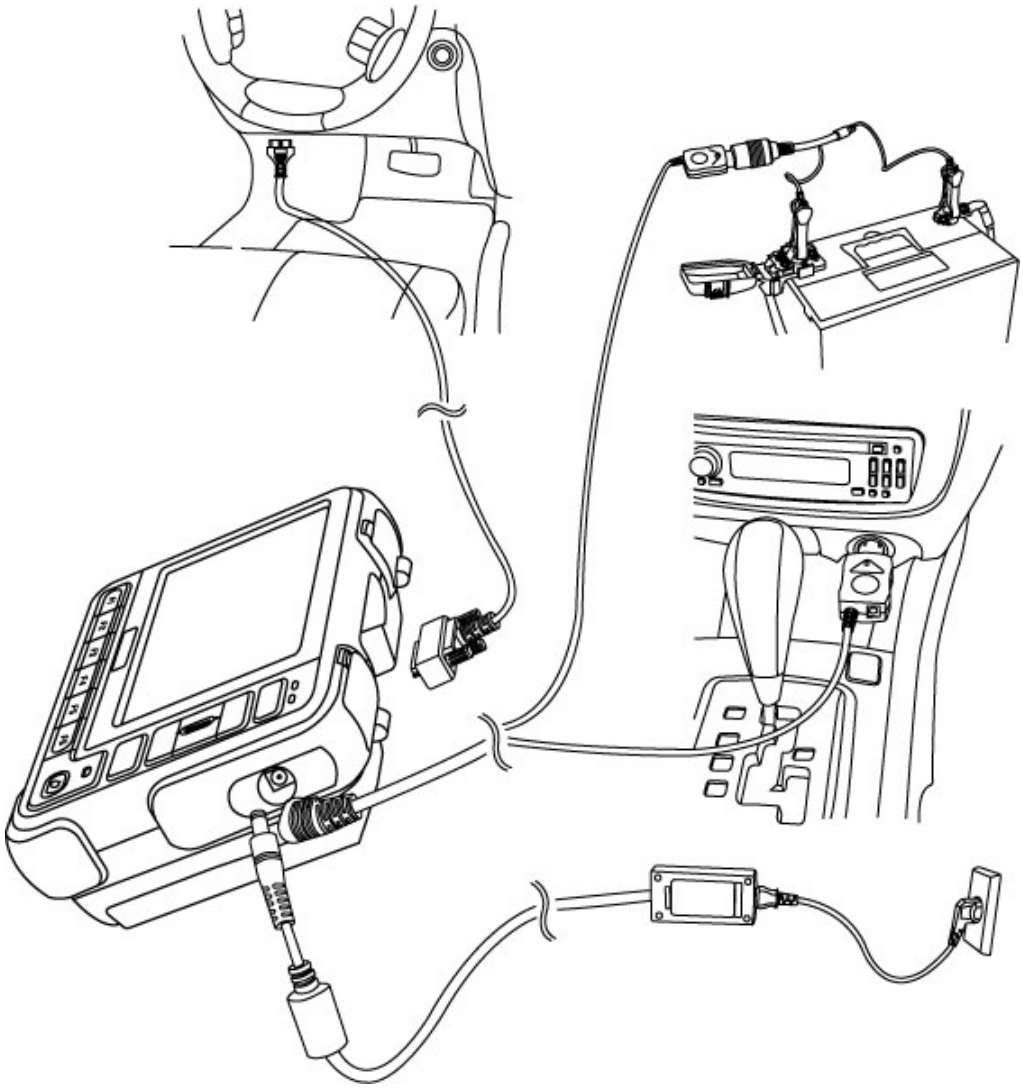
①	SDカード挿入口	SDカードを挿入する場所です。
②	リセットボタン	G-scanにエラーが発生した際、リセットボタンを押すことで 強制的に電源をOFFすることができます。

電源の供給方法について

ご使用になる前に

G-scanに電源を供給する方法としては、以下の4通りの方法があります。

- 車両の診断コネクタから電源を供給する方法
- シガライタから電源を供給する方法
- バッテリから電源を供給する方法
- 家庭用電源コンセントから電源を供給する方法



〈図：G-scanへの電源の供給方法〉

車両の診断コネクタから電源を供給する方法

1. G-scanを車両の診断コネクタに接続します。【詳細に関してはP27を参照】
2. 車両のIG SWをACCまたは、ONにしてG-scanへ電源を供給します。

シガライタから電源を供給する方法

1. G-scanのDC電源入力端子部にシガライタ電源ケーブルを接続します。
2. 車両のシガライタソケットにシガライタ電源ケーブルの電源プラグを差し込みます。
3. 車両のIG SWをACCまたは、ONにしてG-scanへ電源を供給します。

⚠ 注意

シガライタソケット内の汚れによる接触不良に、十分ご注意ください。

バッテリから電源を供給する方法

1. G-scanのDC電源入力端子部にシガライタ電源ケーブルを接続します。
2. バッテリケーブルのシガライタソケット部にシガライタ電源ケーブルの電源プラグを差し込みます。
3. 車両に搭載されているバッテリの＋極にバッテリケーブルの赤いワニロクリップを、バッテリの－極にバッテリケーブルの黒いワニロクリップを、それぞれ間違わないように十分注意しながら取り付けてください。
4. 車両のIG SWをACCまたは、ONにしてG-scanへ電源を供給します。

⚠ 注意

バッテリケーブルをバッテリに接続する際、＋極、－極を逆接続しないでください。

＋極、－極の接続を間違うとG-scanが破損する恐れがあります。

家庭用電源コンセントから電源を供給する方法

1. G-scanのDC電源入力端子部にAC/DCアダプタを接続します。
2. AC/DCアダプタのコンセント部を、家庭用コンセントに接続してください。
3. G-scanへ電源が供給されます。

⚠ 注意

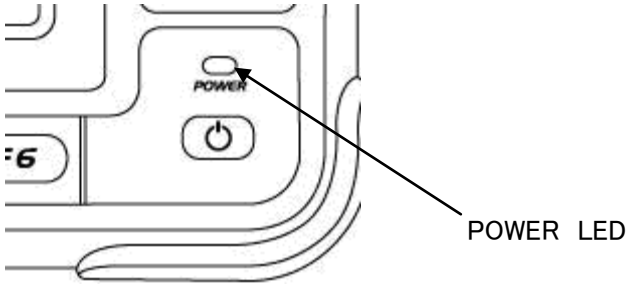
AC/DCアダプタは、必ずG-scan付属のAC/DCアダプタを使用してください。

充電について

ご使用になる前に

G-scanには専用のバッテリパックとリチウムイオンバッテリが装備されており、リチウムイオンバッテリに充電することにより、外部から電源を供給しない状態でも使用することが可能です。

1) G-scanのDC電源入力端子部にAC/DCアダプタを接続します。
2) AC/DCアダプタのコンセント部を、家庭用コンセントに接続してください。
3) 充電中はG-scan本体のPOWER LEDが赤色に点灯します。充電が完了すると、POWER LEDは赤色から緑色に変わります。



〈図:POWER LEDの位置〉

・ ● POWER LEDの点灯状態

充電中	充電完了
LED（赤）点灯	LED（緑）点灯

※充電完了までに要する時間は約3時間です。

警告

上記のメッセージは、電池残量が少なくなっていることを警告したメッセージです。

この表示が出たら、速やかに外部からの電源を供給してください。上記のメッセージを無視し作業を続行した場合、G-scanの電源は自動的に切れます。

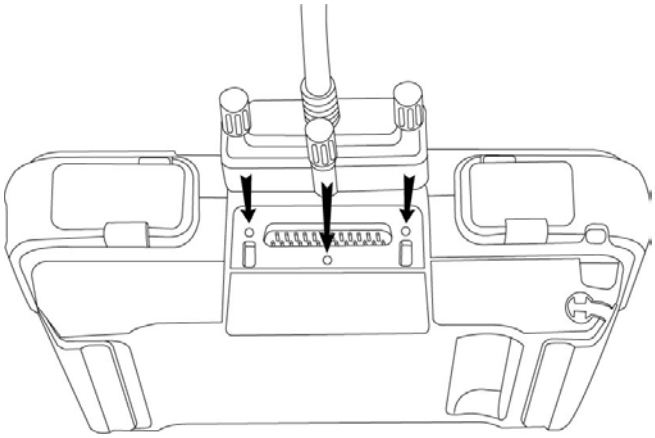
G-scanの準備

車両と接続します……P27
電源のON/OFF……P29

車両と接続します

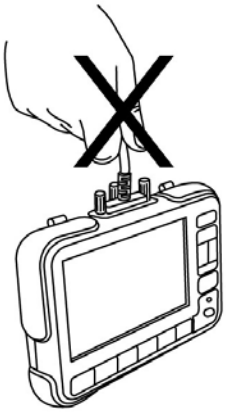
G-scanの準備

1）G-scanのDLCコネクタ部にDLCメインケーブルを接続し、3箇所のネジをしっかりと締め付けてください。



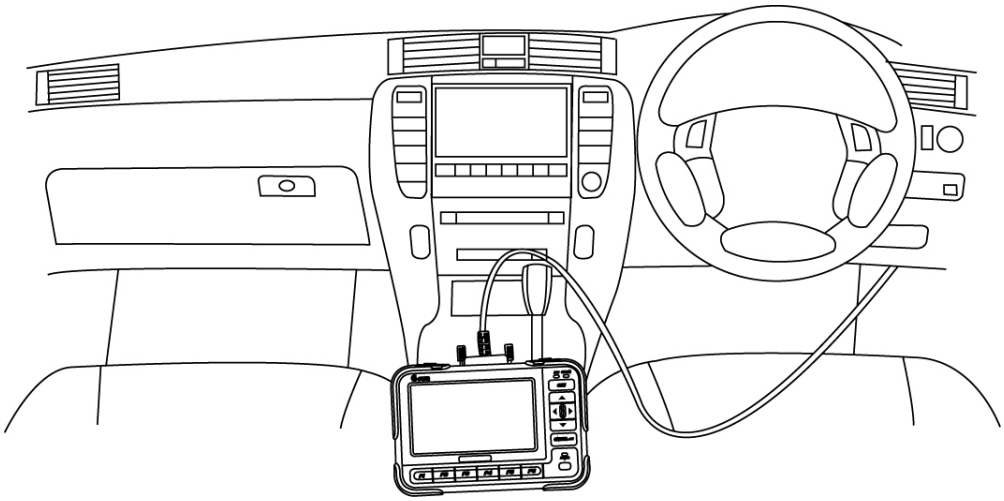
〈図：DLCメインケーブルの接続〉

警告



DLCメインケーブルがG-scanに接続された状態で、DLCメインケーブルのみを持たないでください。

2) G-scan本体に接続したDLCメインケーブルのもう一端を車両の診断コネクタに接続します。



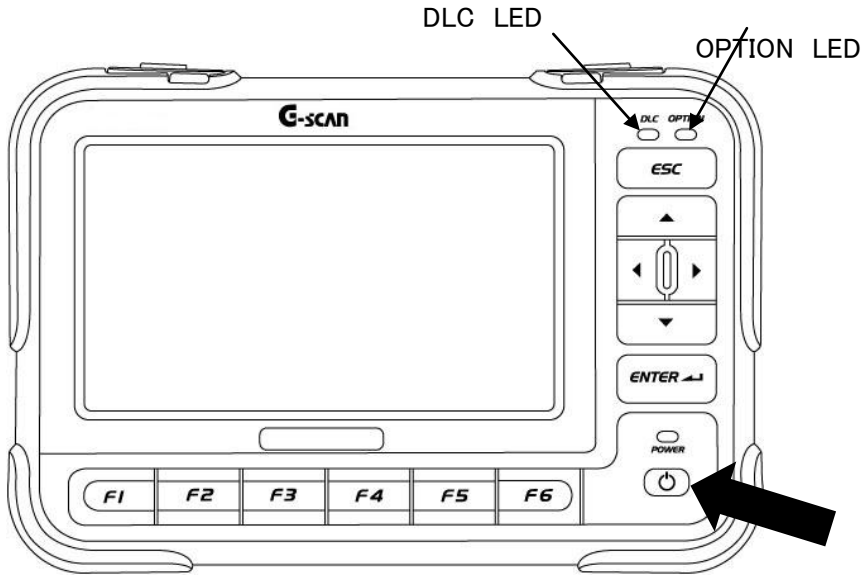
〈図：車両との接続〉

電源のON/OFF

G-scanの準備

1）G-scan本体に電源が供給されている状態で、G-scanの電源ON/OFFボタンを約0.5秒長押ししてください。DLC LED、OPTION LEDがオレンジ色から緑色へと変わり、G-scanの電源がONします。

電源の供給方法の詳細に関してはP21『電源の供給方法について』の項をご参照ください。

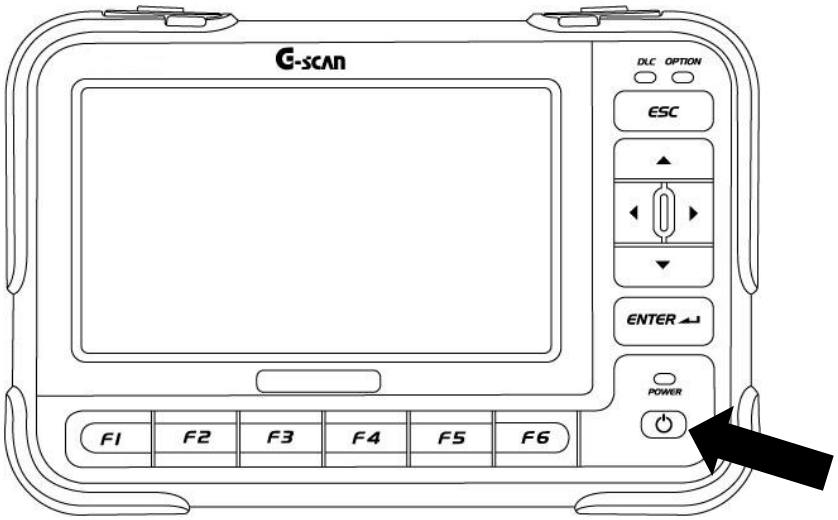


〈図：電源ON〉

2）G-scanが起動すると以下の画面が表示されます。

〈図：G-scanメイン画面〉

3）電源をOFFする場合は、上記のG-scanメイン画面を表示した状態で、電源ON/OFFボタンを約2.5秒長押ししてください。G-scanの電源がOFFします。



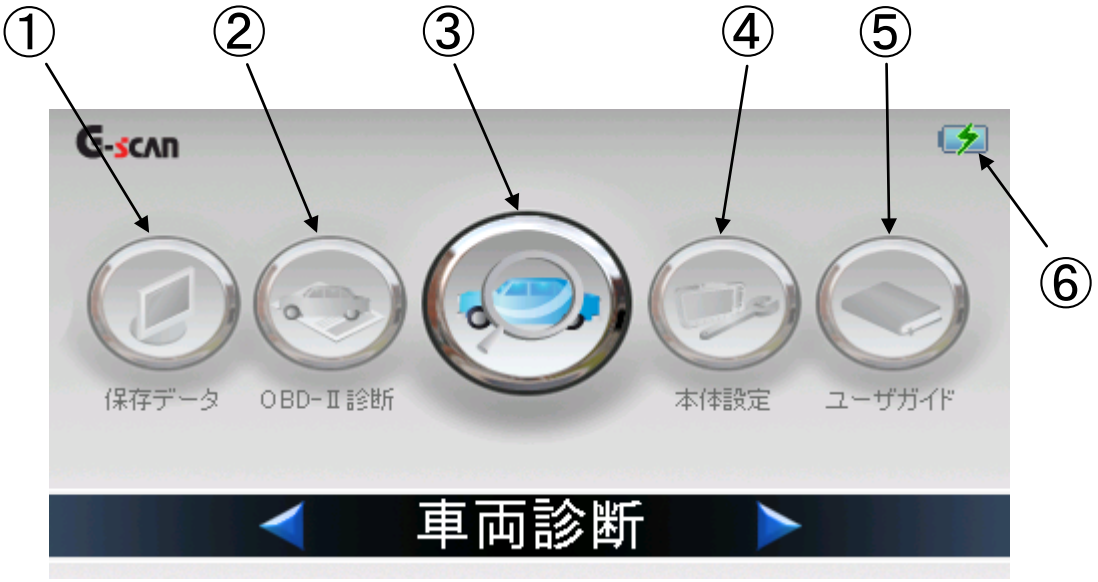
〈図：電源OFF〉

G-scanの基本操作

画面構成……P32
保存データ……P38
OBD-Ⅱ診断……P42
車両診断……P45
本体設定……P46
ユーザガイド……P60

画面構成

メイン画面について



〈図：G-scanメイン画面〉

①	保存データ	データ記録等で保存したデータを閲覧する際に使用します。 【詳細はP38を参照】
②	OBD-Ⅱ診断	OBD-Ⅱ診断を行う際に使用します。 【詳細はP42を参照】
③	車両診断	車両診断を行う際に使用します。 【詳細はP45を参照】
④	本体設定	本体機能の設定を行う際に使用します。 【詳細はP46を参照】
⑤	ユーザガイド	ユーザガイドを表示します。 【詳細はP60を参照】

⑥		充電中の表示です。
		充電完了の表示です。
		電池残量の表示です。
		電池残量がありません。

※注意と補足※

・ 充電機能の詳細に関してはP21『電源の供給方法について』の項をご参照ください。

バックボタン、カメラボタン、ペイントボタンとプリントボタンについて

〈図：カメラボタン、バックボタン、ペイントボタンとプリントボタンの詳細〉

	バックボタン 一つ前の画面に戻る際に使用します。 esc ボタンと同様の機能です。
	カメラボタン 表示画面を保存する際に使用します。 保存した画面データはBMP（ビットマップ）形式でSDカードに保存されます。 【詳細はP35『カメラボタンについて』を参照】
	ペイントボタン 表示画面に文字を書く際に使用します。 ボタンと esc ボタンで もとに戻ります。 【詳細はP36『ペイントボタンについて』を参照】
	プリントボタン 表示画面を印刷する際に使用します。 【詳細はP37『プリントボタンについて』を参照】

■カメラボタンについて

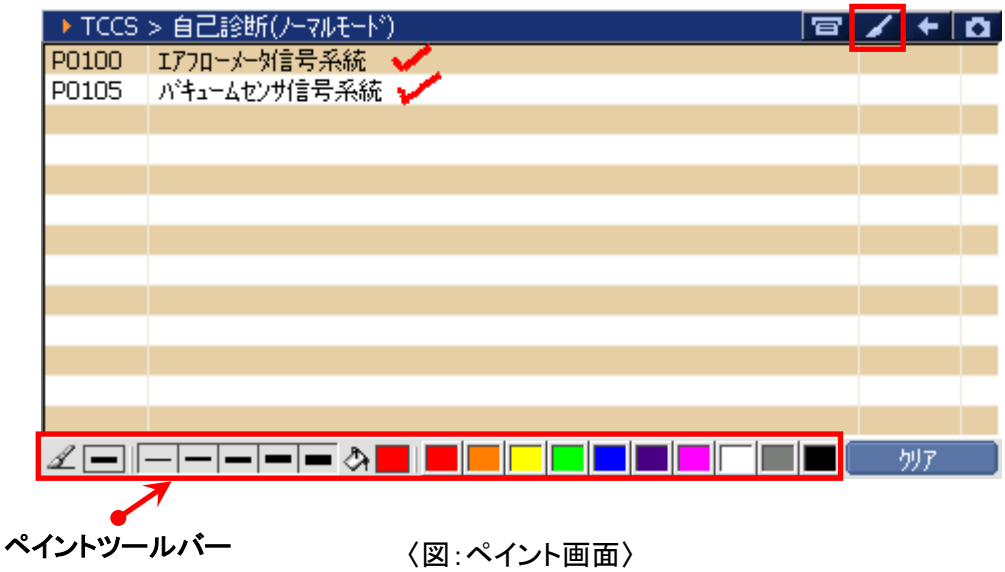
1）画面右上の ボタンをタッチすることで、診断中の画面をハードコピーすることができます。

〈図：カメラボタンの位置〉

〈図：表示画面の保存〉

■ペイントボタンについて

1）画面右上の ボタンをタッチすることで、診断中の画面に文字を書くことができます。 下記のツールバーより線の太さ、色を選択することができます。
文字を書いた後、表示画面をカメラボタン機能により保存することができます。



〈図：ペイント画面〉

2）画面右下の ボタンをタッチすることで、画面に書いた文字を消すことができます。書いた文字はすべて消去されてしまいますのでご注意ください。

〈図：ペイント文字クリア後画面〉

■プリントボタンについて

プリンタをG-scanに接続し、画面右上の ボタンをタッチすることで現在表示している画面を印刷することができます。印刷したい画面で下記のプリントボタンをタッチしてください。

〈図:プリント画面〉

※注意と補足※

・プリント機能を使用できるのは、以下の診断メニューです。

- 自己診断
- フリーズフレームデータ
- アクティブテスト
- データ表示（グラフ表示中は不可）

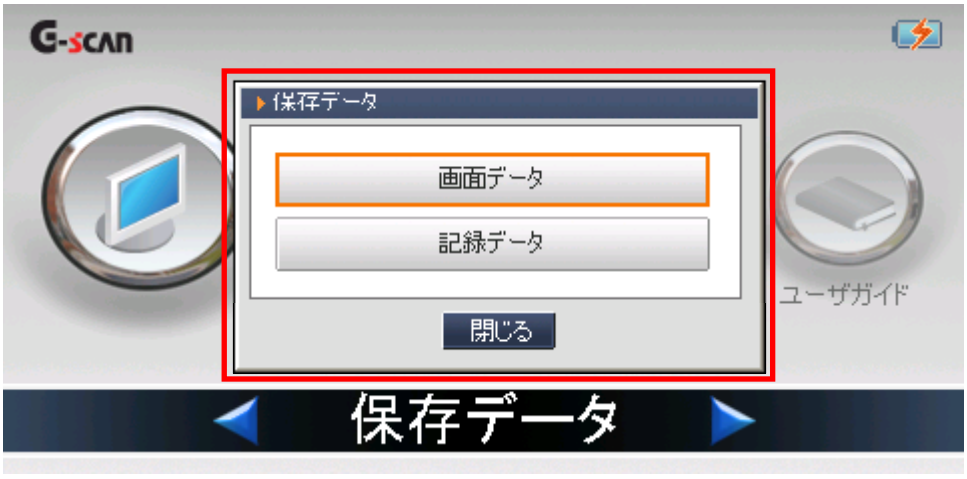
また、『OBD-Ⅱ診断』では画面印刷できないのでご注意ください。

保存データ

1）『保存データ』では車両の診断で保存したデータを表示することができる機能です。G-scanメイン画面において『保存データ』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：保存データを選択〉

2）以下の画面が表示されます。表示するデータの種類を選択して ENTER ボタン押してください。



〈図：保存データの選択〉

※注意と補足※

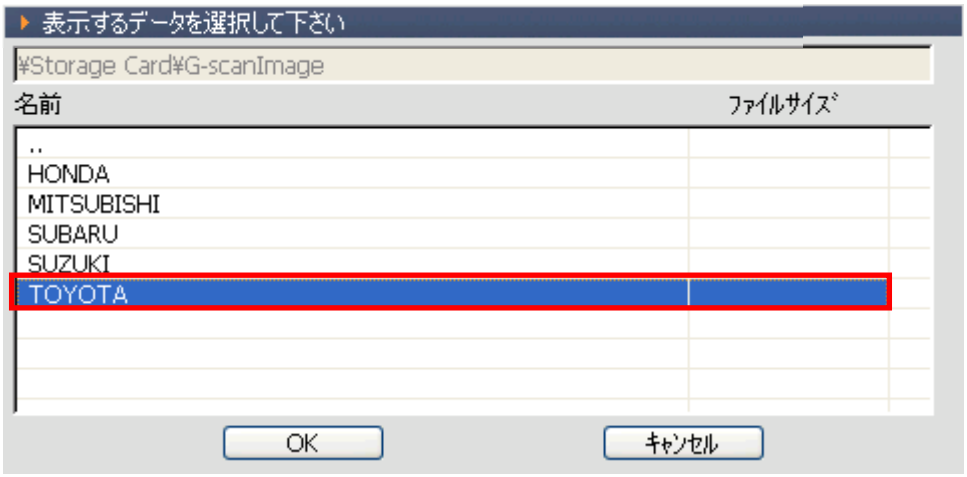
- 画面データ とは表示画面を保存した画面データのことです。

  画面データはBMP（ビットマップ）ファイル形式で保存されています。

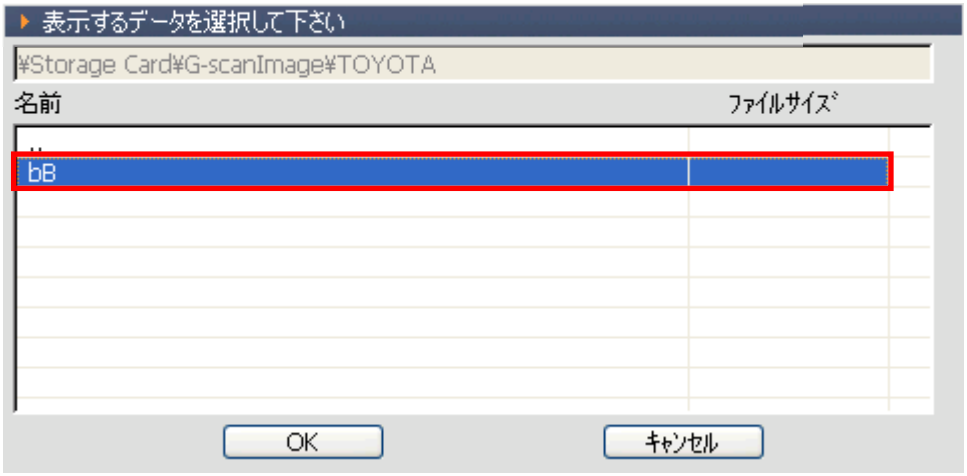
- 記録データ とはデータ表示機能で記録、保存したデータのことです。

  記録方法の詳細に関しては各メーカ別取扱説明書をご参照ください。

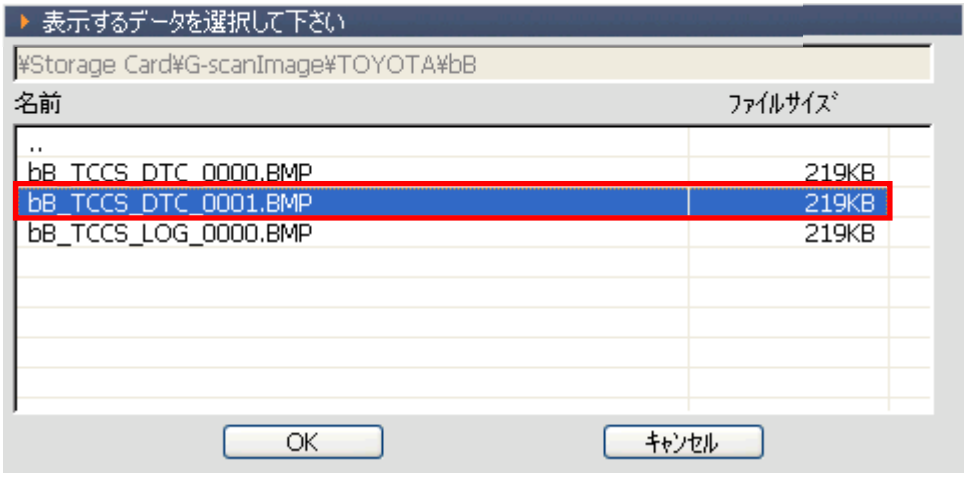
3）データの種類選択後、以下の画面が表示されます。表示するファイルのあるフォルダを選択して OK ボタンをタッチしてください。



〈図：メーカフォルダの選択〉



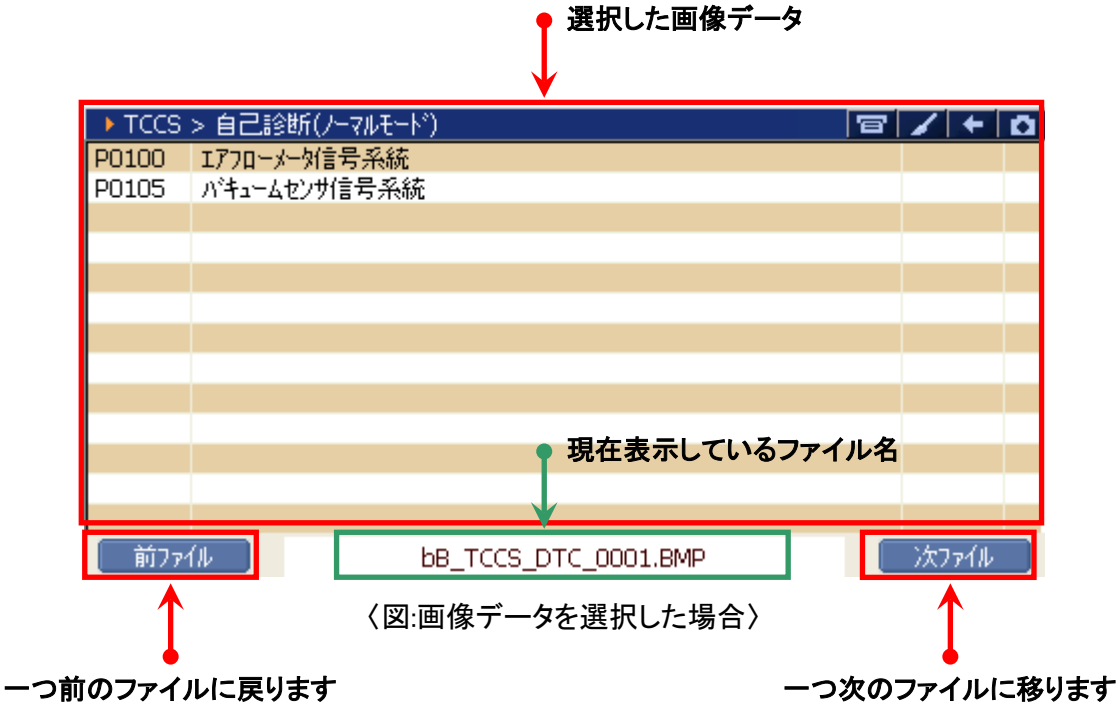
〈図：車種名フォルダの選択〉



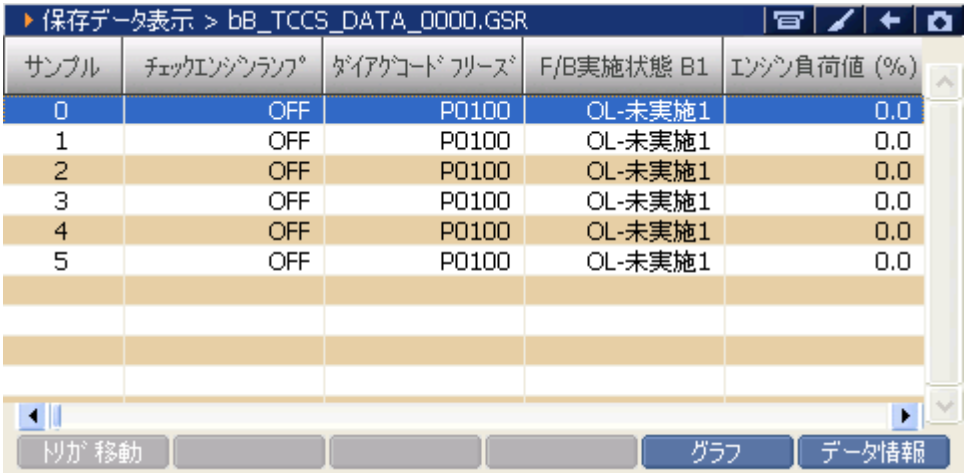
〈図：ファイルの選択〉

4）フォルダ、ファイルの選択後、選択した保存データが表示されます。

esc ボタンを押すとファイル一覧に戻ります。



〈図:画像データを選択した場合〉



〈図:記録データを選択した場合〉

※注意と補足※

- 記録データの詳細に関しては各メーカ別取扱説明書『保存データ表示機能』の項をご参照ください。
- この画面では印刷できないのでご注意ください。

OBD-Ⅱ診断

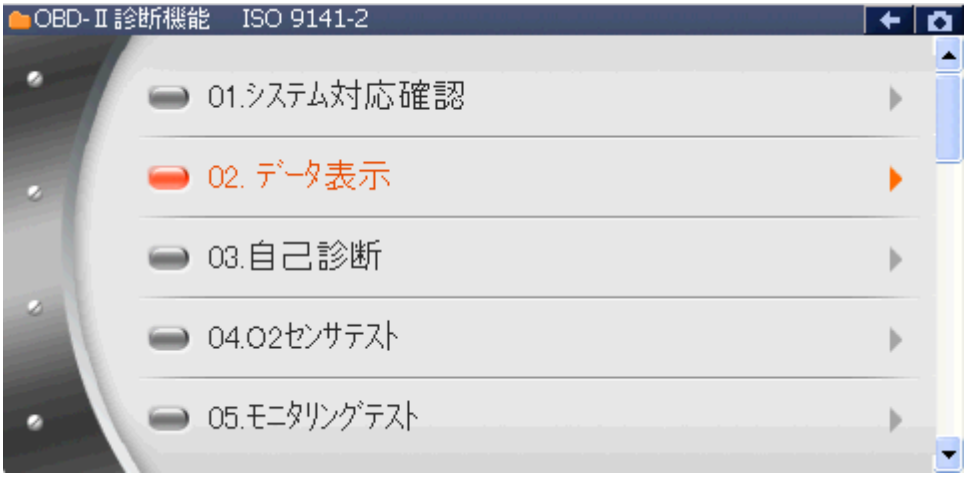
1）『OBD-Ⅱ診断』ではISO9141、ISO14230（KWP2000）、ISO15765（CAN）規格に準拠した車両のエンジンシステムで診断ができる機能です。

G-scanメイン画面において『OBD-Ⅱ診断』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図：OBD-Ⅱ診断を選択〉

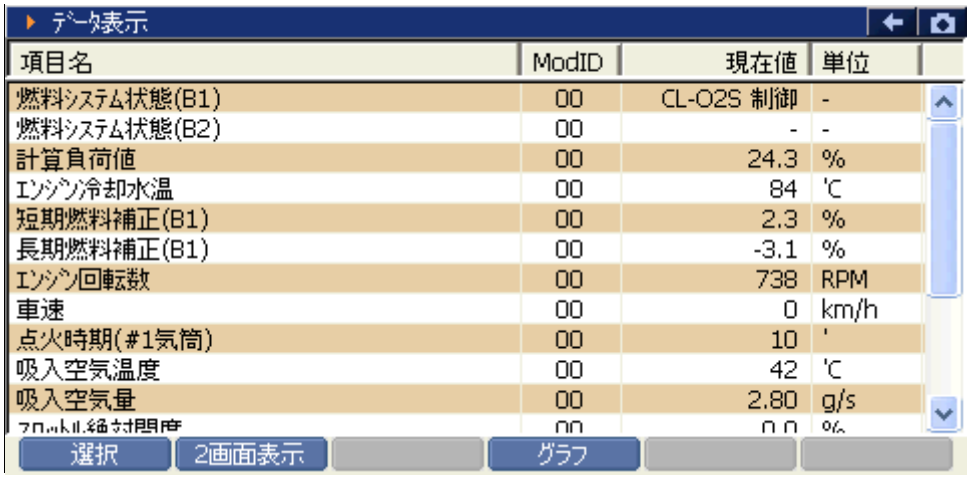
2）OBD-Ⅱ診断で実行できる機能の一覧が表示されます。

機能一覧から実行する機能を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：OBD-Ⅱ診断メニュー〉

3）選択した機能の項目一覧が表示されます。



〈図：データ表示機能　項目一覧〉

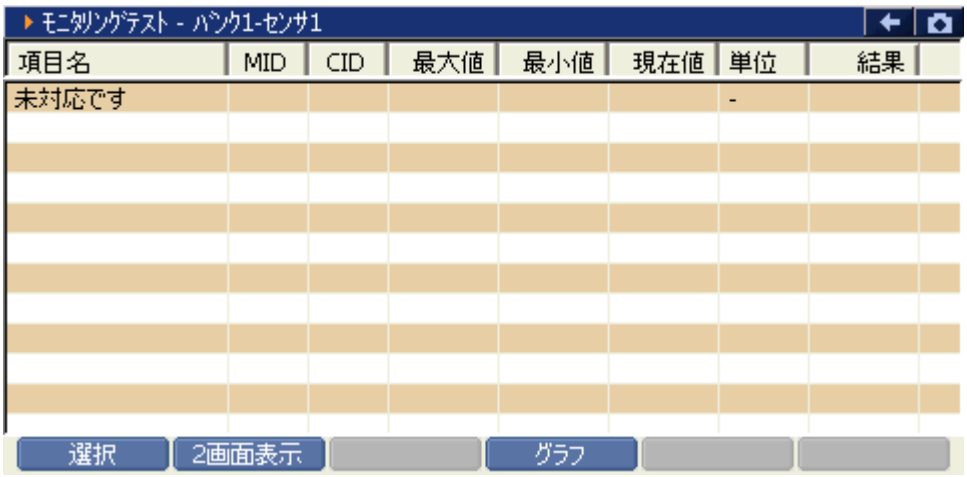
選択　グラフ表示する項目を選択します。【詳細はP44を参照】

2画面表示　項目一覧を2画面表示に切替えます。

グラフ　数値で表示されているデータをグラフで表示します。【詳細はP44を参照】

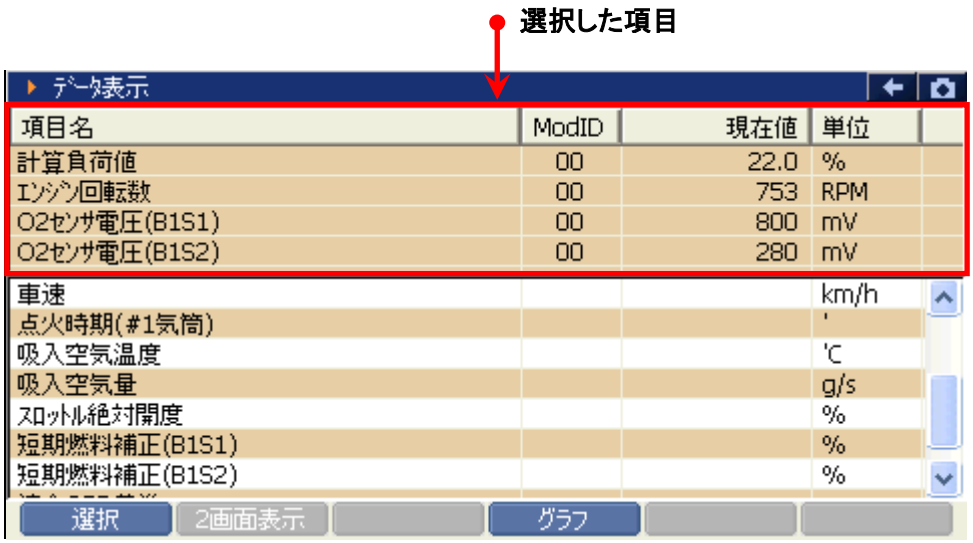
※注意と補足※

・　以下の画面のように、『未対応です』と表示された場合、選択した機能は未対応になります。



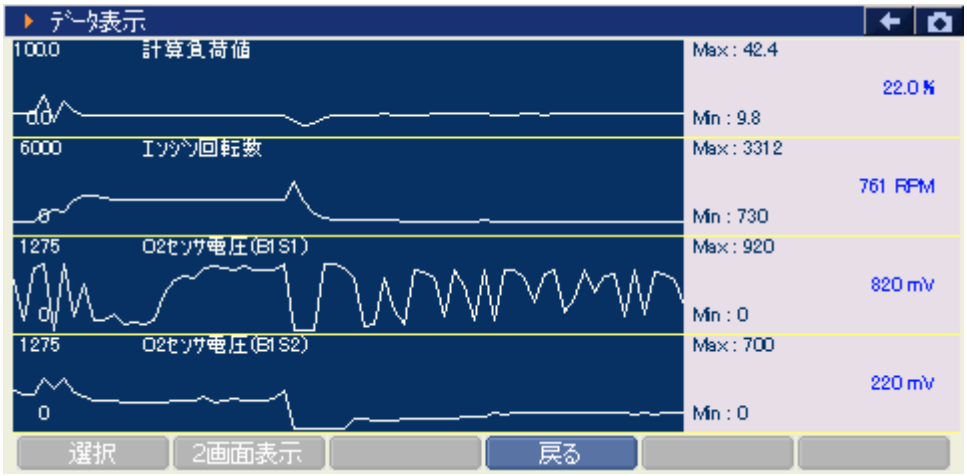
〈図：未対応機能選択時〉

4）データをグラフ表示する場合はグラフ表示する項目を選択する必要があります。選択したい項目を選んで、選択 ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押すと、画面上部に選択した項目が移動します。



〈図：データ表示機能　項目選択〉

5）グラフ ボタンをタッチ、又は F4 ボタンを押すと選択した項目のデータがグラフで表示されます。



〈図：データ表示機能　グラフ表示〉

車両診断

1）『車両診断』では自己診断、データ表示、アクティブテストなど、各メーカ独自の診断機能を使用して車両を診断することができます。

G-scanメイン画面において『車両診断』を選択して ENTER ボタンを押してください。

尚、『車両診断』の詳細に関しては各メーカ別取扱説明書をご参照ください。

〈図：車両診断を選択〉

〈図：メーカ選択画面〉

本体設定

1）『本体設定』ではG-scan本体機能の設定などを変更することができます。

G-scanメイン画面において『本体設定』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：本体設定を選択〉

2）本体設定画面が表示されます。

〈図：本体設定画面〉

■セットアップ

〈図：セットアップ画面〉

ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ　バックライトの明るさを調整します。【詳細はP48を参照】

言語　表示言語を設定します。【詳細はP48を参照】

ﾎﾞﾀﾝﾃｽﾄ　機能ボタンの動作を確認します。【詳細はP49を参照】

ﾀｯﾁ調整　タッチパネルの調整を行います。【詳細はP49を参照】

音/単位設定　表示単位や、ブザーのON/OFFを設定します。【詳細はP50を参照】

① タッチ画面上の『バックライト(F1)』、 バックライト ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。コントロールが『バックライト(F1)』に移ります。
タッチペン又は ◀ ▶ ボタンを使用して明るさを調整してください。

〈図:バックライトの調整〉

② タッチ画面上の『言語(F2)』、 言語 ボタンをタッチ、又は F2 ボタンを押してください。コントロールが『言語(F2)』に移ります。
タッチペン又は ▼ 、▶ ボタンを使用して表示言語を設定してください。

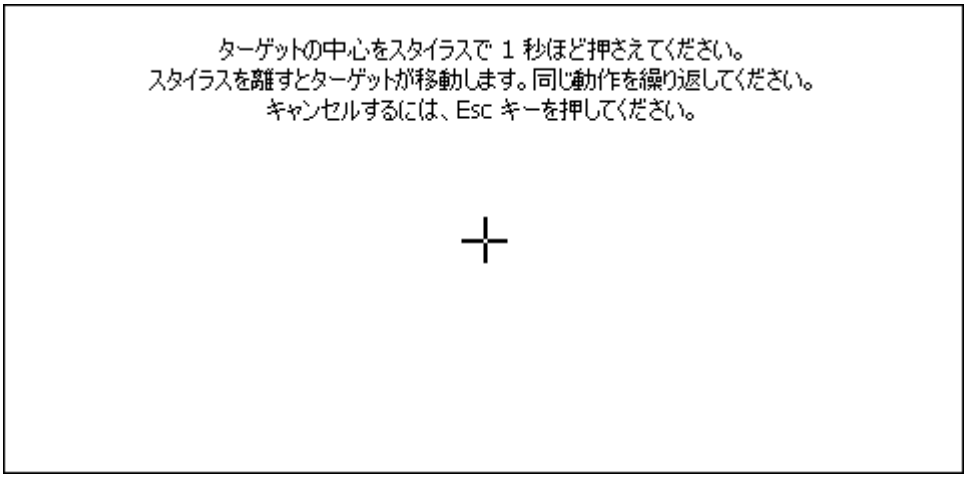
〈図:表示言語の設定〉

③ タッチ画面上の『ボタンテスト(F3)』、 ボタンテスト ボタンをタッチ、又は F3 ボタンを押してください。コントロールが『ボタンテスト(F3)』に移ります。

F1 ～ F6 、 ▲ 、 ▼ 、 ◀ 、 ▶ 、を押すと押したボタンの表示部の色が変わります。ボタンテストでは、ボタンの動作確認を行うことができます。終了する場合は F1 + esc を同時に押してください。

〈図:ボタンの動作テスト〉

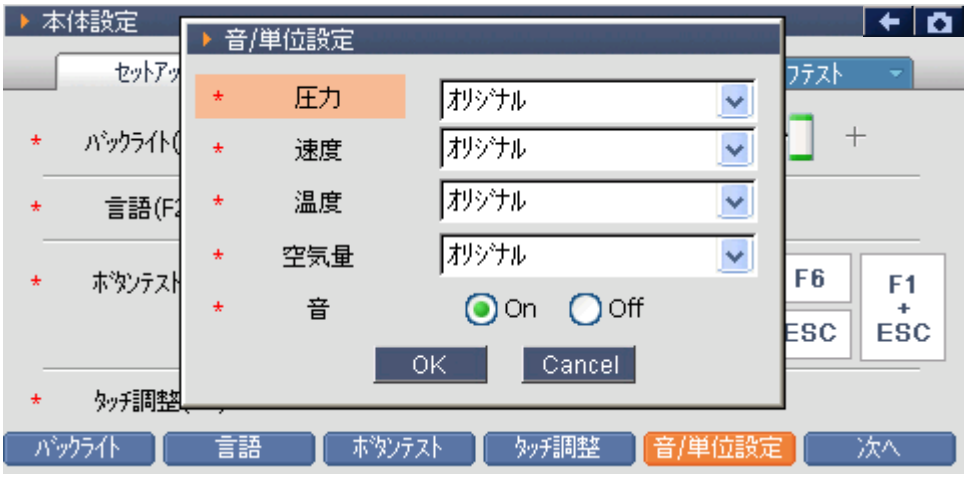
④ タッチ画面上の『タッチ調整(F4)』、 タッチ調整 ボタンをタッチ、又は F4 ボタンを押してください。以下の画面が表示されます。画面の指示に従ってタッチパネルの調整を行ってください。



〈図:タッチパネルの調整〉

⑤ 音/単位設定 ボタンをタッチ、又は F5 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。

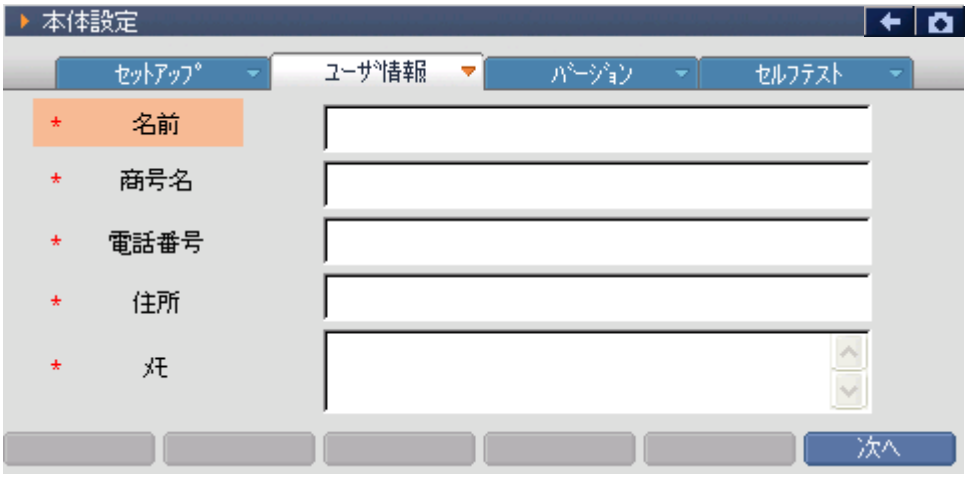
タッチペン、又は ▲ 、▼ 、◀ 、▶ を使用して表示単位とブザーのON/OFFを設定してください。



〈図：表示単位、ブザーの設定〉

⑥ 次へ ボタンをタッチ、又は F6 ボタンを押すと『ユーザ情報』タブに移ります。

■ユーザ情報



〈図:ユーザ情報画面〉

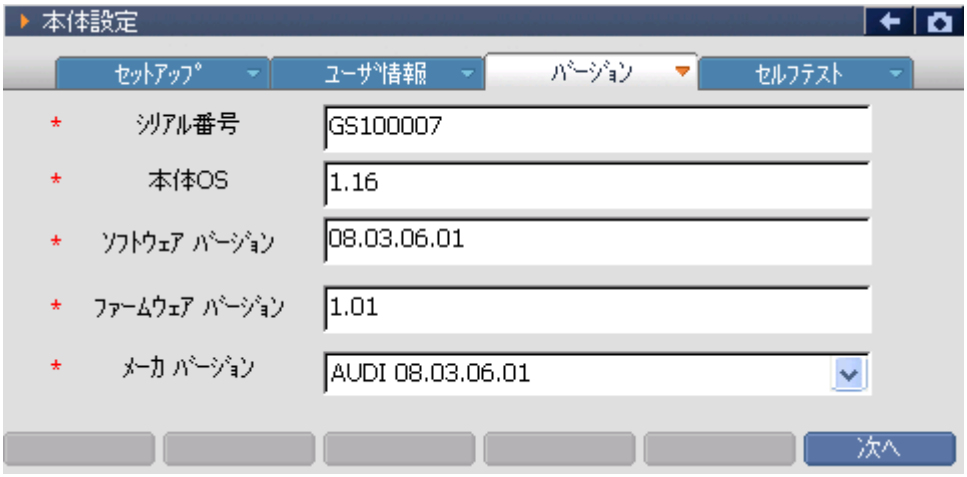
① タッチペン、又は ▲ 、▼ 、◀ 、▶ ボタンを使用して『名前』を選択してください。『名前』を選択後、タッチペンで入力部分をタッチ、又は ▶ ボタンを押すと入力パネルが表示されます。入力パネルを使用して名前を入力してください。

〈図:ユーザ情報(名前)の入力〉

② 『名前』入力と同様の方法で『商号名』、『電話番号』、『住所』、『メモ』を入力してください。

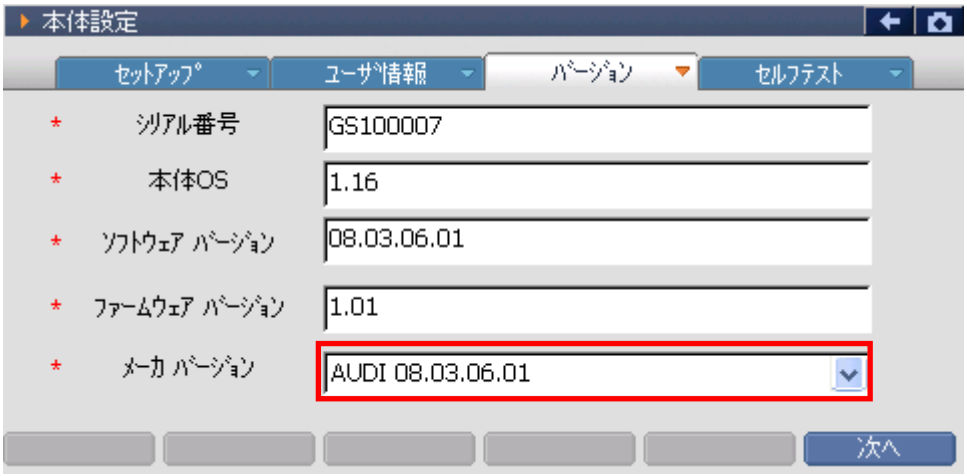
③ 次へ ボタンをタッチ、又は F6 ボタンを押すと『バージョン』タブに移ります。

■バージョン



〈図：バージョン画面〉

① 『バージョン』タブではG-scanのバージョンを確認することができます。
『メーカバージョン』を確認する場合は、以下の部分をタッチペンでタッチしてください。



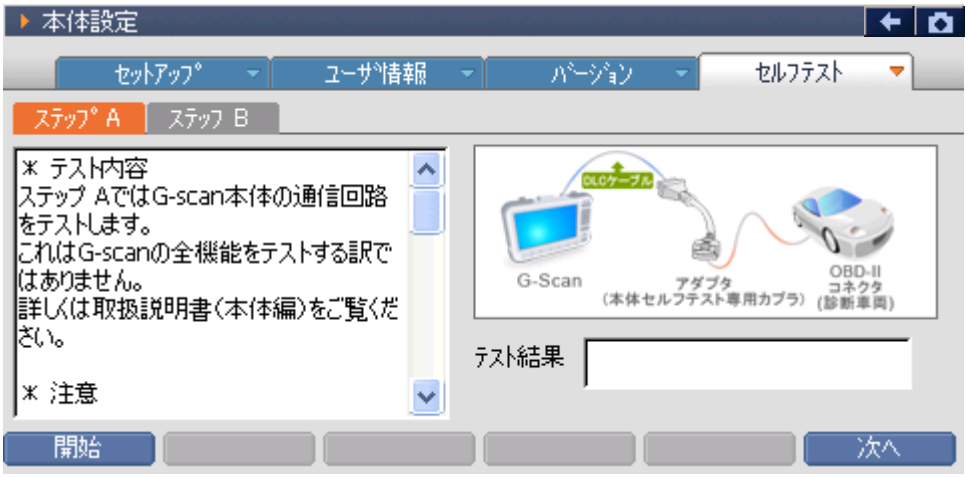
〈図：メーカバージョン部分をタッチ〉

② 各メーカのバージョンが表示されます。

〈図：各メーカのバージョンを表示〉

③ 次へ ボタンをタッチ、又は F6 ボタンを押すと『セルフテスト』タブに移ります。

■セルフテスト



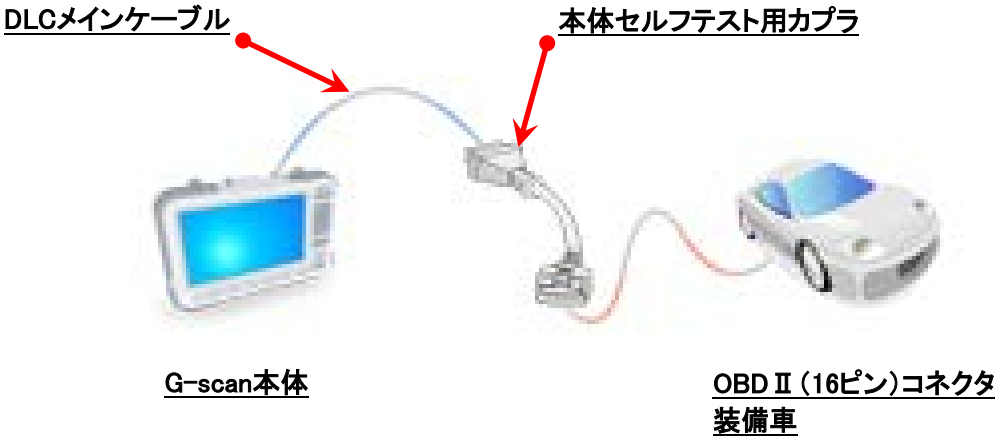
〈図：セルフテスト〉

ステップA ： G-scan本体の通信回路をテストします。

ステップB ： DLCメインケーブルの通信回路をテストします。

開始　セルフテストを開始します。

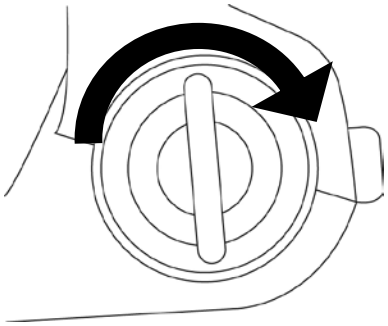
① G-scanに接続したDLCメインケーブルに本体セルフテスト用カプラを接続してください。接続した本体セルフテスト用カプラのもう一端を車両の診断コネクタに接続してください。



※注意と補足※

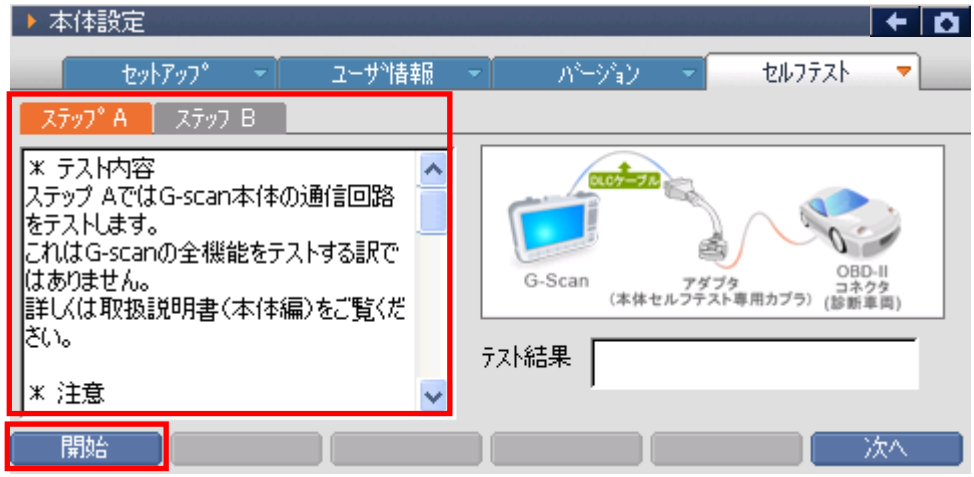
- 本体セルフテスト用カプラは必ずOBDⅡ(16ピン)コネクタに接続してください。
- 本体セルフテスト用カプラはセルフテスト専用のカプラです。本体セルフテスト用カプラを車両診断に使用しないでください。

② 車両のIG SWをON、又はエンジンを始動してください。
この時、本体セルフテスト用カプラの赤いランプが点灯していることを確認してください。



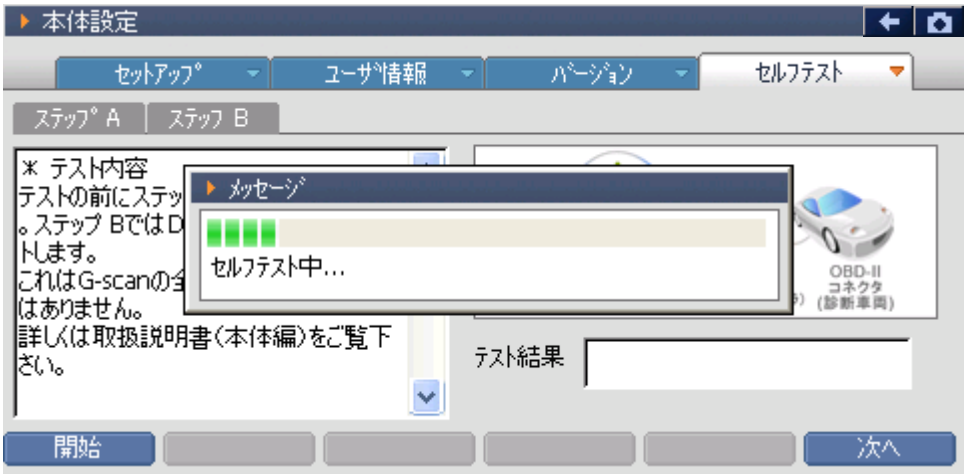
〈図:IG SW ONまたはエンジン始動〉

③ 『ステップA』のセルフテストを開始します。『ステップA』を選択した状態で、開始 ボタンをタッチ、又は F1 ボタンを押してください。『ステップA』ではG-scan本体の通信回路をテストします。



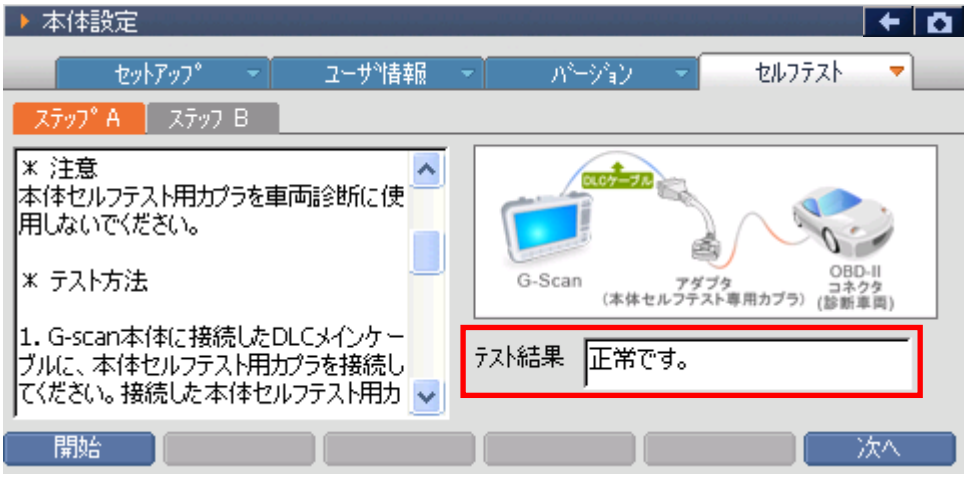
〈図：ステップAのセルフテストを開始〉

④ 『ステップA』のテストが開始され、以下の画面が表示されます。



〈図：ステップAのセルフテスト中〉

⑤ 『ステップA』のセルフテストが終了すると画面右下にテスト結果が表示されます。



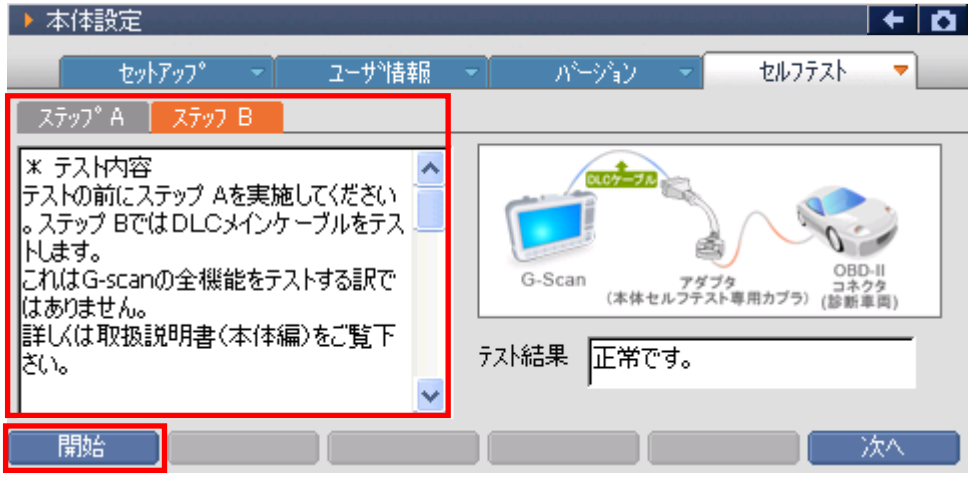
〈図：ステップAのセルフテスト結果表示〉

〈テスト結果〉

正常です。 ： G-scan本体の通信回路は正常に作動しています。
『ステップB』を実行してください

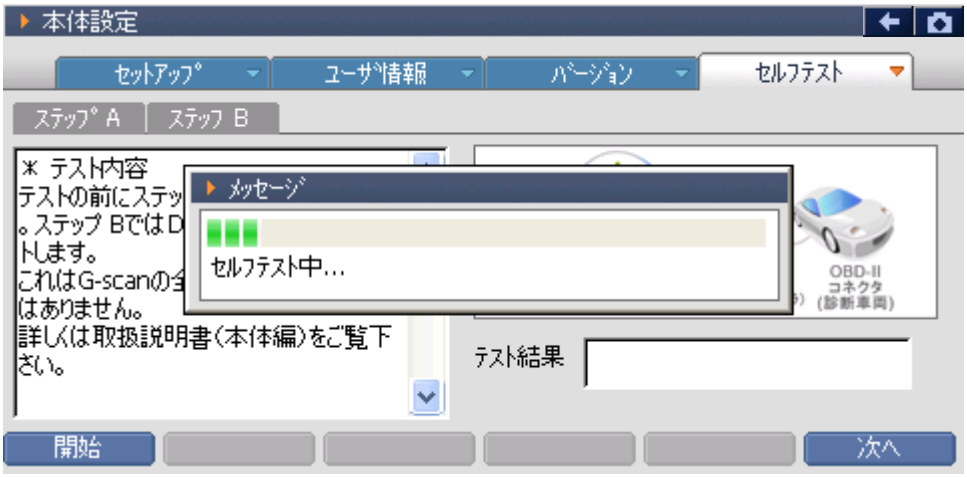
異常です。 ： G-scan本体の通信回路に異常がある可能性があります。
弊社製品保守センターにご連絡ください。

⑥ 『ステップB』のセルフテストを開始します。テスト前に必ず『ステップA』を実行してください。『ステップB』ではDLCメインケーブルをテストします。



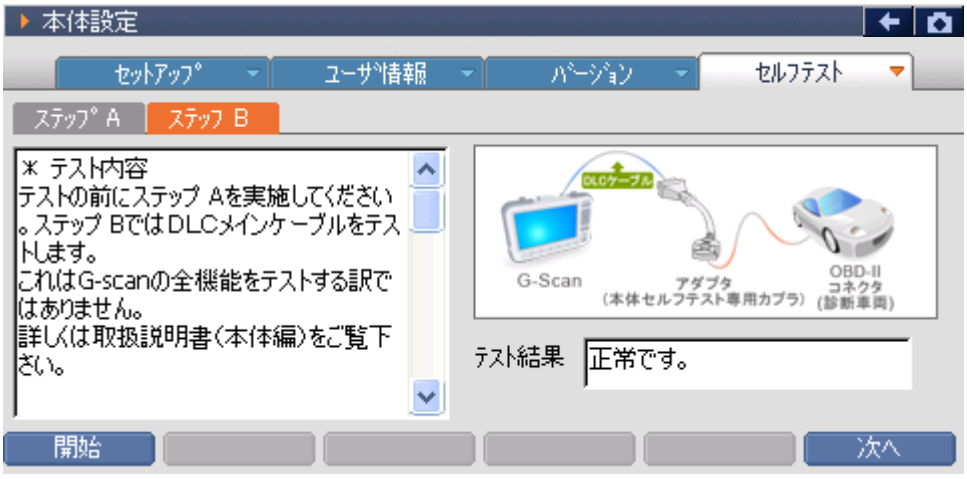
〈図：ステップBのセルフテストを開始〉

⑦ 『ステップB』のテストが開始され、以下の画面が表示されます。



〈図：ステップBのセルフテスト中〉

⑧ 『ステップB』のセルフテストが終了すると画面右下にテスト結果が表示されます。



〈テスト結果〉

正常です。 ： DLCメインケーブルは正常に作動しています。
診断中、車両との通信に問題がある場合は弊社製品保守センターへご連絡ください。

異常です。 ： DLCメインケーブルに異常がある可能性があります。
弊社製品保守センターにご連絡ください。

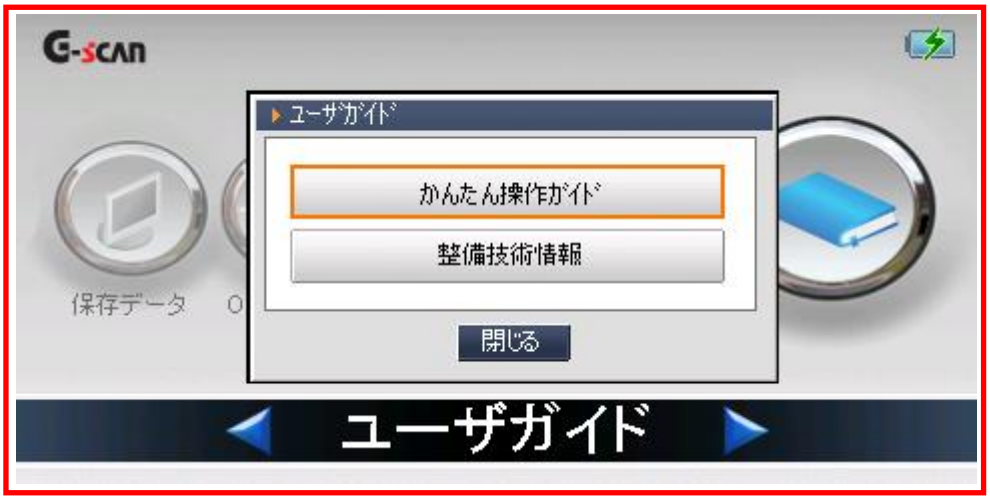
ユーザガイド

1）『ユーザガイド』ではG-scan『かんたん』操作ガイドの内容、各メーカの整備技術情報をG-scan上で閲覧することができます。

G-scanメイン画面において『ユーザガイド』を選択して、ENTERボタンを押してください。

〈図：ユーザガイドを選択〉

2）画面上に選択項目が表示されます。

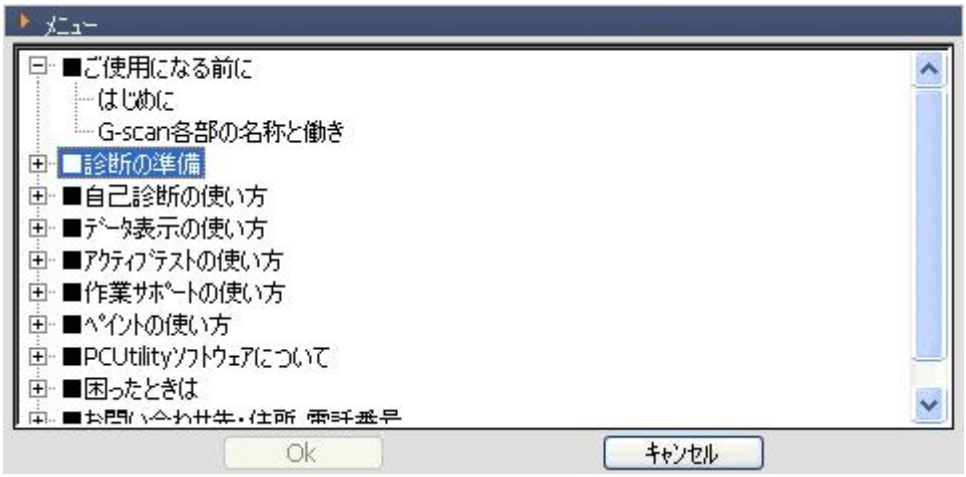


〈図：ユーザガイド選択画面〉

①『かんたん』操作ガイド

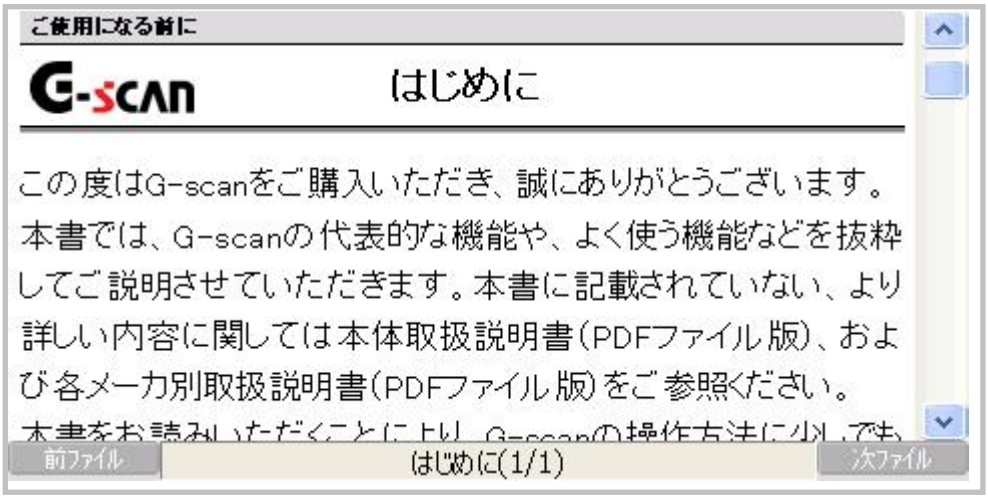
G-scanの代表的な機能や、よく使う機能などを抜粋して説明しています。

1) ユーザガイド選択画面において『かんたん』操作ガイドを選択して、ENTER ボタンを押してください。



〈図:『かんたん』操作ガイド選択画面〉

2) 『かんたん』操作ガイド選択画面において表示したい項目を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図:『かんたん』操作ガイド表示画面〉

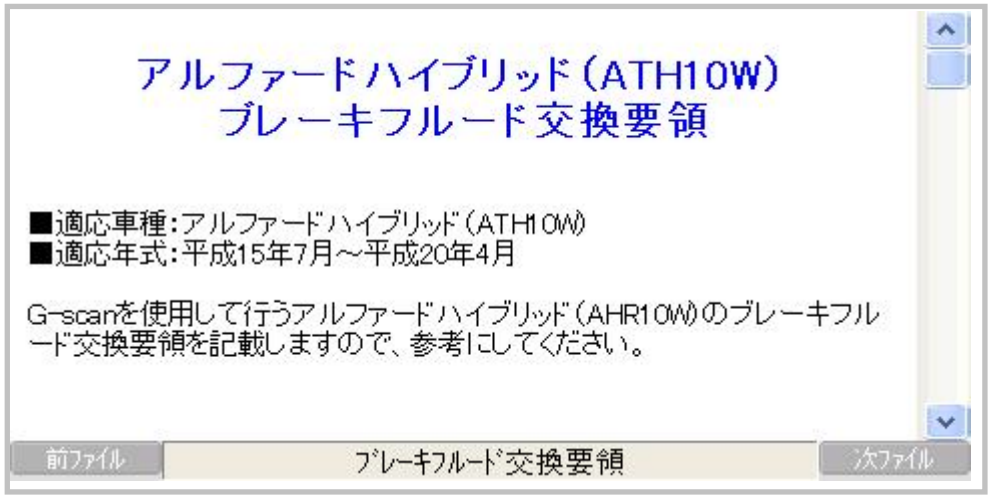
②整備技術情報

G-scanで作業できる、各メーカの作業サポート要領（一部抜粋、随時更新予定）を閲覧することができます。

1） ユーザガイド選択画面において『整備技術情報』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：整備技術情報選択画面〉

2） 整備技術情報選択画面において表示したい項目を選択して、ENTER ボタンを押してください。



〈図：整備技術情報表示画面〉

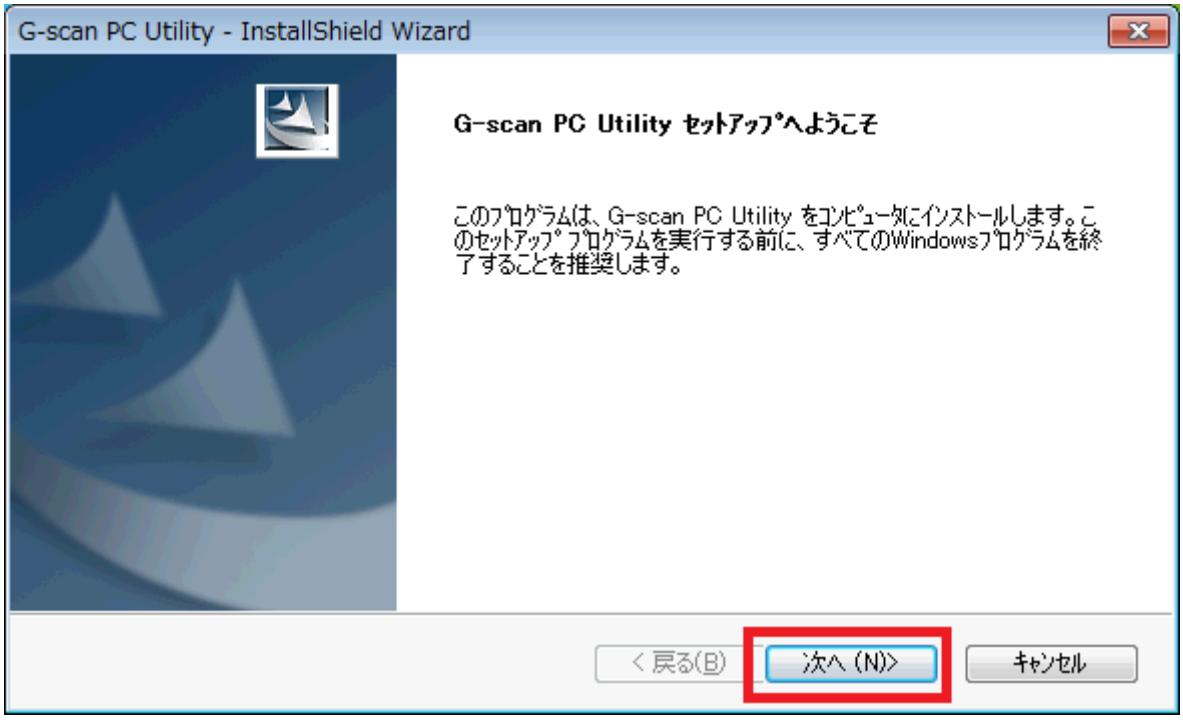
※（最新の情報に関しましては当社HP上からご確認ください）

PCユーティリティソフトウェア

インストール……P64
起動……P68
レコードデータビューア……P69
レコードイメージビューア……P92
ソフトウェアアップデート……P100
SDカード初期化……P103
環境設定……P107

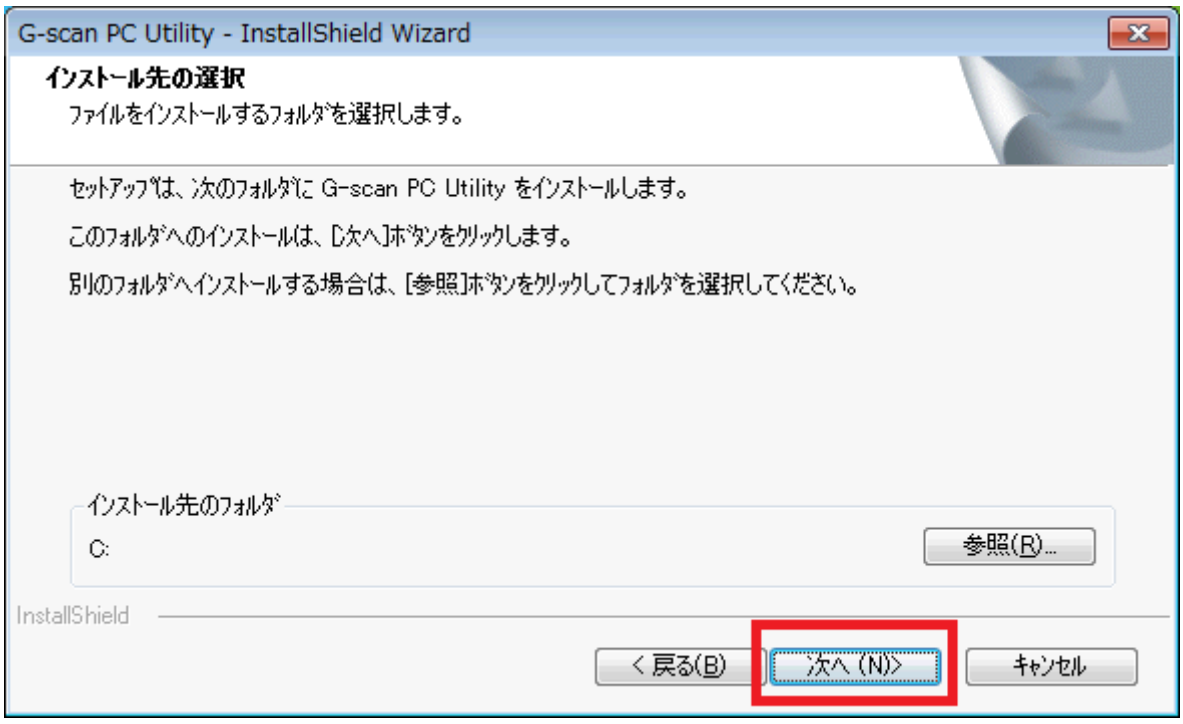
1）付属のPCユーティリティソフトCD（G1PZFDP001）をPCにセットしてください。

2）以下の画面が表示されます。よろしければ、次へ(N) > ボタンをクリックしてください。



〈図：セットアップ開始画面〉

3）インストール先の選択画面が表示されます。インストール先を指定してください。
インストール先の指定が完了したら、 次へ(N) > ボタンをクリックしてください。

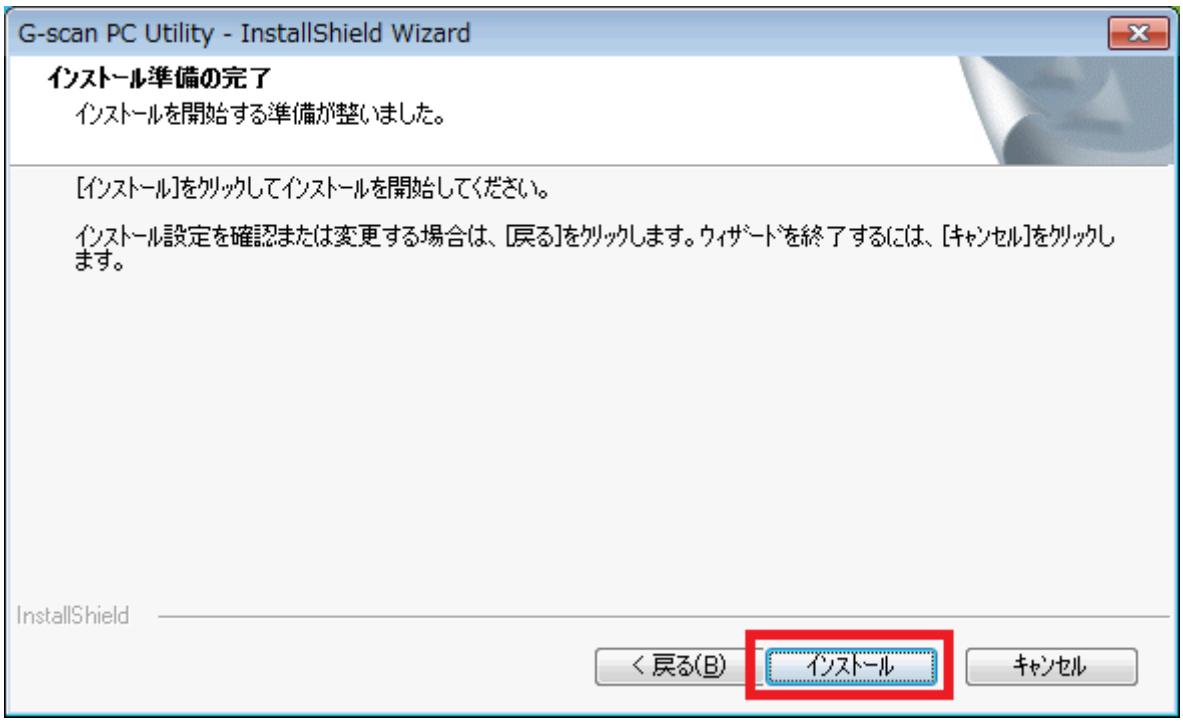


〈図：インストール先の指定画面〉

※注意と補足※

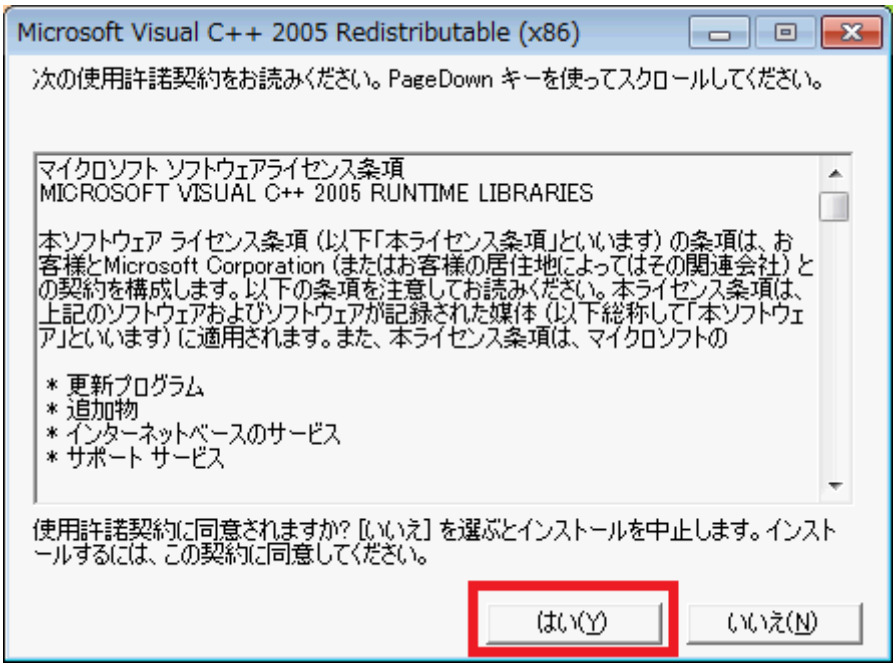
- Microsoft Windows 7をお使いの場合「C:¥Program Files」下にインストールしないでください。PCユーティリティソフトが正常に動作しない恐れがあります。

4) インストール ボタンをクリックしてPCユーティリティソフトウェアのインストールを開始してください。



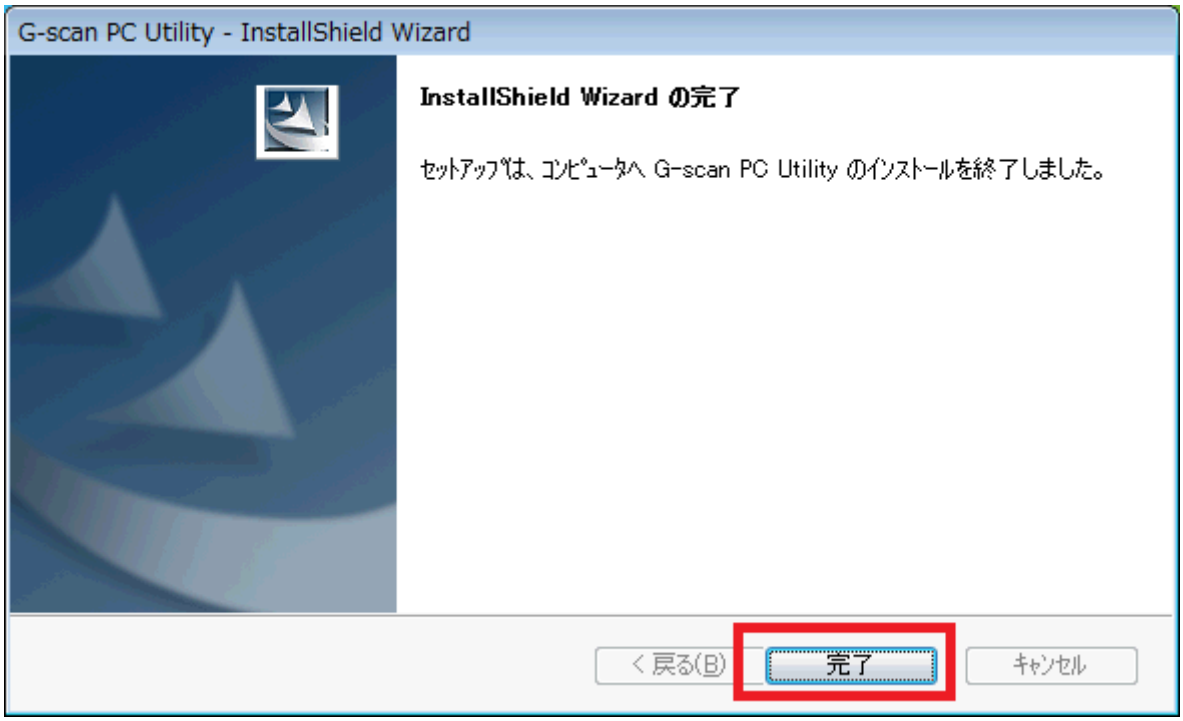
〈図：インストール準備の完了画面〉

5) はい(Y) ボタンをクリックします。



〈図：Microsoft Visual C++ 2005 Redistributable (x86)インストールの画面〉

6）インストールが完了すると以下の画面が表示されます。 完了 ボタンをクリックしてください。



〈図：インストールの終了画面〉

7）PCのデスクトップ上に以下のアイコンが表示されていることを確認してください。

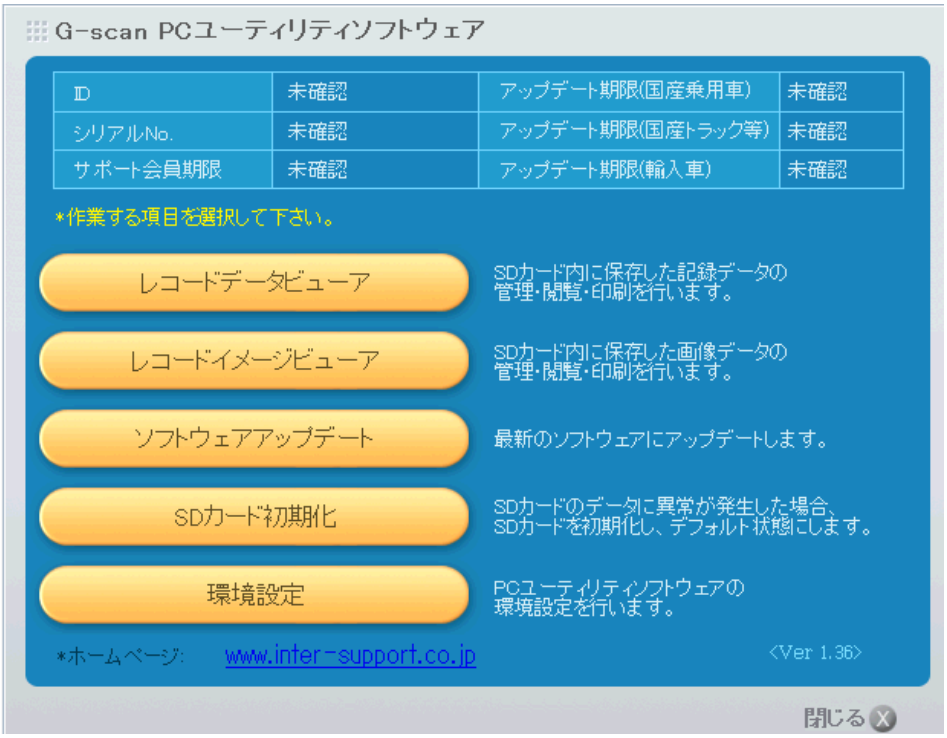
〈図：PCユーティリティソフトウェアアイコン〉

起動

1）PCデスクトップ上のPCユーティリティソフトウェアアイコンをダブルクリックして
PCユーティリティソフトウェアを起動します。

〈図：PCユーティリティソフトウェアアイコン〉

2）PCユーティリティソフトウェアが起動します。

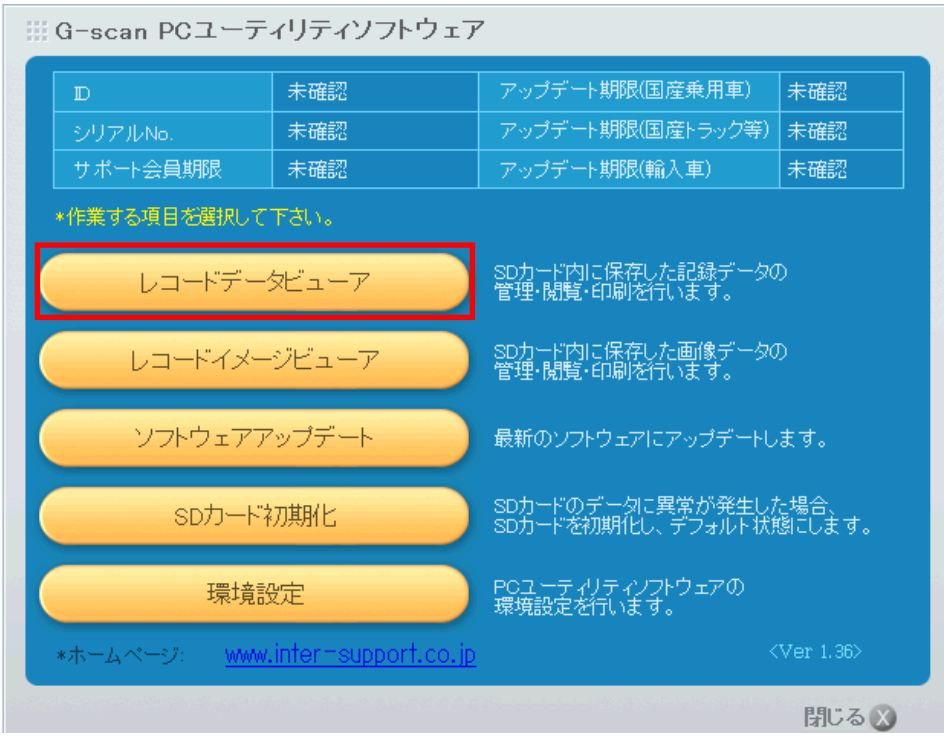


〈図：PCユーティリティソフトウェアメイン画面〉

レコードデータビューア

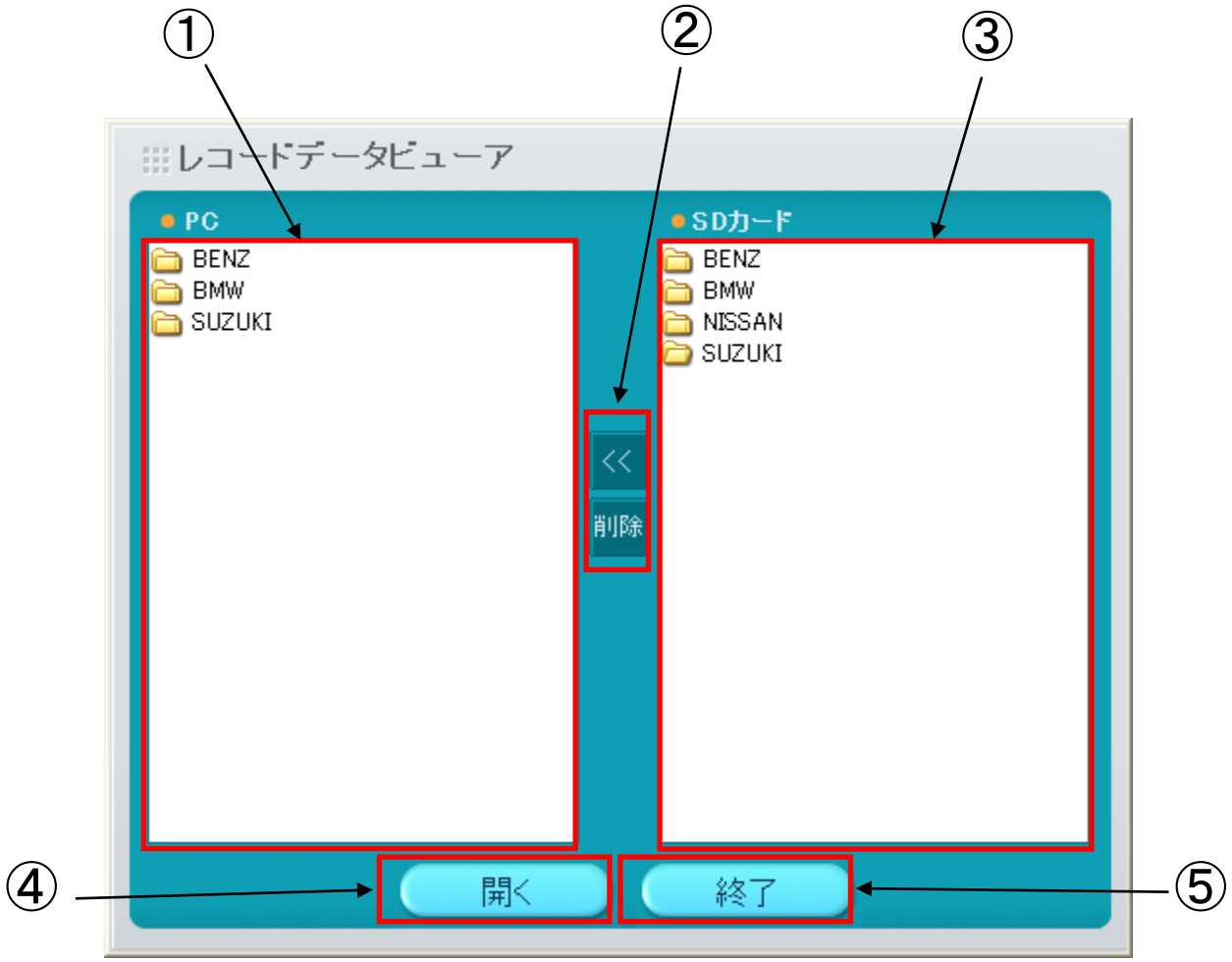
1）レコードデータビューアでは、SDカード内の保存した記録データの管理・閲覧・印刷を行います。以下の手順でSDカードをPCに接続してください。

2）PCがSDカードを正常に認識したら、PCユーティリティソフトウェアメイン画面において『レコードデータビューア』をクリックしてください。



〈図：レコードデータビューアの選択〉

3）以下の画面が表示されます。



〈図:レコードデータビューア画面〉

①	PC	PC側に保存されているフォルダ、ファイルを表示しています。
②		SDカード側に保存されているフォルダ、ファイルをPC側にコピーします。【詳細はP88 6)を参照】
		フォルダ、ファイルを削除する際に使用します。【詳細はP90 8)を参照】
③	SDカード	SDカード側に保存されているフォルダ、ファイルを表示しています。
④		記録データを開きます。【詳細はP72 4)を参照】
⑤		レコードデータビューアを終了します。

4）PC、又はSDカードから表示するファイルを選択して、『開く』ボタンをクリックしてください。

〈図：ファイルの選択〉

5）記録データが表示されます。

〈図：記録データの表示〉

サンプル ： 記録数が表示されます。

記録項目名 ： 項目名が表示されます。
項目名の部分をダブルクリックすると、横にスクロールした際にその項目が固定されます。

記録値 ： 値が表示されます。

トリガ 移動　0サンプル位置に移動します。【詳細はP74を参照】

CSVファイル生成　記録データをCSV形式のファイルで出力します。【詳細はP75を参照】

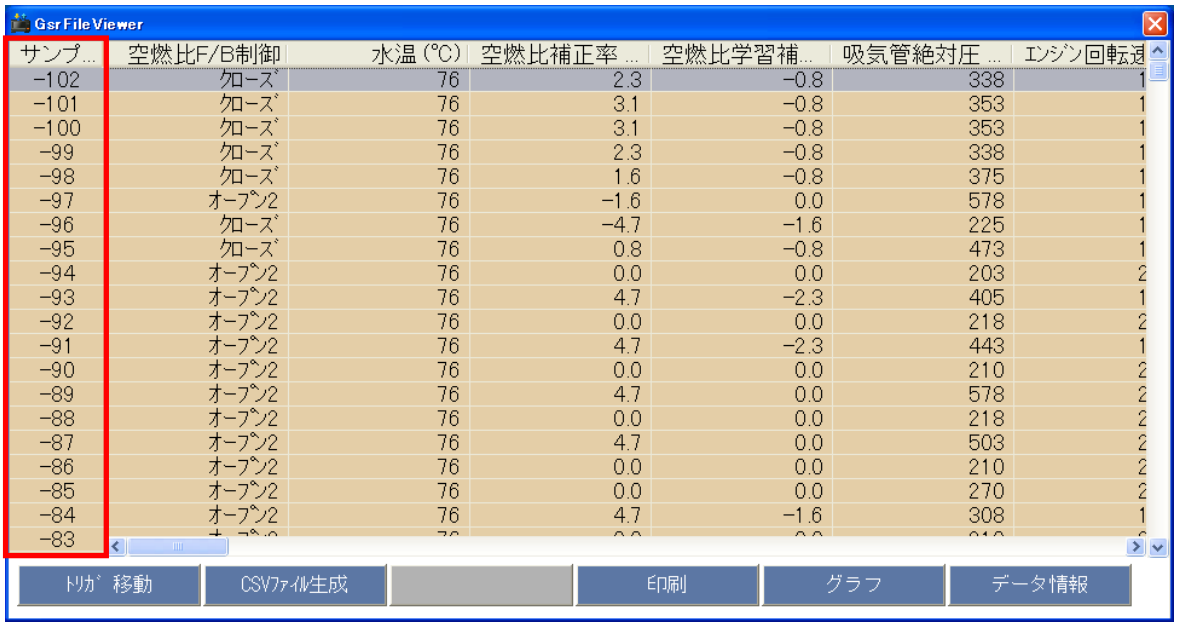
印刷　記録データを印刷します。【詳細はP78を参照】

グラフ　グラフで表示します。【詳細はP82を参照】

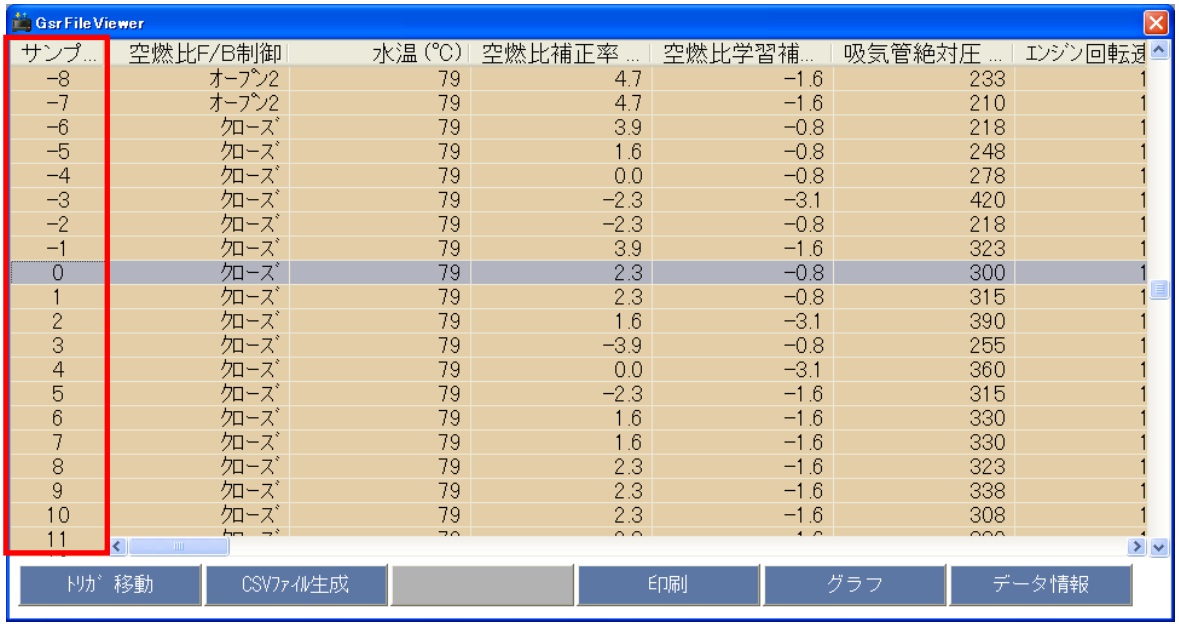
データ情報　記録データの情報を表示します。【詳細はP87を参照】

■ トリガ 移動 ボタン詳細

① トリガ 移動 ボタンをクリックすると0サンプル位置に移動します。



〈図:トリガ移動ボタンをクリック〉



〈図:0サンプル位置に移動〉

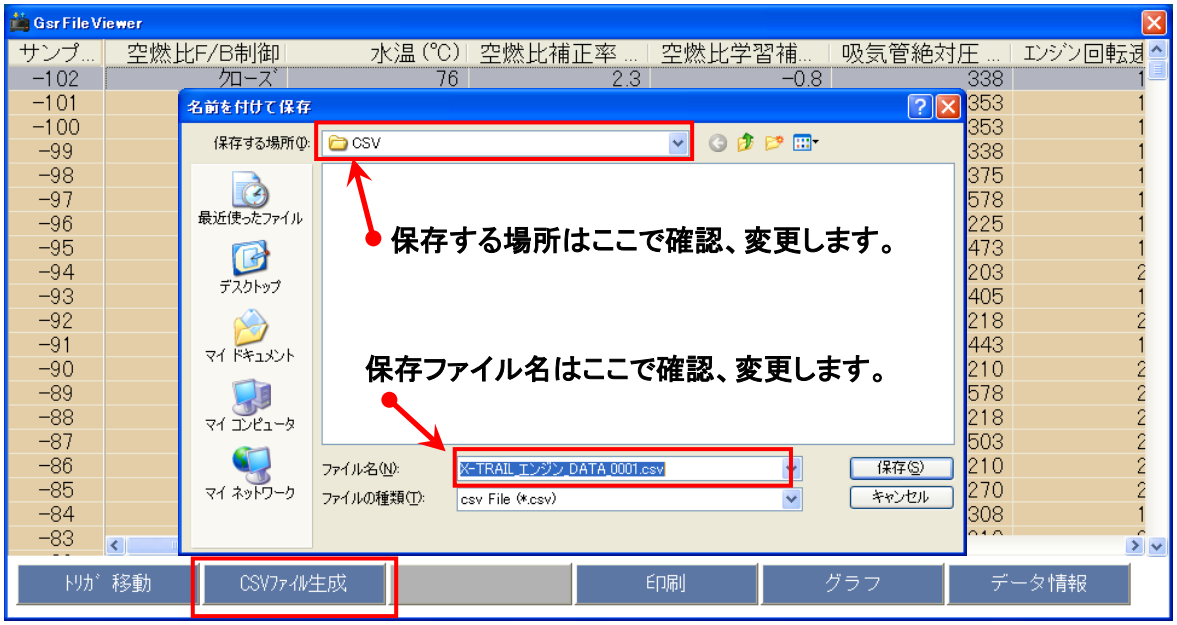
■ CSVファイル生成 ボタン詳細

➢ 『CSVファイル生成』機能について

『CSVファイル生成』機能とは、現在選択している記録データをCSV形式でファイルに出力・保存する機能です。

出力・保存したデータは、Microsoft® Excel などのツールを使用し、自由に加工することが出来ます。

① CSVファイル生成 ボタンをクリックすると、保存ファイル名の確認画面が表示されます。保存ファイル名と保存する場所を確認、又は変更して、『保存』ボタンをクリックしてCSVファイルを保存してください。



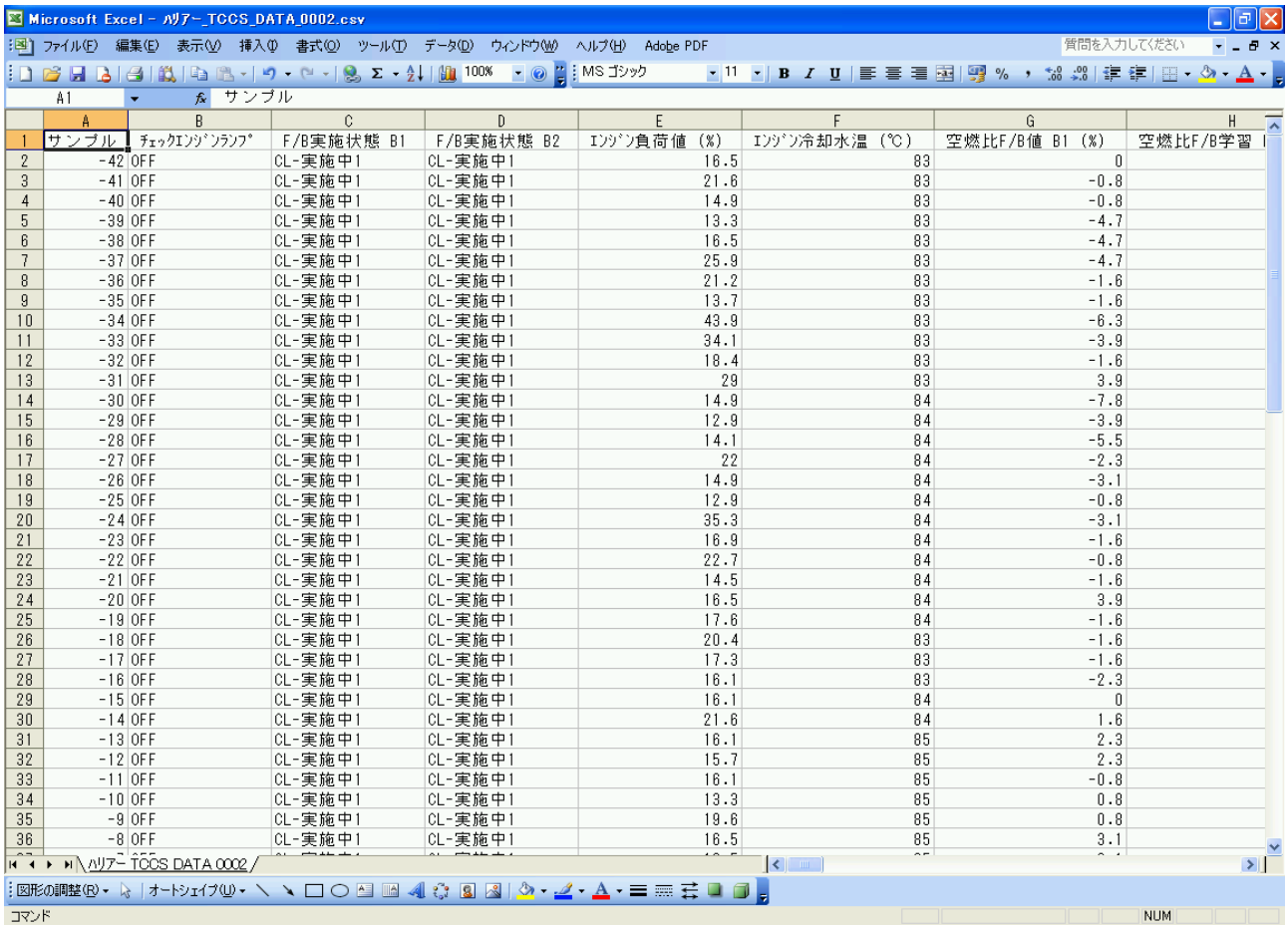
〈図：CSVファイルの生成〉

※注意と補足※

- CSV とはComma Separated Values（カンマセパレートバリュー）の略称です。
  データをカンマ（,）で区切って並べたファイル形式をCSV（シーエスブイ）形式と呼びます。
- ファイルの保存先はデフォルトでは、C:¥G-scanAM¥BACKUP¥CSV になっています。

➢ CSVファイルの表示

① 『レコードデータビューア』で出力・保存したデータを Microsoft® Excel で開くと以下のような画面が表示されます。
目的に応じて自由に加工してください。


Microsoft Excel - ﾊﾘｱｰ_TCCS_DATA_0002.csv
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) Adobe PDF
MS ゴシック
A1 サンプル
サンプル | ﾁｪｯｸｴﾝｼﾞﾝﾗﾝﾌﾟ | F/B実施状態 B1 | F/B実施状態 B2 | ｴﾝｼﾞﾝ負荷値 (%) | ｴﾝｼﾞﾝ冷却水温 (℃) | 空燃比F/B値 B1 (%) | 空燃比F/B学習
-42 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.5 83 0
-41 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 21.6 83 -0.8
-40 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 14.9 83 -0.8
-39 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 13.3 83 -4.7
-38 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.5 83 -4.7
-37 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 25.9 83 -4.7
-36 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 21.2 83 -1.6
-35 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 13.7 83 -1.6
-34 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 43.9 83 -6.3
-33 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 34.1 83 -3.9
-32 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 18.4 83 -1.6
-31 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 29 83 3.9
-30 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 14.9 84 -7.8
-29 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 12.9 84 -3.9
-28 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 14.1 84 -5.5
-27 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 22 84 -2.3
-26 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 14.9 84 -3.1
-25 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 12.9 84 -0.8
-24 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 35.3 84 -3.1
-23 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.9 84 -1.6
-22 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 22.7 84 -0.8
-21 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 14.5 84 -1.6
-20 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.5 84 3.9
-19 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 17.6 84 -1.6
-18 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 20.4 83 -1.6
-17 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 17.3 83 -1.6
-16 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.1 83 -2.3
-15 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.1 84 0
-14 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 21.6 84 1.6
-13 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.1 85 2.3
-12 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 15.7 85 2.3
-11 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.1 85 -0.8
-10 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 13.3 85 0.8
-9 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 19.6 85 0.8
-8 OFF CL-実施中1 CL-実施中1 16.5 85 3.1
ﾊﾘｱｰ_TCCS_DATA_0002
図形の調整(R) オートシェイプ(U)
コマンド
NUM

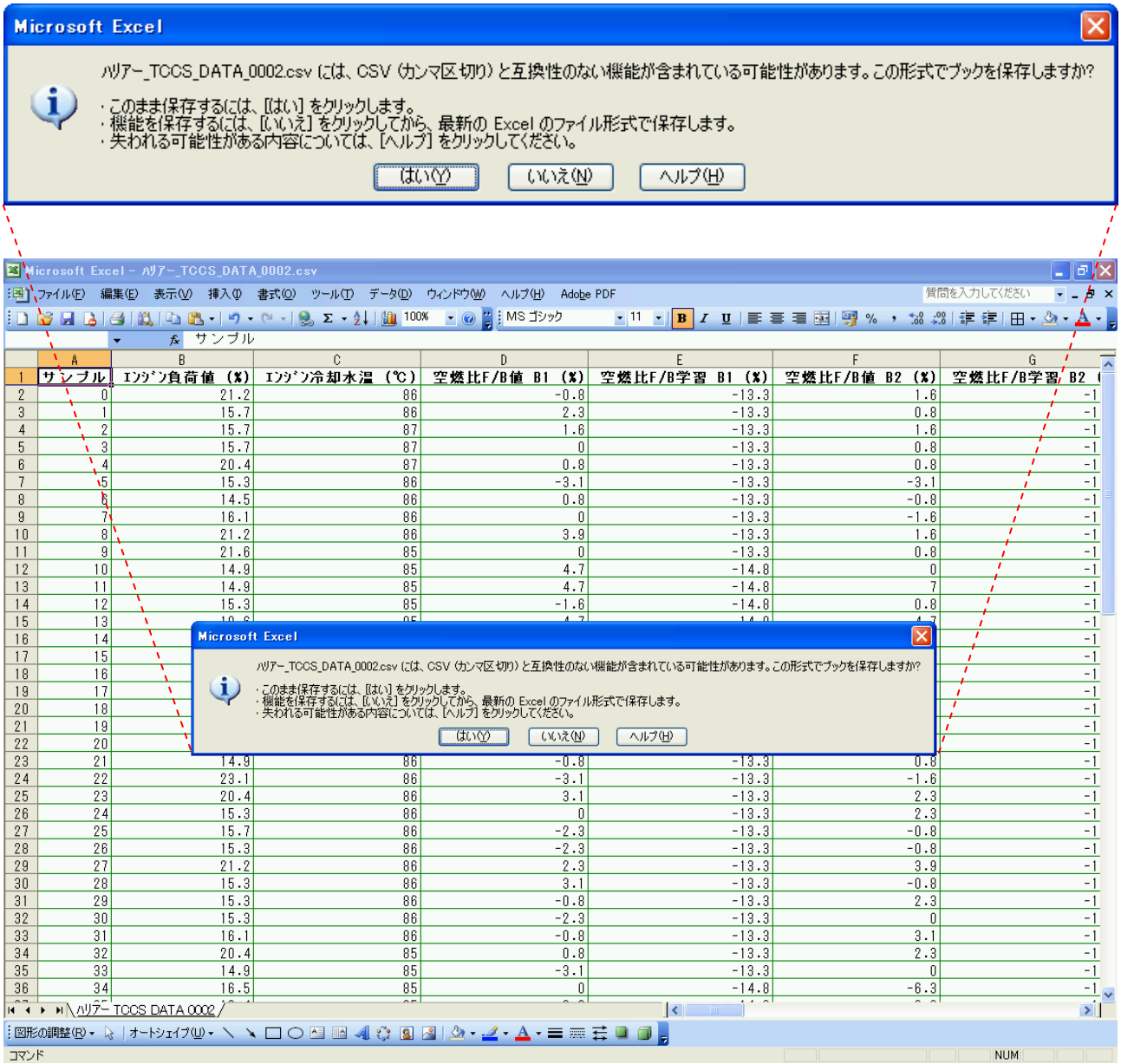
〈図：Excelで開いたCSVファイル〉

② CSVファイルを保存しようとすると以下のメッセージが表示されます。

これは、セルの書式や罫線をはじめ、文字データ以外のほとんどの設定は、CSV形式で保存すると失われるためです。

書式や罫線などの設定情報を残したまま保存する場合は、[いいえ(N)] を選択して保存してください。

[はい(Y)] を選択すると設定情報は失われますがCSV形式で保存します。



〈図:保存形式の確認画面〉

■ 印刷 ボタン詳細

➢ 印刷方法

① 印刷 ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。

〈図：記録データの印刷〉

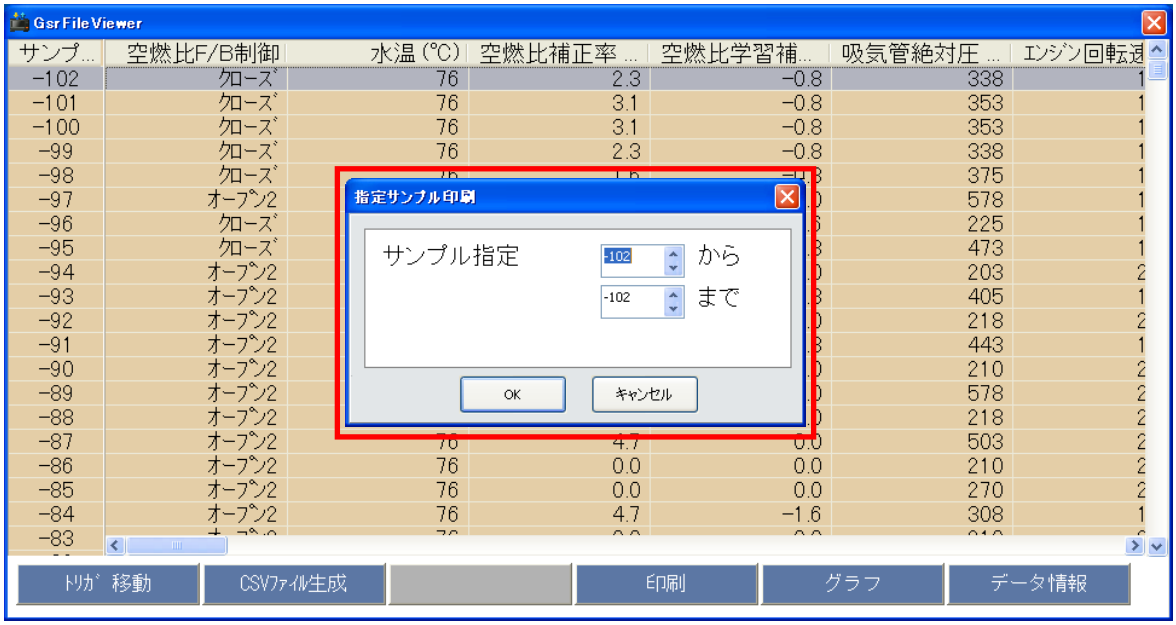
指定サンプル印刷 ： 指定したサンプル分のデータを印刷します。

全サンプル印刷 ： 全サンプルを印刷します。

② 『指定サンプル印刷』を選択するとの以下の画面が表示されます。

印刷するサンプル範囲を指定して『OK』ボタンをクリックしてください。

印刷ダイアログが表示されます。印刷設定を行い、『OK』ボタンをクリックすると印刷が開始されます。



※注意と補足※

・ 『全サンプル印刷』を選択した場合、上記の画面は表示されません。

『全サンプル印刷』を選択後、印刷ダイアログが表示されます。印刷設定を行い、『OK』ボタンをクリックして印刷を開始してください。

➢ 印刷見本

A) 『指定サンプル印刷』を実行すると以下の印刷見本のように、1サンプル分のデータを表にしたものが印刷されます。また、複数のサンプルを指定した場合、以下の表が指定したサンプル分印刷されます。

メーカ	TOYOTA
1	ﾊﾘｱｰ
2	MCU30型系
3	1MZ-FE
4	'03.2～'05.12(H15.2～H17.12)
システム	TCCS
サンプル	-11

項目名	データ	項目名	データ	項目名	データ	項目名	データ
ﾁｪｯｸｴﾝｼﾞﾝﾗﾝﾌﾟ (--)	OFF	ｽﾛｯﾄﾙｾﾝｻ全閉状態 (--)	ON	OCVﾃﾞｭｰﾃｨ比 B1 (%)	41.85	ｼﾌﾄﾀﾞｳﾝSW D(5) (--)	OFF
F/B実施状態 B1 (--)	CL-実施中1	退避走行(ｻﾌﾞCPU) (--)	OFF	VVT目標変位角 B2 (°)	0.00	SNOWﾓｰﾄﾞSW (--)	OFF
F/B実施状態 B2 (--)	CL-実施中1	退避走行(ﾒｲﾝCPU) (--)	OFF	VVT変位角 B2 (°)	0.71	ﾏﾆｭｱﾙｼﾌﾄ ﾒｲﾝSW (--)	OFF
ｴﾝｼﾞﾝ負荷値 (%)	21.2	ｽﾛｯﾄﾙ全閉学習値 (V)	0.69	OCVﾃﾞｭｰﾃｨ比 B2 (%)	42.31	ｼﾌﾄDOWN SW (--)	OFF
ｴﾝｼﾞﾝ冷却水温 (°C)	86	ｱｸｾﾙ全閉学習値 (°)	20	噴射時間#1 (mS)	2.3	ｼﾌﾄUP SW (--)	OFF
空燃比F/B値 B1 (%)	-0.8	ｽﾛｯﾄﾙﾓｰﾀ電流 (A)	1.41	ﾊﾟﾜｽﾃSW (--)	OFF	ﾗｲﾝ圧SOL(SLT) (--)	ON
空燃比F/B学習 B1 (%)	-13.3	電ｽﾛｸﾗｯﾁ電流 (A)	0.00	ｽﾄｯﾌﾟﾗﾝﾌﾟSW (--)	OFF	ｶｳﾝﾀｷｬﾌﾟ回転数 NC (rpm)	0
空燃比F/B値 B2 (%)	1.6	AT油温 (°C)	51	電気負荷信号 (--)	OFF		
空燃比F/B学習 B2 (%)	-11.7	ｸﾙｰｽﾞ車速 (Km/h)	0	ﾆｭｰﾄﾗﾙｽﾀｰﾄSW (--)	ON		
ｴﾝｼﾞﾝ回転数 (rpm)	655	ｸﾙｰｽﾞｾｯﾄ車速 (Km/h)	0	ｴｱｺﾝ信号 (--)	OFF		
車速 (Km/h)	0	ｸﾙｰｽﾞ要求ｽﾛ開度 (°)	0	ｱｲﾄﾞﾙSW (--)	ON		
点火時期(#1) (°CA)	12.5	ｸﾙｰｽﾞﾒｲﾝSW (--)	OFF	ｽﾀｰﾀ信号 (--)	OFF		
吸入空気温度 (°C)	38	ｸﾙｰｽﾞｲﾝｼﾞｹｰﾀ状態 (--)	OFF	低負荷時ﾌｭｰｴﾙｶｯﾄ (--)	OFF		
吸入空気量 (gm/s)	4.17	ｸﾙｰｽﾞ制御中 (--)	OFF	ｱｲﾄﾞﾙONﾌｭｰｴﾙｶｯﾄ (--)	OFF		
ｽﾛｯﾄﾙNo.1ｾﾝｻ開度 (%)	16.9	ｸﾙｰｽﾞｼﾌﾄ Dﾚﾝｼﾞ (--)	OFF	Gｾﾝｻﾌｭｰｴﾙｶｯﾄ (--)	OFF		
O2ｾﾝｻ電圧 B1S1 (V)	0.680	ｸﾙｰｽﾞﾌﾞﾚｰｷSW (--)	OFF	ﾊﾟﾜｽﾃ信号履歴 (--)	ON		
O2ｾﾝｻ電圧 B1S2 (V)	0.115	RES/ACC SW (--)	OFF	Gｾﾝｻ F/C通信状態 (--)	正常		
O2ｾﾝｻ電圧 B2S1 (V)	0.780	SET/COAST SW (--)	OFF	吸気制御VSV (--)	OFF		
O2ｾﾝｻ電圧 B2S2 (V)	0.115	ｸﾙｰｽﾞ CANSEL SW (--)	OFF	ｻｰｷｯﾄｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞﾘﾚｰ (--)	ON		
ｼﾞｬﾀﾞｰ出力 (--)	OK	ｸﾙｰｽﾞ要求加速度 (kmh/s)	0.0	ｴｱｺﾝMgｸﾗｯﾁﾘﾚｰ (--)	OFF		
ｱｸｾﾙNo.1ｾﾝｻ電圧 (V)	0.78	ｸﾙｰｽﾞ車間距離 (m)	0	ﾊﾟｰｼﾞVSV (--)	OFF		
ｱｸｾﾙNo.2ｾﾝｻ電圧 (V)	1.59	ｸﾙｰｽﾞ操舵角 (°)	0.0	VVT制御2 (--)	ON		
ｽﾛｯﾄﾙNo.2ｾﾝｻ電圧 (V)	2.41	ｸﾙｰｽﾞ警報BZ要求 (--)	OFF	吸気制御VSV2 (--)	OFF		
ｽﾛｯﾄﾙ要求開度 (V)	0.82	ｸﾙｰｽﾞ3速ｼﾌﾄﾀﾞｳﾝ (--)	OFF	VVT制御 (--)	ON		
ｽﾛｯﾄﾙﾓｰﾀ開ﾃﾞｭｰﾃｨ (%)	0	ｸﾙｰｽﾞO/Dｶｯﾄ (--)	OFF	ｼｬﾌﾄ回転数(NT) (rpm)	650		
ｽﾛｯﾄﾙﾓｰﾀ閉ﾃﾞｭｰﾃｨ (%)	12	ﾚｰﾀﾞｸﾙｰｽﾞｼｽﾃﾑ (--)	無	ECT変速位置 (速)	1		
ｽﾛｯﾄﾙﾓｰﾀ作動状態 (--)	ON	車間距離設定値 (--)	R/C無	ﾛｯｸｱｯﾌﾟ状態 (--)	OFF		
電ｽﾛｸﾗｯﾁ作動状態 (--)	OFF	ｸﾙｰｽﾞﾖｰﾚｰﾄ (DEG/s)	0.0	O/Dｶｯﾄﾘﾚｲﾄﾞ (--)	許可		
電ｽﾛｱｸﾁｭｴｰﾀ電源 (--)	ON	VVT目標変位角 B1 (°)	0.00	ﾀｲﾐﾝｸﾞﾘﾚｲﾄﾞ(ST) (--)	OFF		
ｱｸｾﾙｾﾝｻ全開状態 (--)	ON	VVT変位角 B1 (°)	0.78	ｼﾌﾄﾀﾞｳﾝSW Rﾚﾝｼﾞ (--)	OFF		

〈図:「指定サンプル印刷」実行時の印刷見本〉

※注意と補足※

- 記録している項目数によっては、印刷が複数ページに及ぶ場合もあります。
- 用紙サイズはA4(210mm×297mm、縦)です。
- 拡大して印刷を行う場合などは、お使いのプリンタの設定上で行っていただくか、CSVファイルを生成してから Microsoft® Excel などで加工をして印刷を行ってください。【CSVファイル生成についてはP75を参照】

B） 『全サンプル印刷』を実行すると以下の印刷見本のように、全サンプルのデータを表にしたものが印刷されます。

メーカ	TOYOTA
1	ハリアー
2	MCU30型系
3	1MZ-FE
4	'03.2～'05.12(H15.2～H17.12)
システム	TCCS

サンプル	チェックエンジンランプ	F/B実施状態 B1	F/B実施状態 B2	エンジン負荷値 (%)	エンジン冷却水温 (℃)	空燃比F/B値 B1 (%)	空燃比F/B学習 B1 (%)	空燃比F/B値 B2 (%)	空燃比F/B学習 B2 (%)	エンジン回転数 (rpm)	車速 (Km/h)	点火時期(#1) (°CA)
0	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.8	63	-6.3	-10.9	-0.8	-10.2	737	0	15.5
1	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.4	63	-7.8	-11.7	-3.9	-10.9	764	0	12.5
2	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	23.9	63	-2.3	-11.7	-3.1	-10.9	759	0	11.5
3	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.8	63	-1.6	-10.9	-1.6	-10.2	2135	0	32.5
4	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	19.6	64	-3.1	-10.9	-0.8	-10.9	1916	0	35.5
5	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	21.2	65	-2.3	-10.9	-0.8	-10.2	2402	0	40.0
6	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.0	65	-3.1	-10.9	-2.3	-10.2	2433	0	40.0
7	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	24.7	66	-11.7	-11.7	-9.4	-10.9	851	0	16.5
8	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	21.2	67	-4.7	-10.9	-3.9	-10.2	687	0	15.0
9	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.8	68	-2.3	-10.9	-3.1	-10.2	687	0	15.0
10	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.8	68	-3.9	-10.9	-1.6	-10.2	682	0	15.0
11	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.4	69	-2.3	-10.9	-1.6	-10.2	689	0	15.0
12	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	25.5	70	-3.9	-8.6	-3.9	-7.8	703	0	12.0
13	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.4	70	-3.1	-10.2	-1.6	-10.2	662	0	15.0
14	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.8	70	-1.6	-10.9	-1.6	-10.2	691	0	15.5
15	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.0	70	-1.6	-11.7	-3.1	-10.2	725	0	15.5
16	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.4	71	-3.1	-12.5	-3.1	-11.7	708	0	16.5
17	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	22.4	71	-0.8	-12.5	-2.3	-11.7	692	0	12.0
18	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.0	71	-0.8	-13.3	-1.6	-11.7	685	0	15.0
19	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	16.5	71	-3.9	-13.3	-5.5	-11.7	813	0	12.5
20	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	19.6	71	0.0	-12.5	0.0	-10.9	1821	0	35.0
21	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.4	72	2.3	-13.3	4.7	-12.5	1551	0	28.5
22	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	23.1	72	3.1	-14.8	0.0	-14.1	1321	0	30.0
23	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.4	73	-3.9	-14.8	1.6	-13.3	1541	0	33.5
24	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	21.2	74	-4.7	-12.5	-3.9	-11.7	2141	0	37.0
25	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	19.2	75	0.0	-14.1	0.8	-13.3	2146	0	37.5
26	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	22.4	75	0.8	-12.5	-3.9	-9.4	2558	0	37.5
27	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	22.0	76	0.0	-12.5	0.8	-12.5	2725	0	38.0
28	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	20.4	77	-3.9	-14.8	-4.7	-14.1	1934	0	33.5
29	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.4	78	1.6	-14.8	2.3	-14.1	1596	0	33.0
30	OFF	CL-実施中!	CL-実施中!	18.0	79	-3.9	-14.8	2.3	-14.1	1602	0	33.5

〈図:「全サンプル印刷」実行時の印刷見本〉

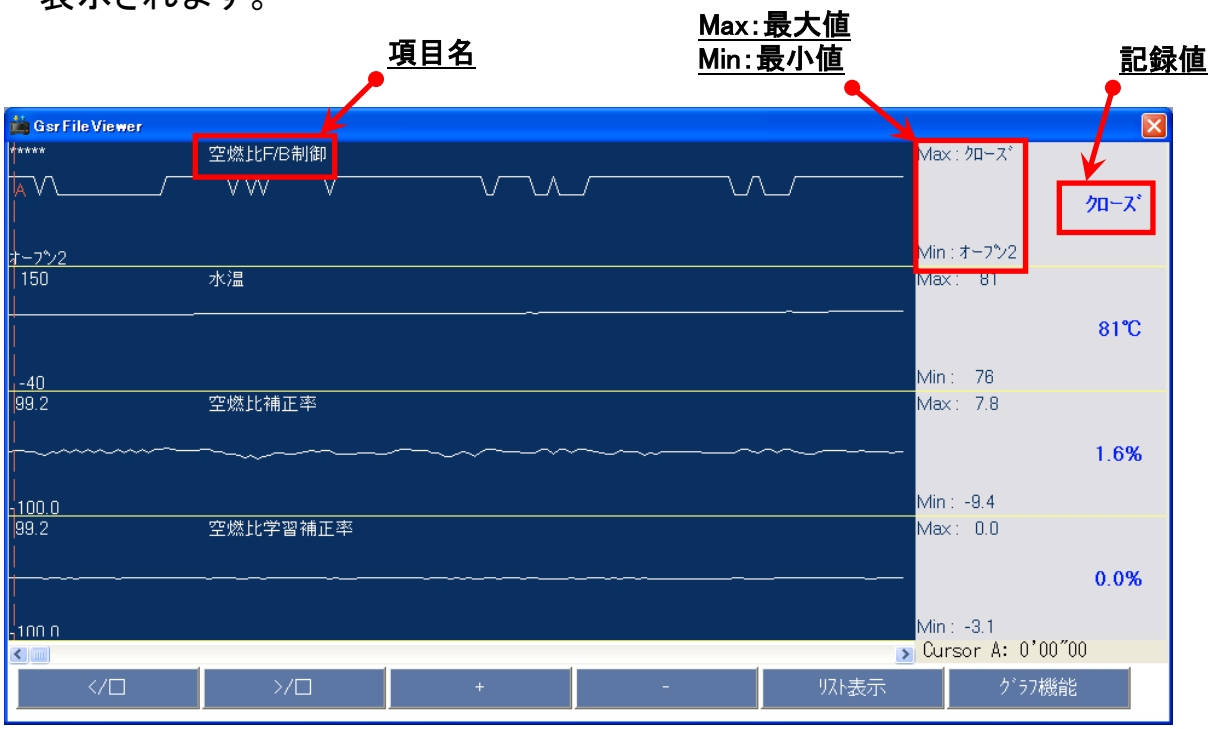
※注意と補足※

- 記録している項目数やサンプル数によっては、印刷が複数ページに及ぶ場合もあります。
- 用紙サイズはA4（210mm×297mm、縦）です。
- 拡大して印刷を行う場合などは、お使いのプリンタの設定上で行っていただくか、CSVファイルを生成してから Microsoft® Excel などで加工をして印刷を行ってください。

【CSVファイル生成についてはP75を参照】

■ グラフ ボタン詳細

① グラフ ボタンをクリックすると数値で表示されていたデータがグラフで表示されます。



〈図:記録データのグラフ表示〉

項目名 ： 項目名が表示されます。

記録値 ： カーソルA上の値が表示されます。

最大値/最小値: 最大値、最小値が表示されます。

</□ グラフを左に送ります。

>/□ グラフを右に送ります。

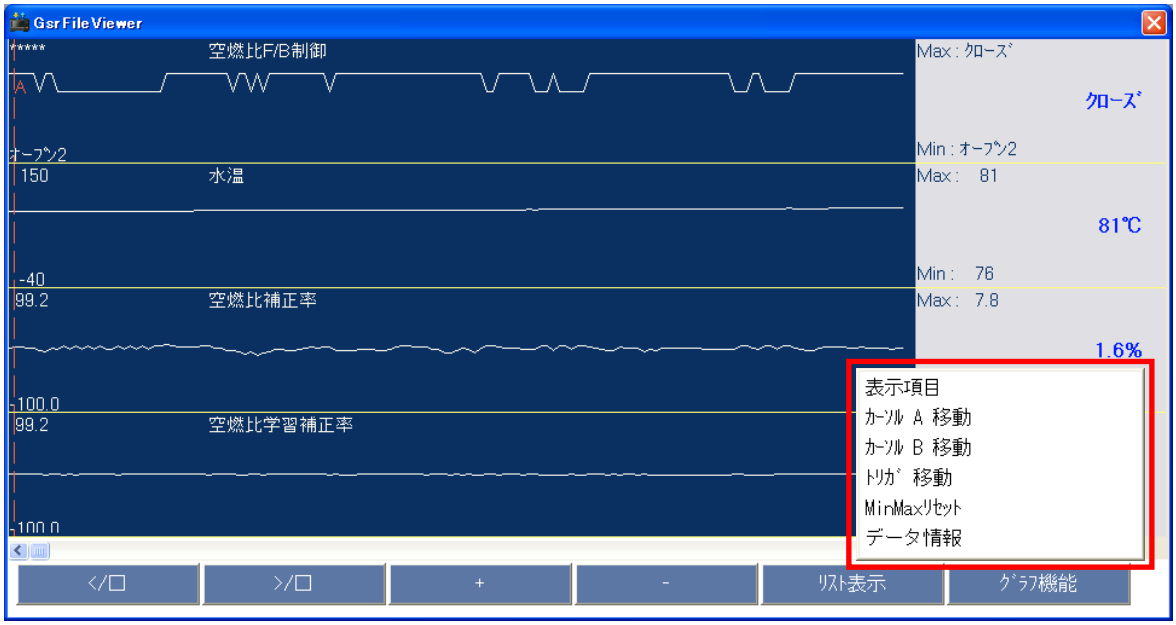
+ グラフを拡大します。

- グラフを縮小します。

リスト表示 数値表示に戻ります。

グラフ機能 グラフ機能を使用します。【詳細はP83 ②を参照】

② グラフ機能 ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。



〈図：グラフ機能の詳細〉

表示項目 ： 表示する項目を選択します。【詳細はP84 ③を参照】

カーソルA移動 ： コントロールをカーソルAに移動します。【詳細はP85 ④を参照】

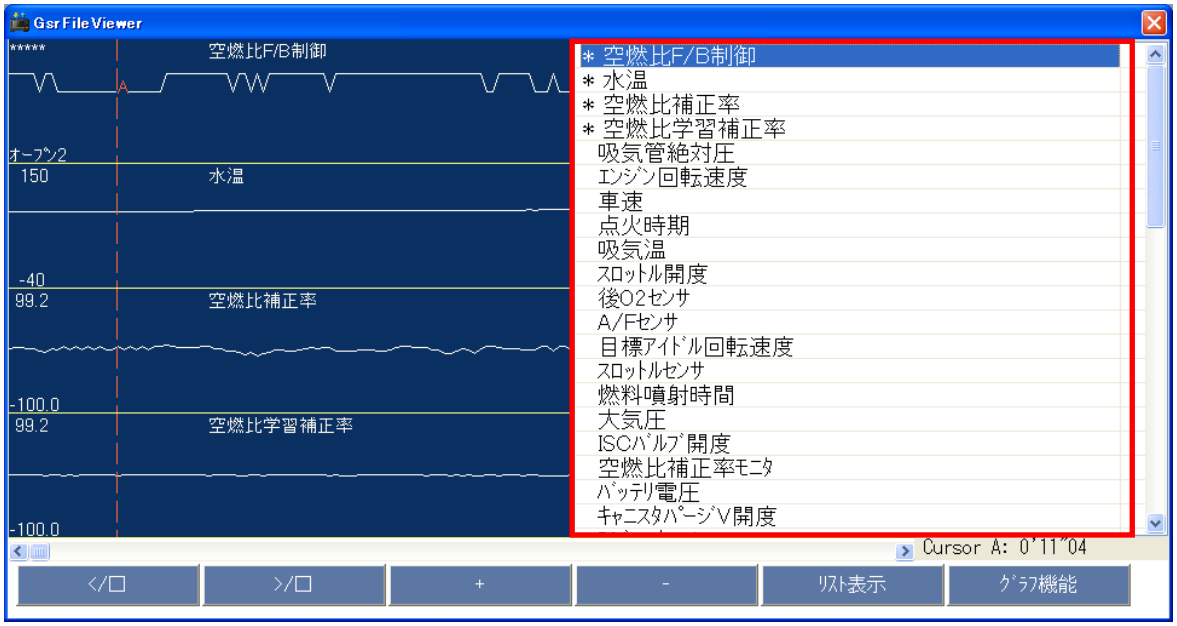
カーソルB移動 ： コントロールをカーソルBに移動します。【詳細はP86 ⑤を参照】

トリガ移動 ： カーソルAをトリガ位置（0サンプル位置）に移動します。

MinMAXリセット ： 最大値、最小値をリセットします。

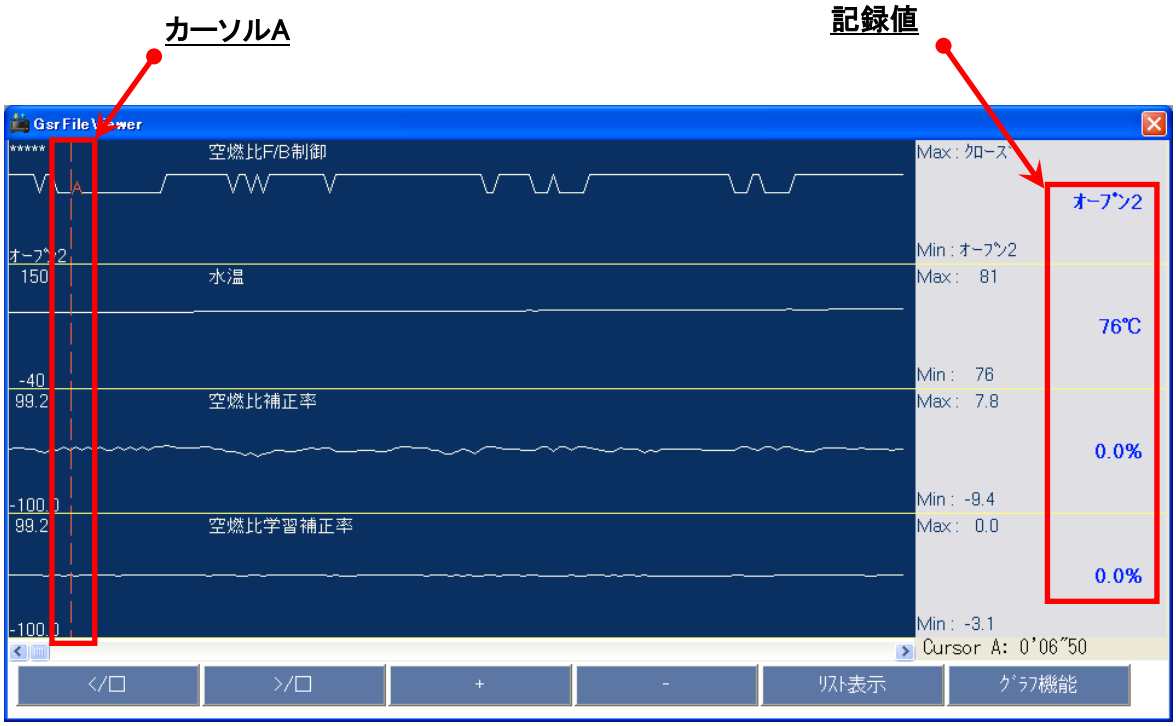
データ情報 ： 保存したデータ情報を表示します。【詳細はP87を参照】

③ 『表示項目』を選択すると以下の画面が表示されます。項目名をタッチしてください。グラフに表示する項目が選択されます。尚、選択できる項目は最大で4項目です。選択を終了する場合は『表示項目』を再度クリックしてください。



〈図：表示項目の選択〉

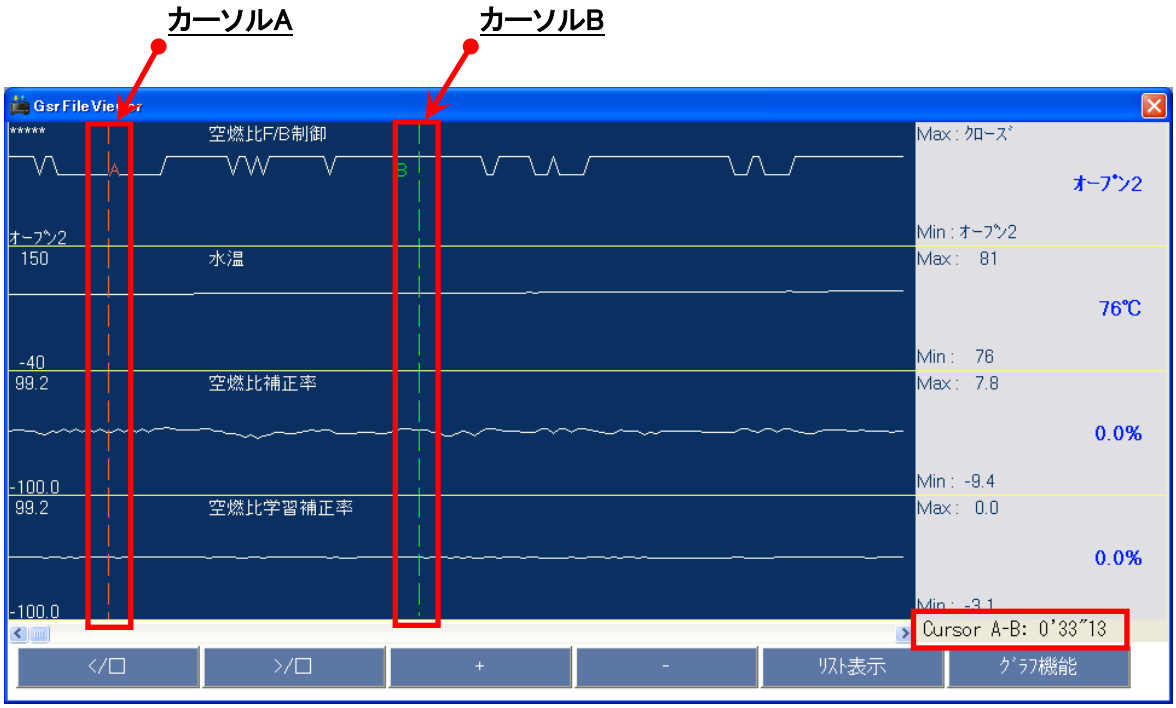
④ 『カーソルA移動』を選択するとカーソルAにコントロールが移ります。
マウスでグラフをクリックしてカーソルAの位置を移動させてください。カーソルA上にある値が記録値に表示されます。



〈図：カーソルAの移動〉

⑤ 『カーソルB移動』を選択するとカーソルBにコントロールが移ります。

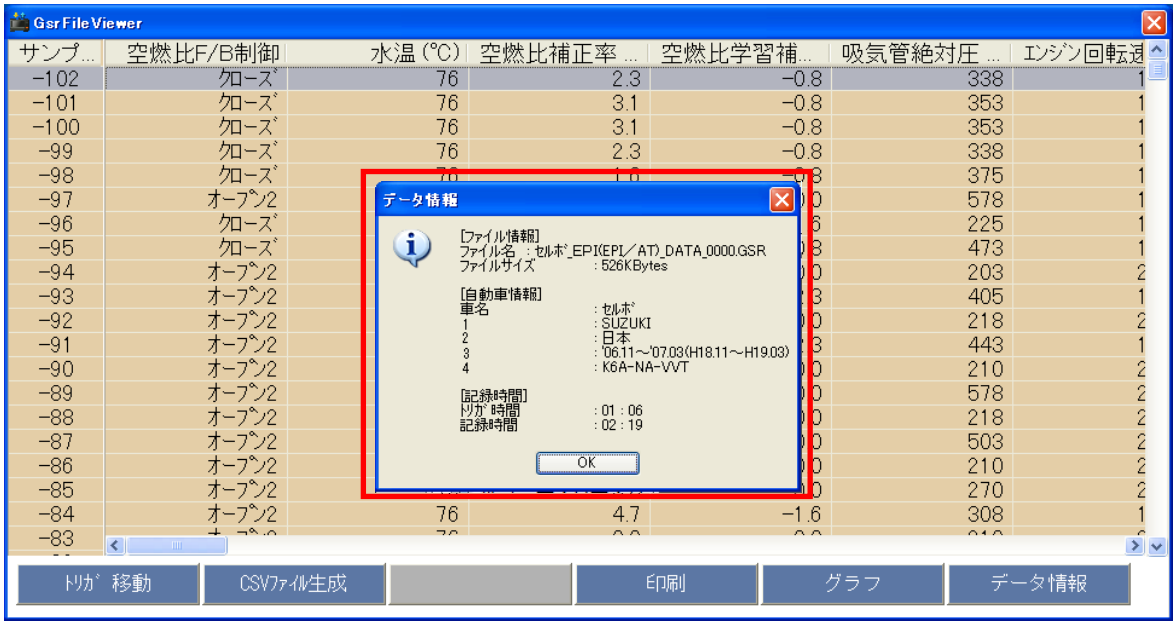
マウスでグラフをクリックしてカーソルBの位置を移動させてください。画面右下にカーソルAからカーソルBまでの時間が表示されます。



〈図：カーソルBの移動〉

■ データ情報 ボタン詳細

① データ情報 ボタンをクリックするとデータ情報画面が表示されます。データ情報画面では現在表示している保存データの詳細を表示します。



〈図:データ情報画面〉

6）SDカードからPCへフォルダ、ファイルをコピーする場合は、SDカードのフォルダ、
又はファイルを選択して 《 ボタンをクリックしてください。

〈図：SDカード→PCへの保存〉

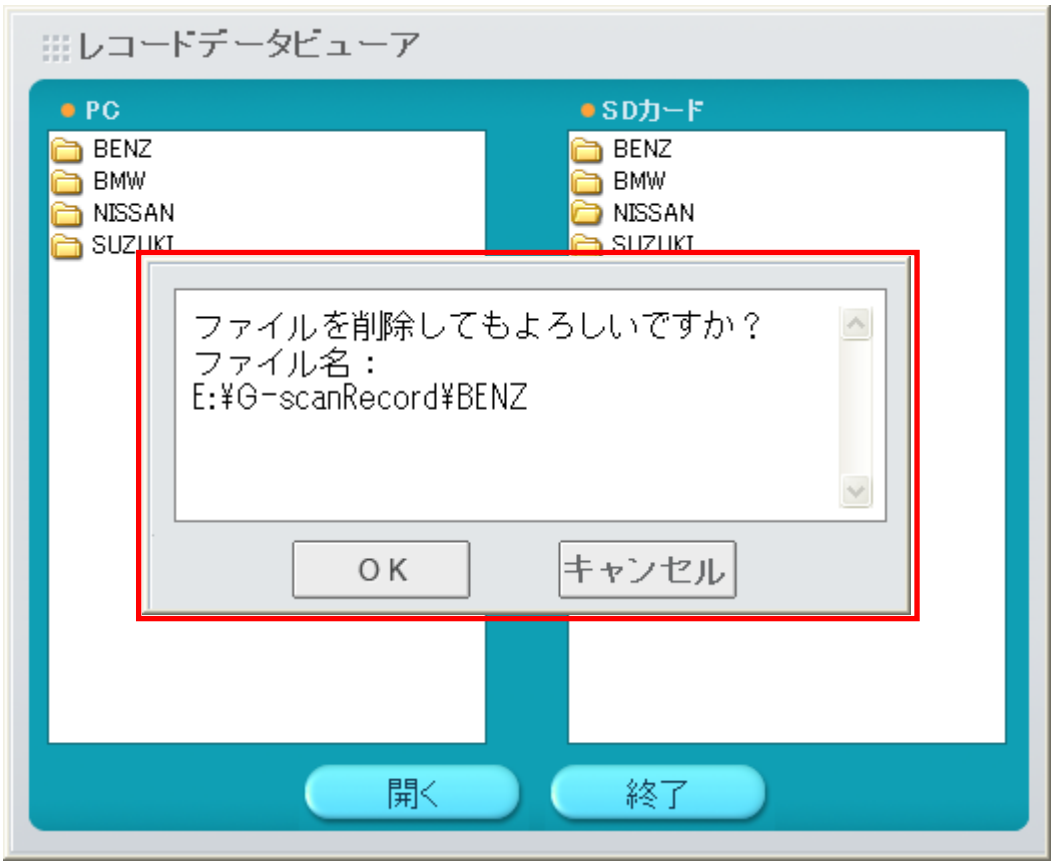
7）PCに選択したフォルダ、ファイルが保存されます。

〈図：SDカード→PCへの保存完了〉

8）フォルダ、ファイルを削除する場合は、削除するフォルダ、又はファイルを選択して 削除 ボタンをクリックしてください。

〈図：フォルダ、ファイルの削除〉

9）以下の画面が表示されます。よろしければ『OK』ボタンをクリックして選択したフォルダ、又はファイルを削除してください。



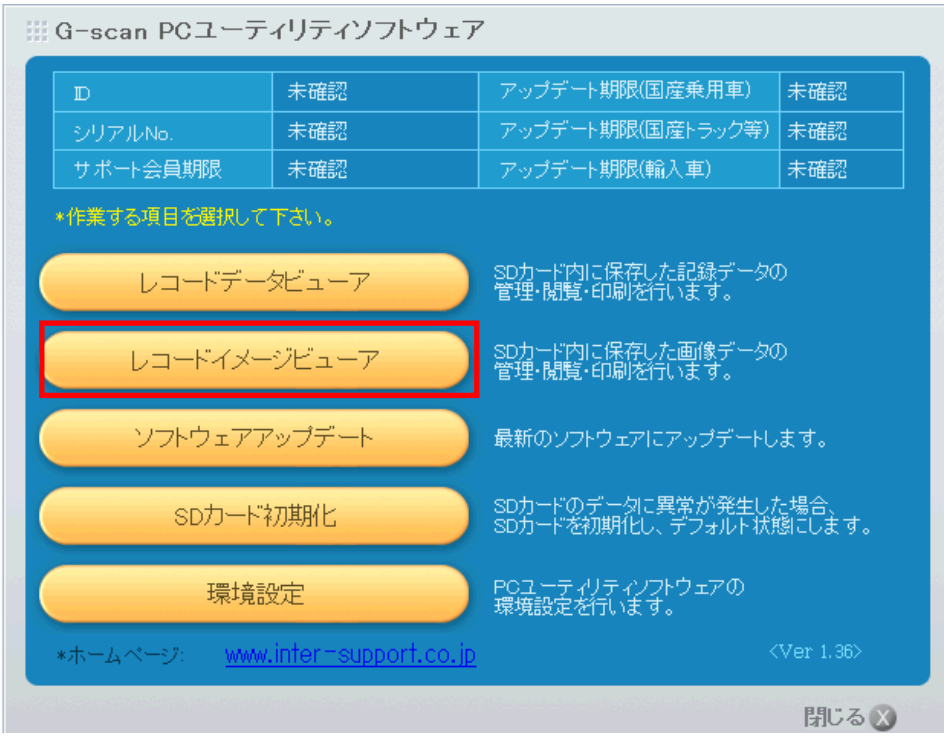
〈図：フォルダ、ファイルの削除確認〉

レコードイメージビューア

PCユーティリティソフトウェア

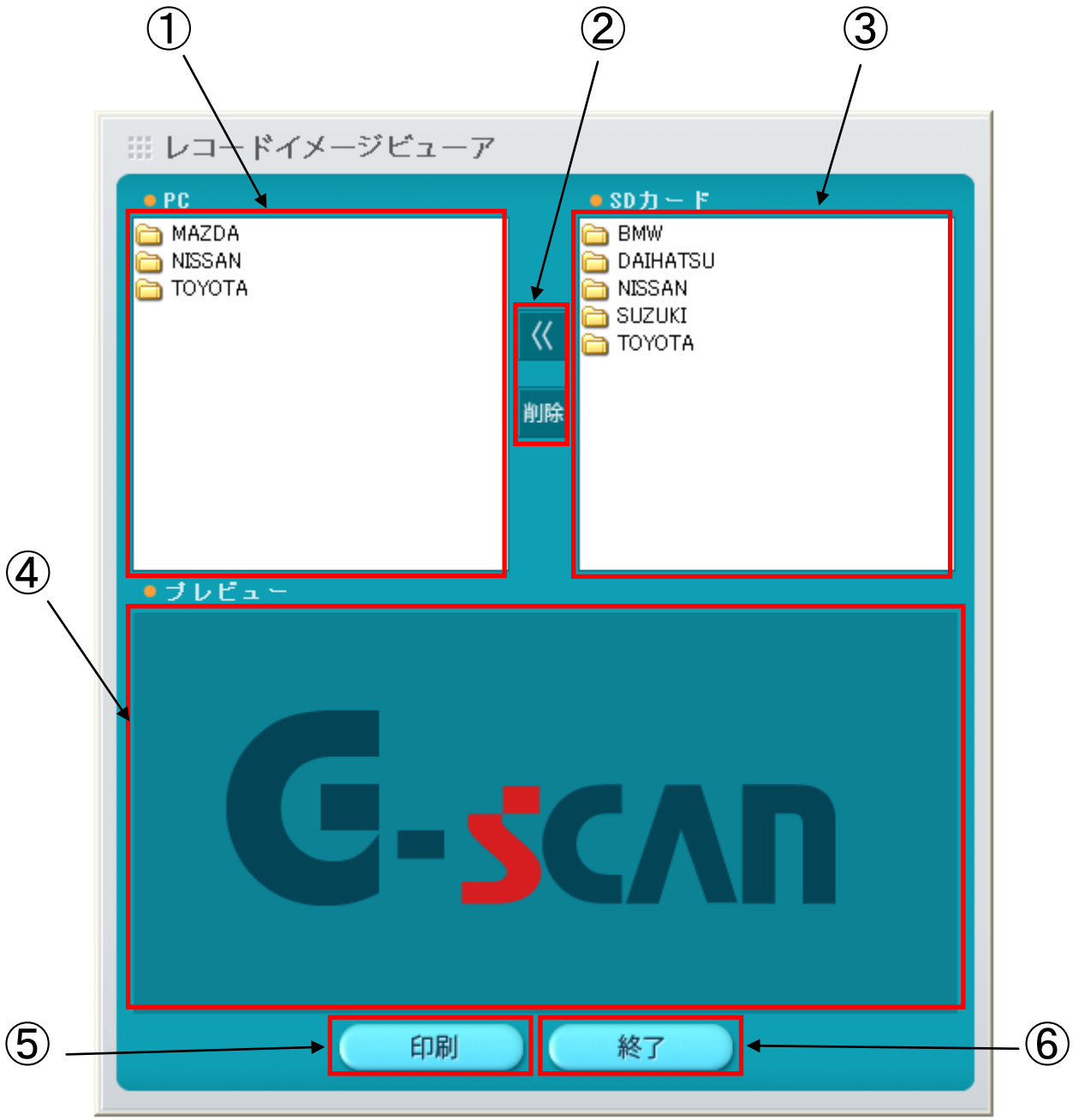
1）レコードイメージビューアではSDカード内に保存した画像データの管理・閲覧・印刷を行います。以下の手順でSDカードをPCに接続してください。

2）PCがSDカードを正常に認識したら、PCユーティリティソフトウェアメイン画面において『レコードイメージビューア』をクリックしてください。



〈図：レコードイメージビューアの選択〉

3）以下の画面が表示されます。

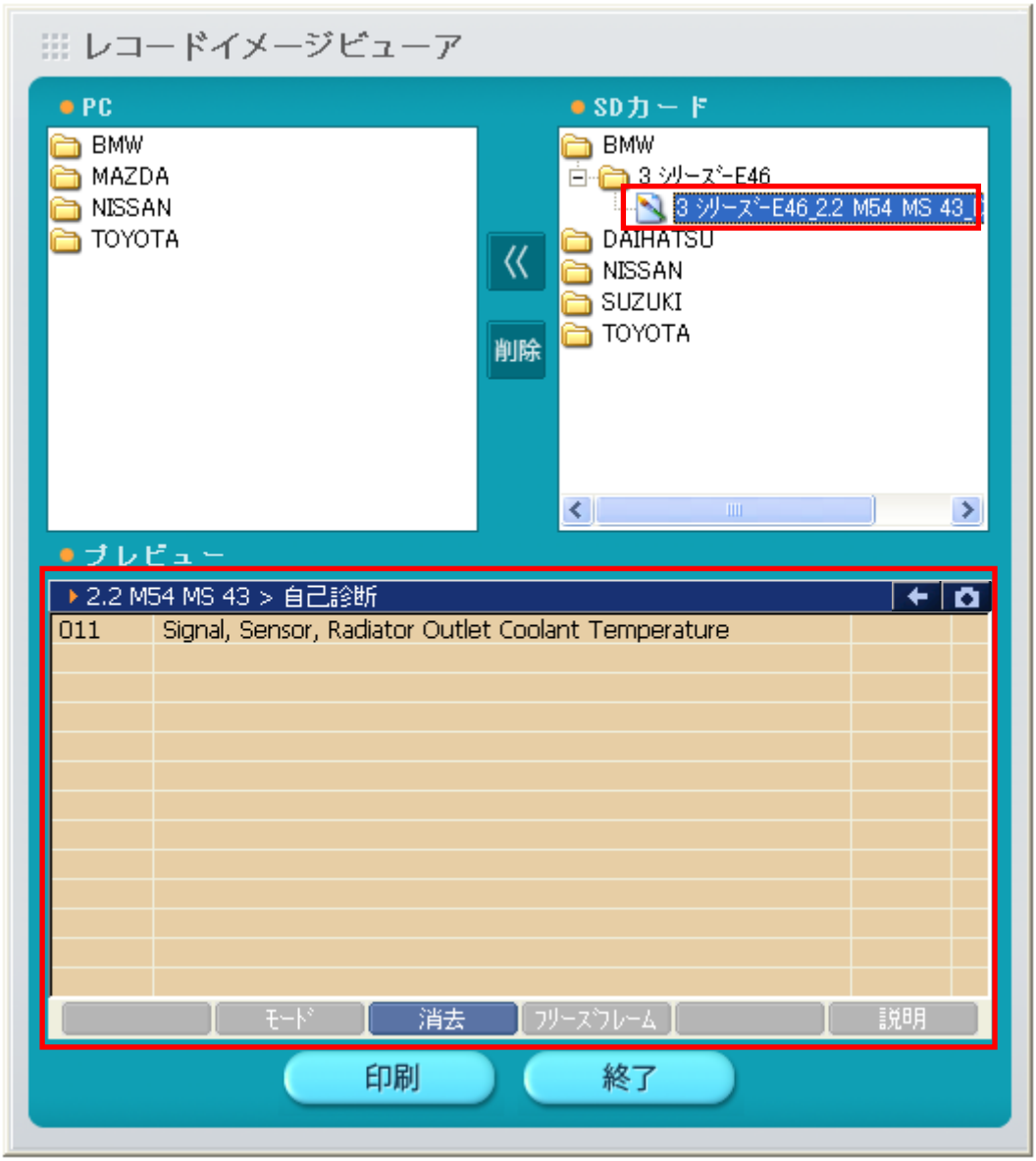


〈図：レコードイメージビューア画面〉

①	PC	PC側に保存されているフォルダ、ファイルを表示しています。
②		SDカード側に保存されているフォルダ、ファイルをPC側にコピーします。【詳細はP96を参照】
		フォルダ、ファイルを削除する際に使用します。【詳細はP98を参照】
③	SDカード	SDカード側に保存されているフォルダ、ファイルを表示しています。
④	プレビュー	選択した画像データが表示されます。【詳細はP95を参照】
⑤		プレビューに表示した画像データを印刷する際に使用します。
⑥		レコードイメージビューアを終了します。

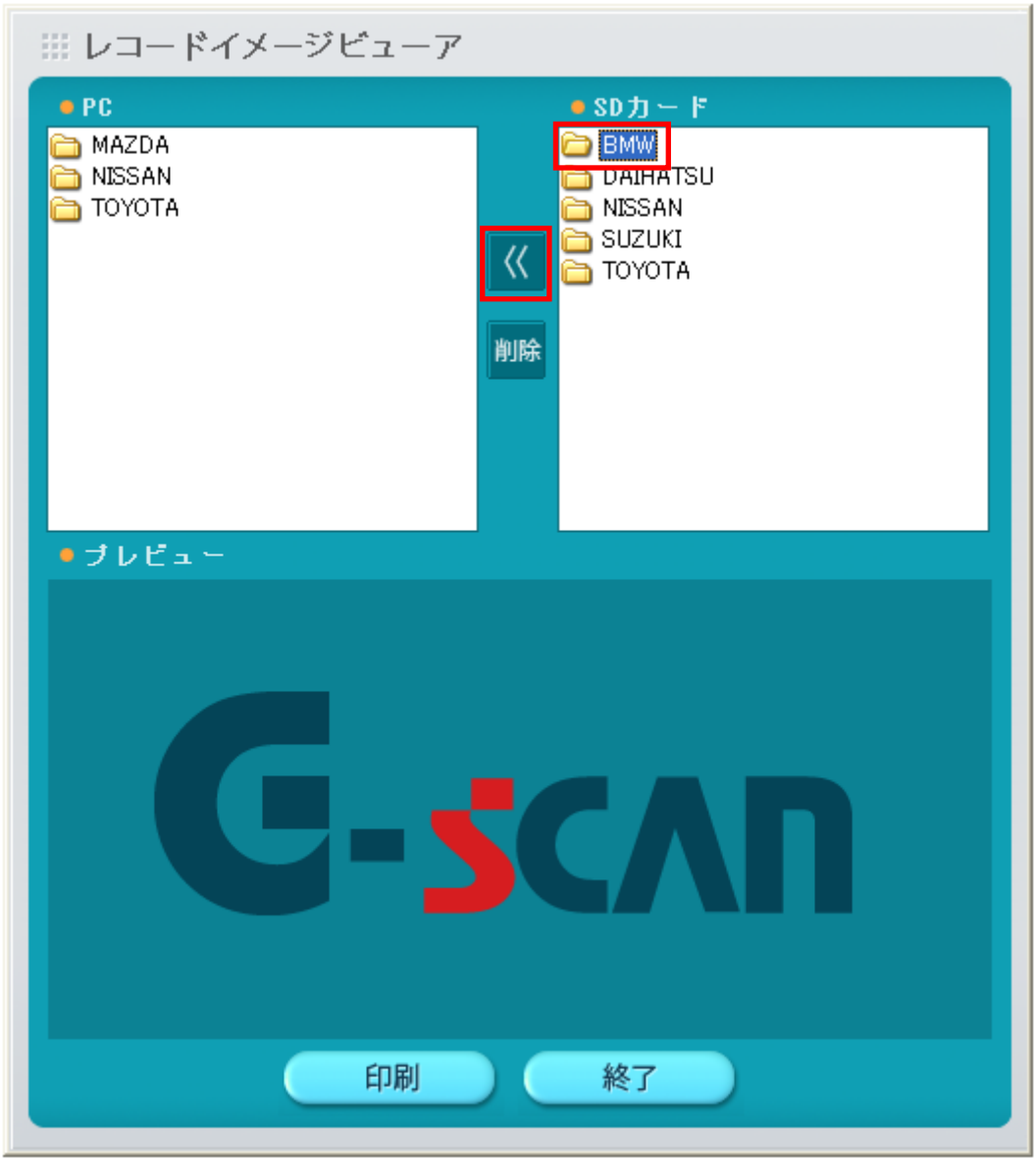
4）PC、又はSDカードから表示するファイルを選択してください。

選択したファイルの画像データがプレビューに表示されます。



〈図：画像データの表示〉

5）SDカードからPCへフォルダ、ファイルをコピーする場合は、SDカードのフォルダ、又はファイルを選択して 《 ボタンをクリックしてください。



〈図：SDカード→PCへの保存〉

6）PCに選択したフォルダ、ファイルが保存されます。

〈図：SDカード→PCへの保存完了〉

7）フォルダ、ファイルを削除する場合は、削除するフォルダ、又はファイルを選択して 削除 ボタンをクリックしてください。

〈図：フォルダ、ファイルの削除〉

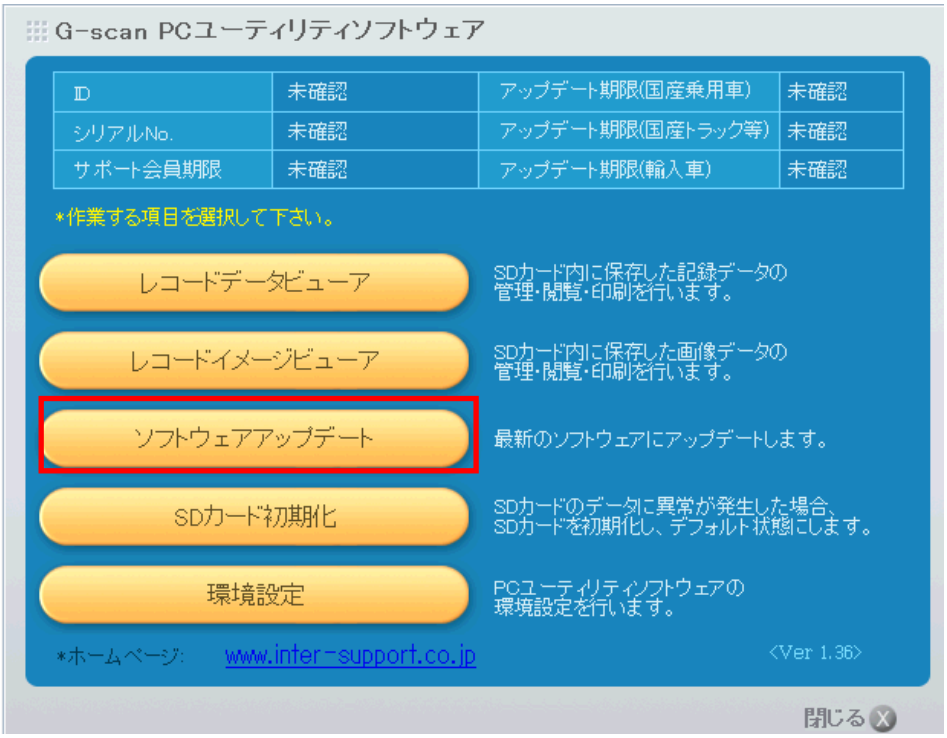
8）以下の画面が表示されます。よろしければ『OK』ボタンをクリックして選択したフォルダ、又はファイルを削除してください。

〈図：フォルダ、ファイルの削除確認〉

ソフトウェアアップデート

PCユーティリティソフトウェア

1）ソフトウェアアップデートではG-scanのソフトウェアを最新のソフトウェアにアップデートします。PCユーティリティソフトウェアメイン画面において『ソフトウェアアップデート』をクリックしてください。

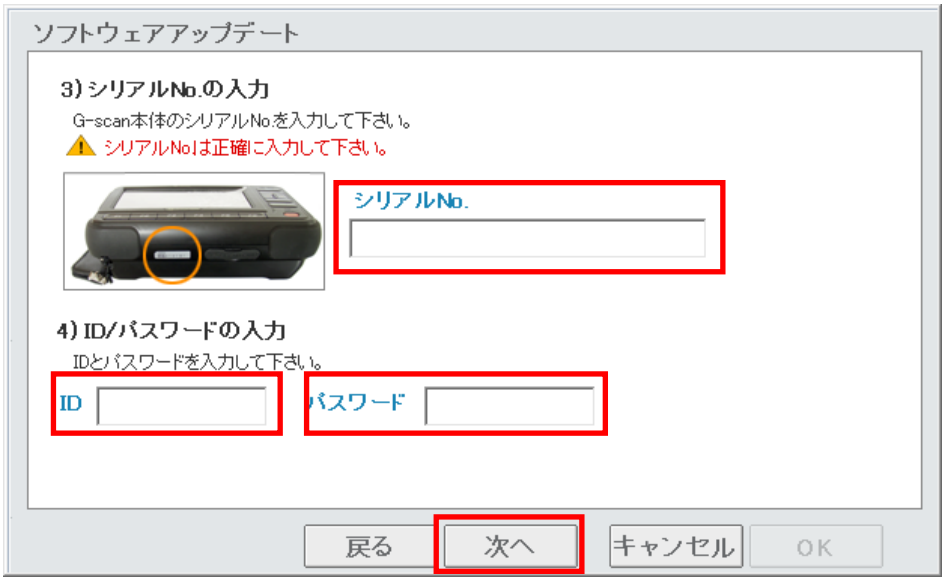


〈図：ソフトウェアアップデートの選択〉

2）以下の画面が表示されます。画面の指示に従ってG-scan本体からSDカードを取り出し、PCへ接続してください。PCがSDカードを正常に認識したら、『次へ』ボタンをクリックしてください。

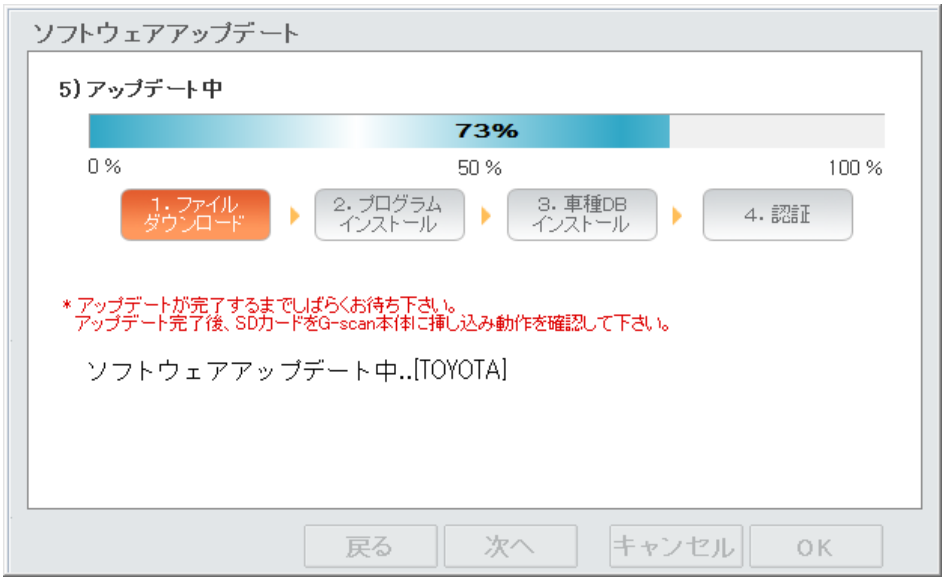
〈図：SDカードの接続〉

3）以下の画面が表示されます。シリアルNo.、ID、パスワードを入力して『次へ』ボタンをクリックください。尚、ID、パスワードは購入時にユーザ登録したID、パスワードを入力してください。



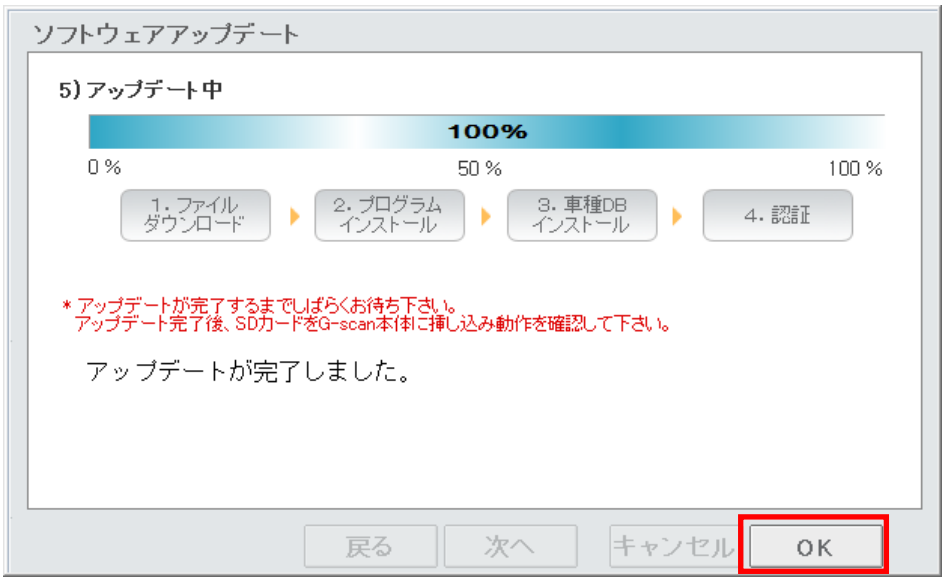
〈図：シリアルNo.、ID、パスワードの入力〉

4）以下の画面が表示され、ソフトウェアアップデートが開始されます。



〈図：ソフトウェアアップデート開始〉

5）ソフトウェアアップデートが完了すると以下の画面が表示されます。『OK』ボタンをクリックしてソフトウェアアップデートを終了してください。尚、ソフトウェアアップデート完了後はSDカードをG-scanに挿し込み、動作確認を行ってください。



〈図：ソフトウェアアップデート完了〉

SDカード初期化

PCユーティリティソフトウェア

SDカード初期化する前に、必ず以下の内容を確認してください。

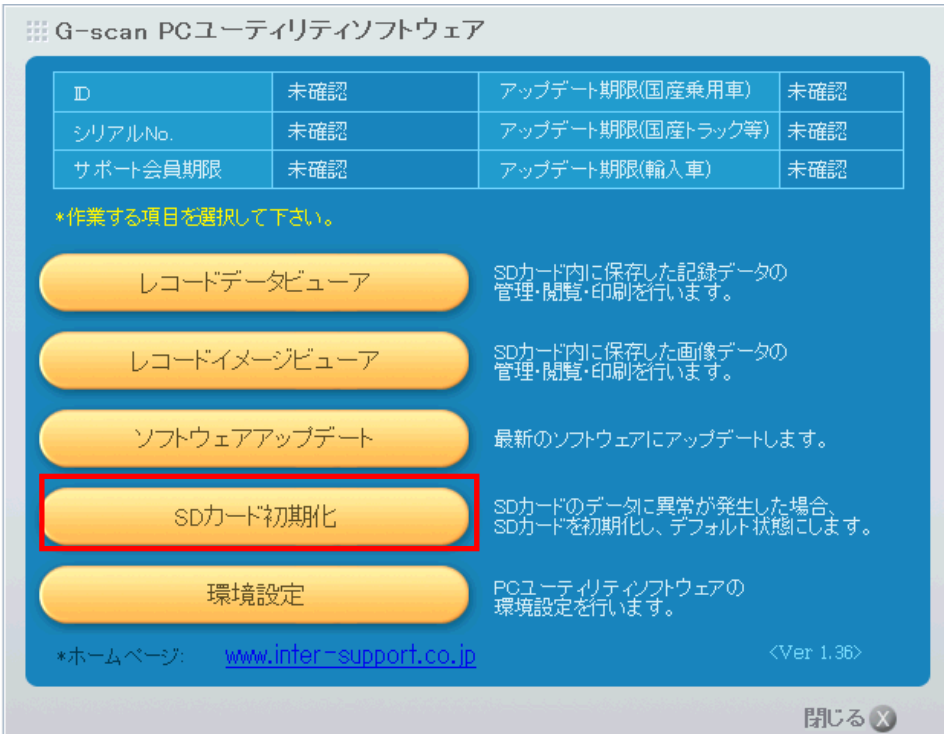
1）G-scan本体のリセット

G-scan本体の電源がONの状態で、G-scan本体下部のリセットボタンをタッチペンで押してください。
再度、G-scan本体の電源をONにして動作を確認してください。
異常が解消された場合はSDカード初期化の必要はありません。

2）G-scan本体のリセット

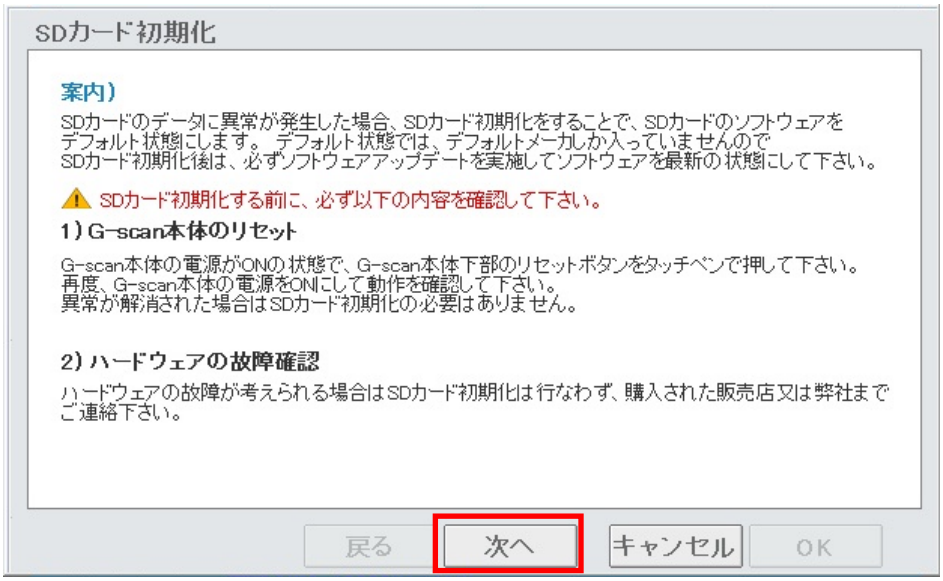
ハードウェアの故障が考えられる場合、SDカード初期化は行なわず、購入された販売店又は弊社製品保守センターまでご連絡ください。

1）SDカード初期化ではSDカード内のデータに異常が発生した場合、SDカードのソフトウェアをデフォルト状態にします。PCユーティリティソフトウェアメイン画面において『SDカード初期化』をクリックしてください。



〈図：SDカード初期化の選択〉

2）以下の画面が表示されます。内容を確認してよろしければ『次へ』ボタンをクリックしてください。

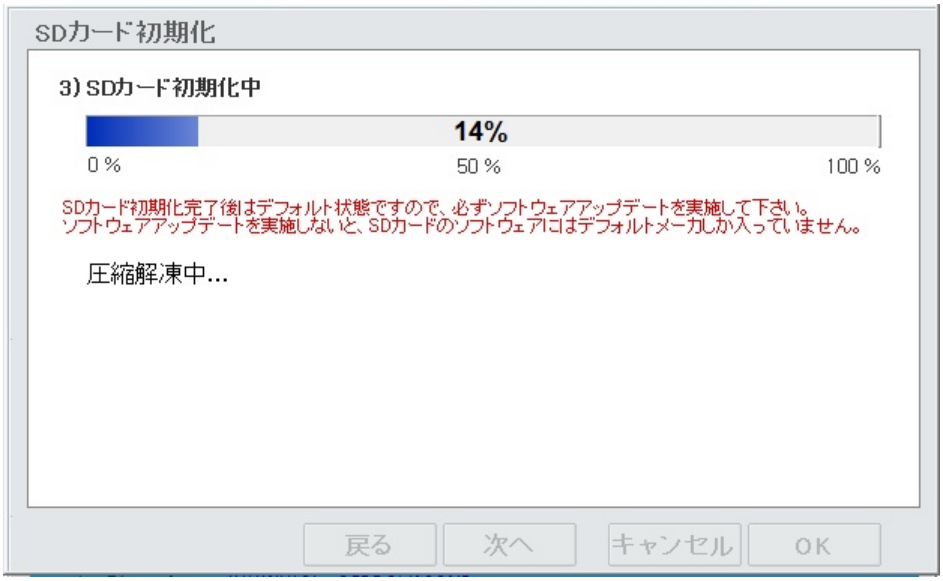


〈図：SDカード初期化画面〉

3）以下の画面が表示されます。画面の指示に従ってG-scan本体からSDカードを取り出し、PCへ接続してください。PCがSDカードを正常に認識したら、『次へ』ボタンをクリックしてください。

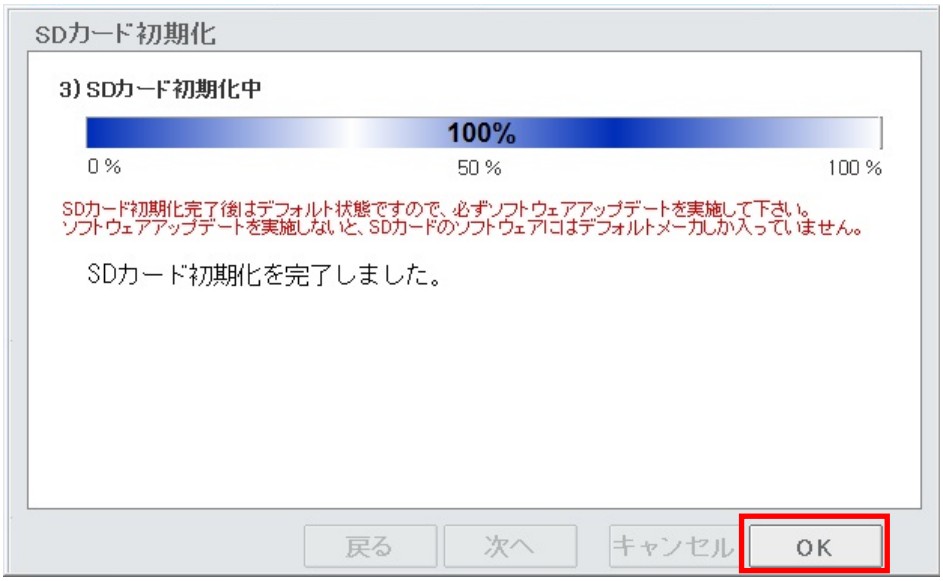
〈図：SDカードの接続〉

4）SDカード初期化が開始され、以下の画面が表示されます。



〈図：SDカード初期化開始〉

5）SDカード初期化が完了すると以下の画面が表示されます。『OK』ボタンをクリックしてSDカード初期化を終了してください。



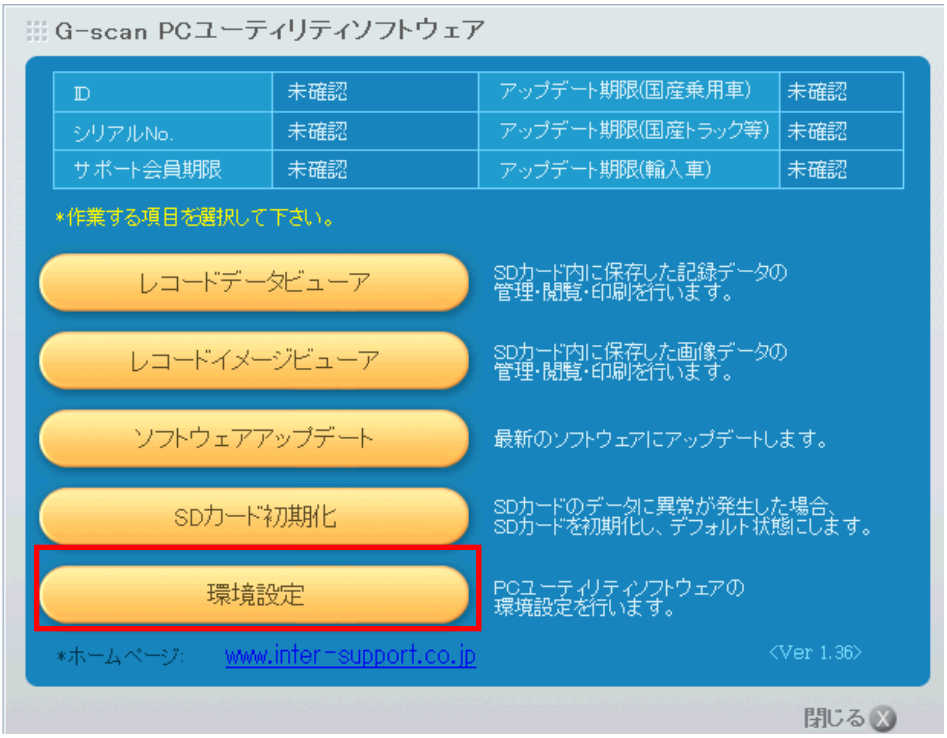
〈図：SDカード初期化完了〉

※注意と補足※

- SDカード初期化完了後のデフォルト状態ですので、必ずソフトウェアアップデートを実施してソフトウェアを最新の状態にしてください。ソフトウェアアップデートを実施しないと、SDカードのソフトウェアにはデフォルトメーカしか入っていません。

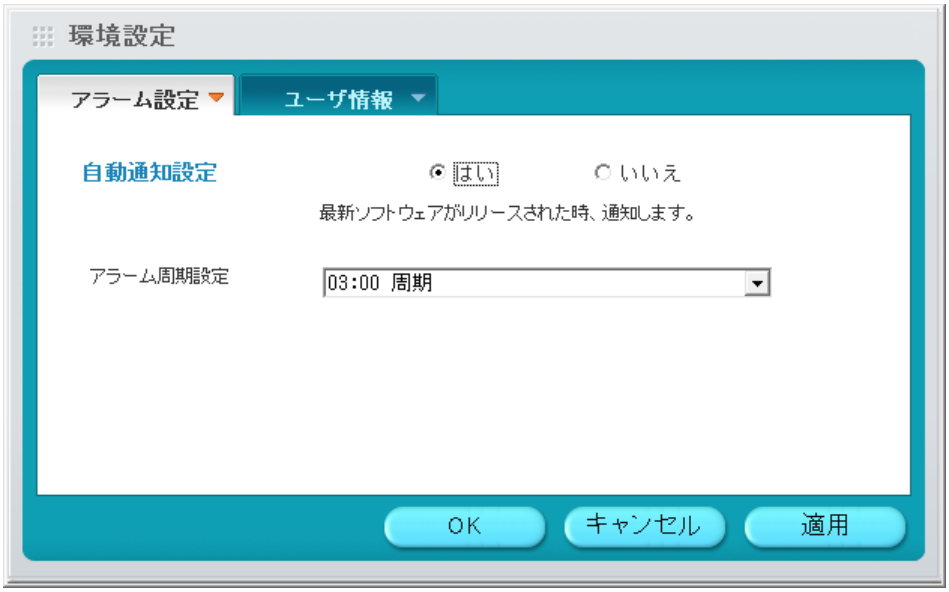
環境設定

1）環境設定ではPCユーティリティソフトウェアの環境設定を行ないます。
アラーム設定、ユーザ情報設定を行なうことができます。
PCユーティリティソフトウェアメイン画面において『環境設定』をクリックしてください。



〈図：環境設定の選択〉

2）以下の画面が表示されます。



〈図：環境設定画面〉

アラーム設定 ： 最新のG-scanソフトウェア、PCユーティリティソフトウェアがリリースされた時、PCへの通知、非通知を設定します。
【詳細はP109を参照】

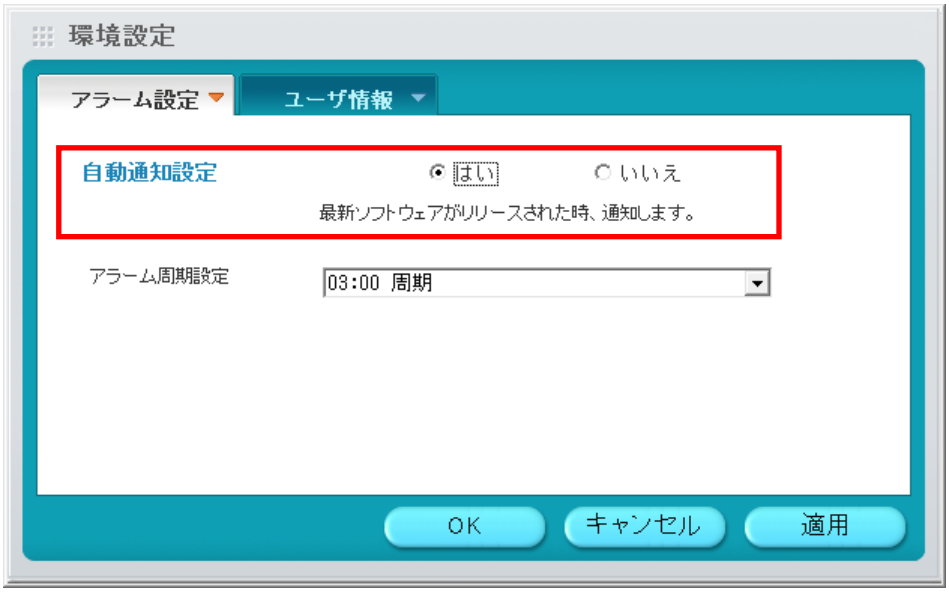
ユーザ情報 ： ユーザ情報を設定します。
ID、シリアルNo.を設定することで、G-scanソフトウェアのアップデート期限を表示することができます。
【詳細はP111を参照】

■ アラーム設定詳細

① 自動通知設定を設定します。

『はい』を選択すると最新のG-scanソフトウェア、PCユーティリティソフトウェアがリリースされた時、PCへ通知します。

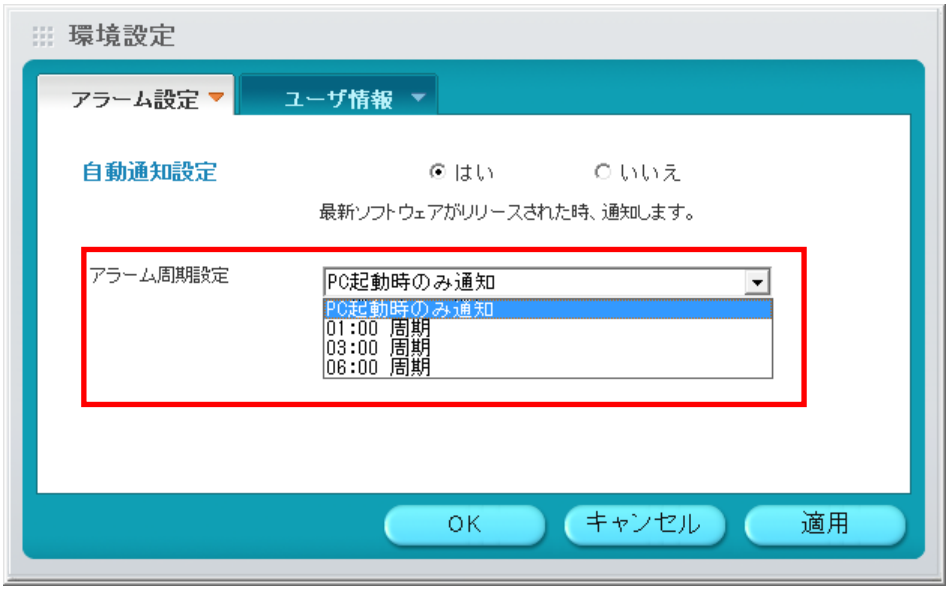
『いいえ』を選択すると最新のG-scanソフトウェア、PCユーティリティソフトウェアがリリースされても、PCへ通知しません。



〈図：自動通知設定の選択〉

② 『はい』を選択した場合のみ、アラーム周期設定を行ないます。

通知する周期を選択してください。



〈図:アラーム周期設定の選択〉

PC起動時のみ通知 ： PC起動時の1回のみ通知します。

01:00 周期 1時間周期で通知します。

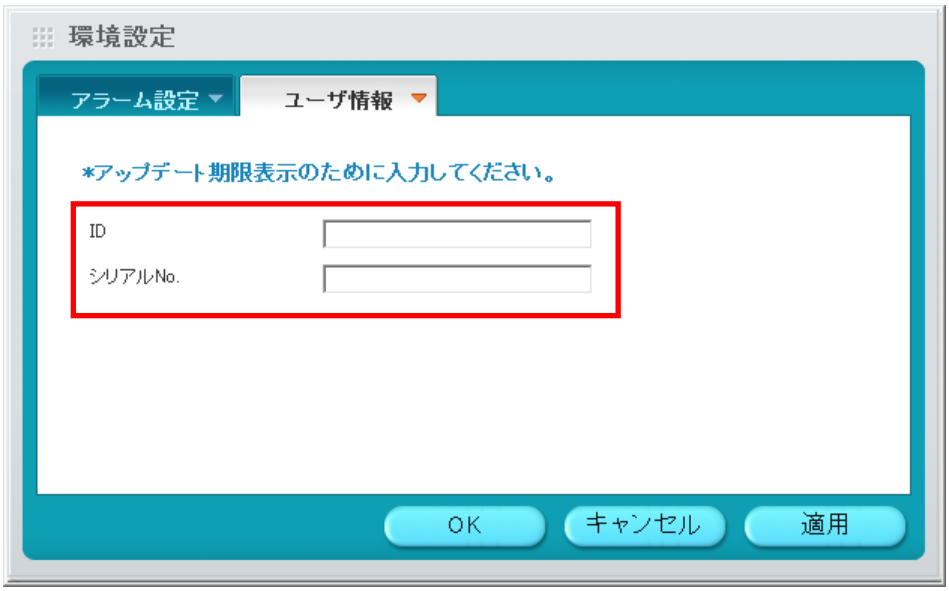
03:00 周期 3時間周期で通知します。

06:00 周期 6時間周期で通知します。

③ 『OK』ボタンまたは、『適用』ボタンをクリックして設定を有効にしてください。

■ ユーザ情報詳細

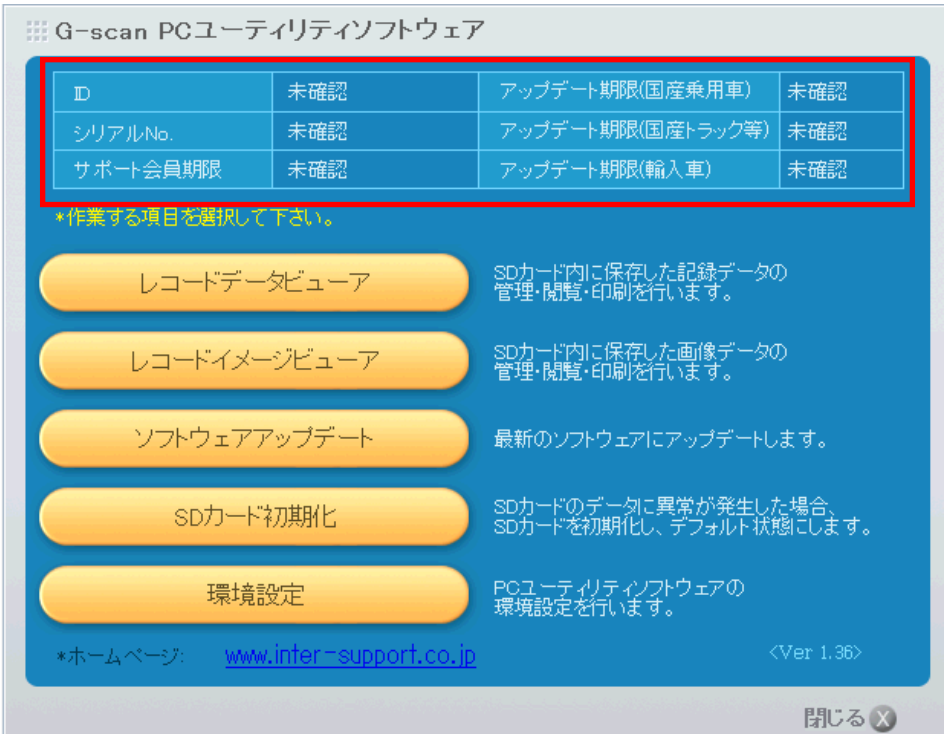
① ID、シリアルNo.を入力してください。入力するID、シリアルNo.は購入時にユーザ登録したID、シリアルNo.を入力してください。



〈図:ユーザ情報の入力〉

② ID、シリアルNo.入力後、『OK』ボタンまたは、『適用』ボタンをクリックして設定を有効にしてください。

③ ユーザ情報設定後、PCユーティリティソフトウェアメイン画面にID、シリアルNo.、サポート会員期限、アップデート期限（国産乗用車）、アップデート期限（国産トラック等）、アップデート期限（輸入車）が表示されます。



〈図：PCユーティリティソフトウェアメイン画面〉

〈図：ユーザ情報表示部分〉

※注意と補足※

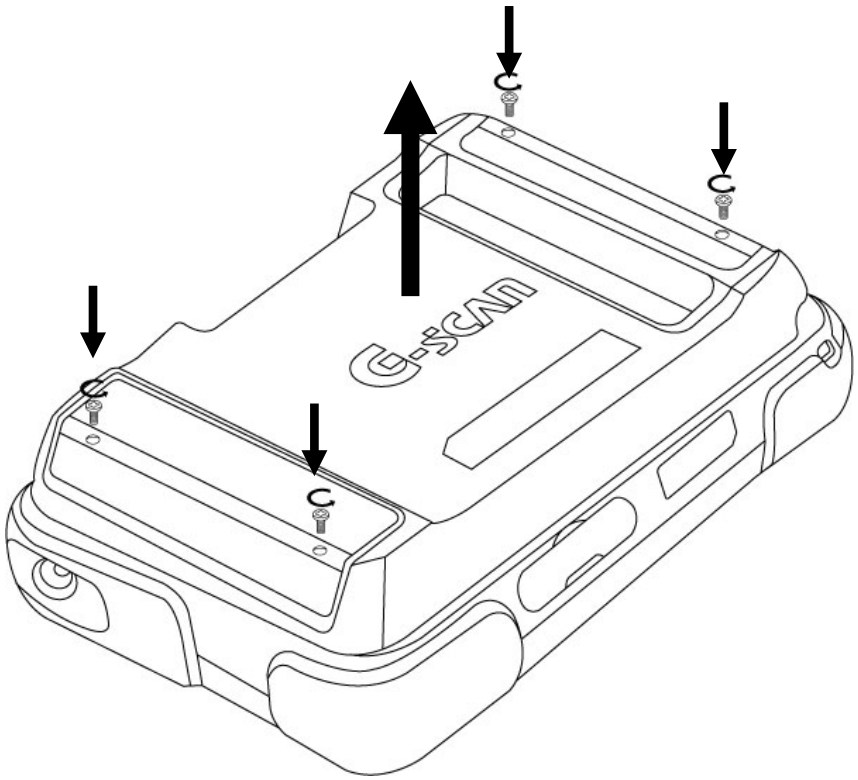
- アップデート期限（国産乗用車/国産トラック等/輸入車）または、サポート会員期限が切れている場合、期限を表示している日付のフォントが赤色で表示されます。

消耗品の交換方法

リチウムイオンバッテリ……P114
シガライタ電源ケーブルのヒューズ……P117

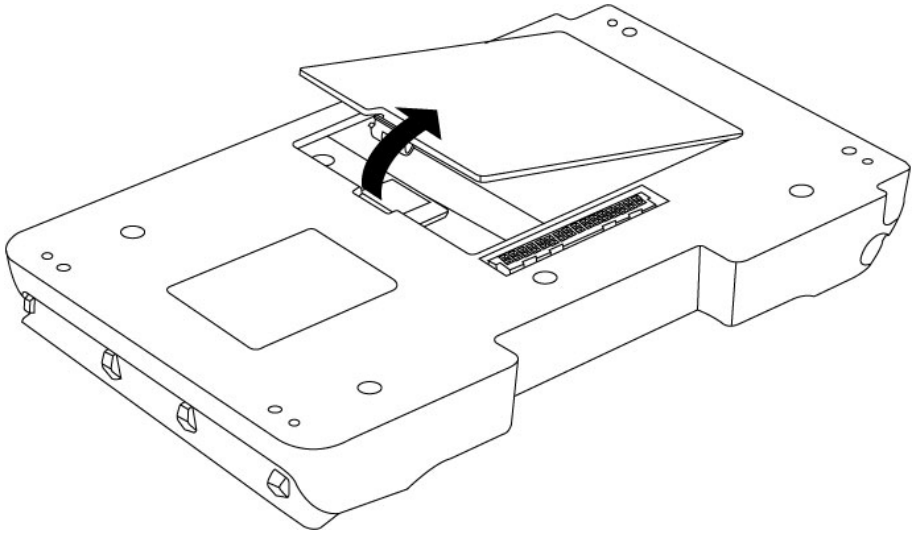
1）バッテリパックに取り付けてある4点のネジを緩めて外してください。

更に、注意しながらG-scan本体からバッテリパックを取り外してください。



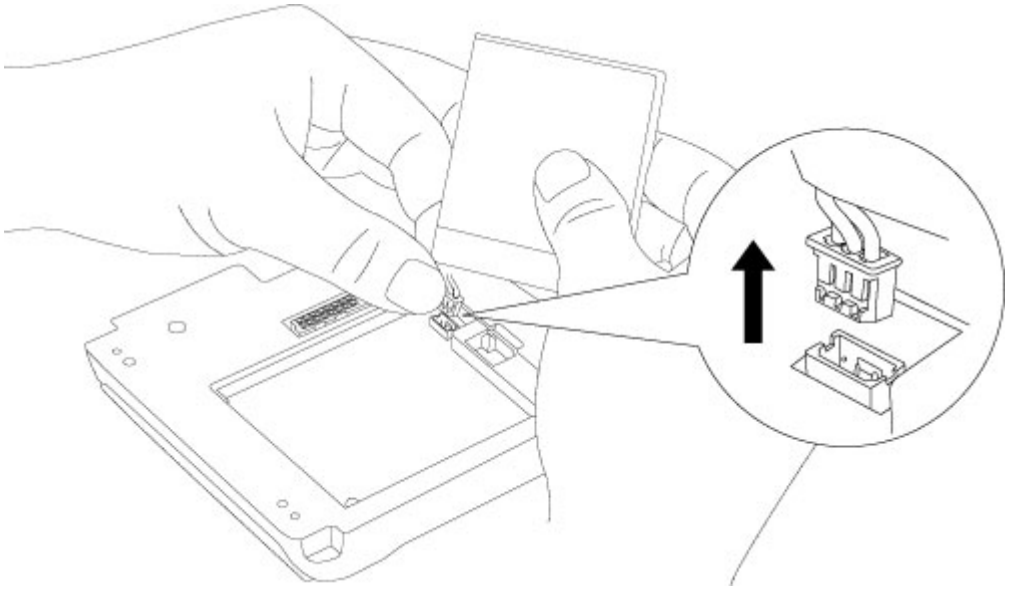
〈図：バッテリパックの取り外し〉

2) バッテリパックのバッテリカバーを開けて、リチウムイオンバッテリを取り出してください。



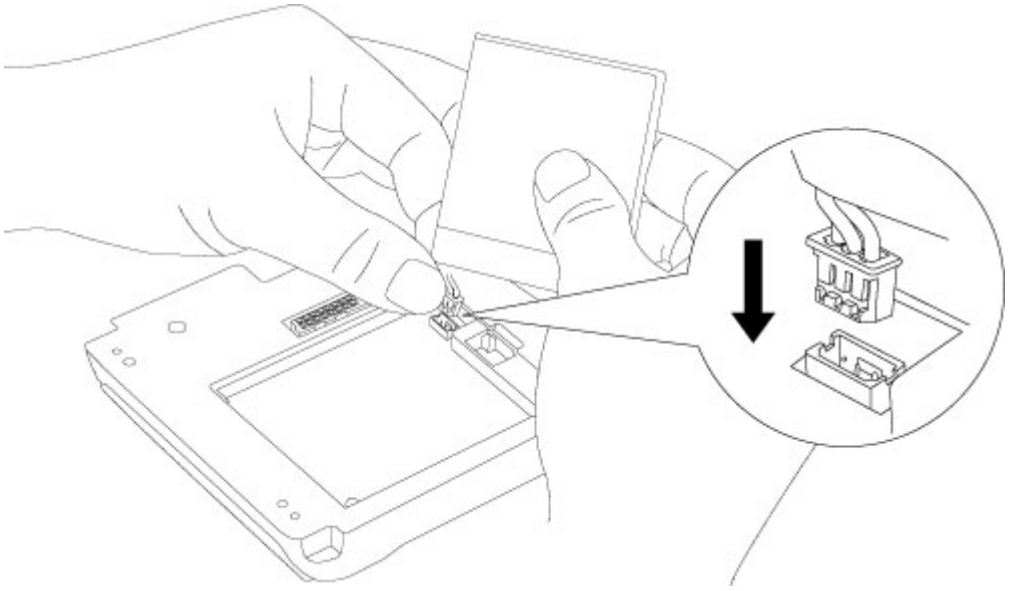
〈図：バッテリカバーの開け方〉

3) 取り出したリチウムイオンバッテリを以下のようにしてバッテリパックから取り外してください。



〈図：リチウムイオンバッテリの取り外し〉

4) 取り替える方のリチウムイオンバッテリの端子形状を確認して、向きに注意しながらバッテリパックに接続してください。



〈図:リチウムイオンバッテリの取り付け〉

5) 取り付けたリチウムイオンバッテリをバッテリパック内に入れ、バッテリカバーを閉めてください。

6) バッテリパックとG-scan本体を取り付けて取り外した4点のネジを締めてください。

注意

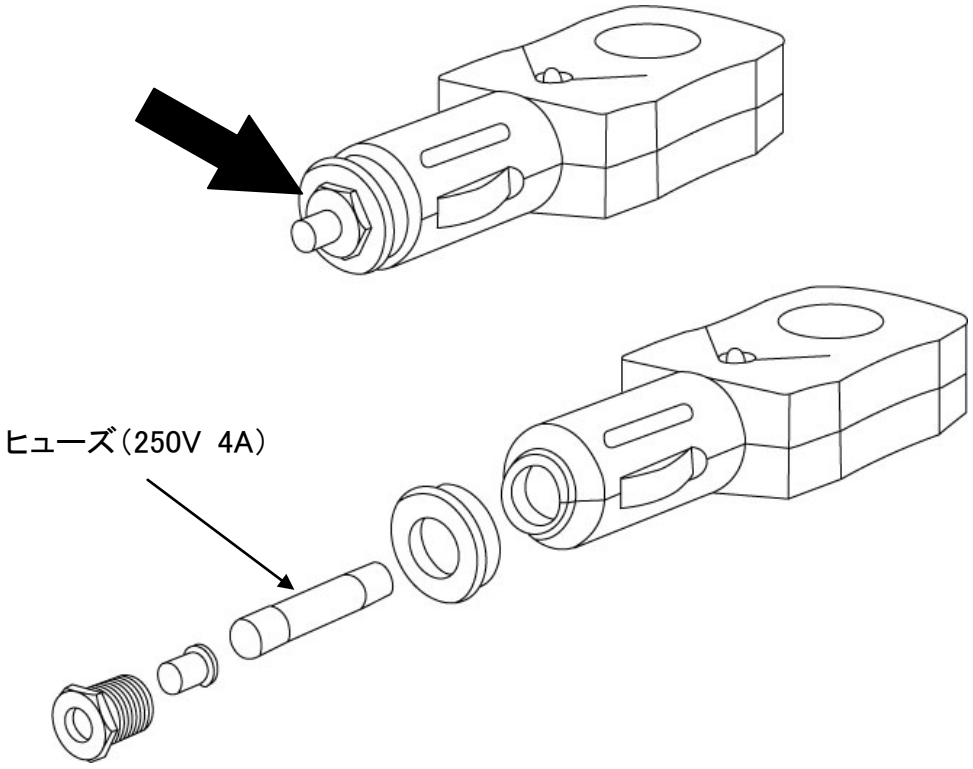
- リチウムイオンバッテリの接続方向を間違えて接続しないように注意してください。
- バッテリカバーを閉じる際にはリチウムイオンバッテリの配線が挟まらないように十分に注意してください。

シガライタ電源ケーブルのヒューズ

消耗品の交換方法

1）10mmの6角型スパナを使用して、反時計回りに回転させてください。

以下のように分解されます。



〈図：シガライタケーブルの分解方法〉

2）ヒューズ（250V 4A）を交換した後、分解とは逆の順序で組み立ててください。

株式会社 インターサポート

〒310-0836

茨城県水戸市元吉田町329-5

Tel 029-248-0616 Fax 029-248-1609

http://www.inter-support.co.jp

製品保守センター

（修理のお問合せはこちら）

Tel 029-304-0185

サポートセンター

（製品のご相談・ご質問はこちら）

Tel 0570-064-737 （ナビダイヤル※）

Fax 029-304-0167

※IP電話・PHSからはご利用出来ませんので、FAXでお問い合わせください。

2013年1月発行 第17版

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。

G1PZFDN001-1-17